

文部科学省 平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」採択
高大連携による過疎地域の人材育成及び I C カードを活用したひろしまカレッジ

実 施 記 録

平成 2 0 年 1 0 月～平成 2 3 年 3 月

代 表 校：広島経済大学
取組事務局：教育ネットワーク中国

高大連携と地域の教育力

広島経済大学学長
教育ネットワーク中国副代表幹事
(戦略的大学連携委員会 委員長)

前川 功一



平成20年度から22年度にかけての3年間、戦略的大学連携支援事業として採択されたわれわれの取り組み「高大連携による過疎地域の人材育成及びICカードを活用したひろしまカレッジ」は、本年3月をもって予定の実施期間を無事終了することができた。当初の事業目的がほぼ達成されたことに代表校の責任者として安堵感を覚えるとともに、ご協力いただいた17の参加校と関係自治体、経済団体の皆さまに心より感謝申し上げたい。さらに参加校が加入している教育ネットワークの全面的なご協力にも感謝申し上げる。またこの事業を通して広島地域の大学の連携と相互間の信頼関係が一層強化されたことはこの事業の一つの成果であった。

この3年間は少子化、学生の就職難、教育予算の削減等、地方の大学を取り巻く環境はまことに厳しいものであった。また今後急速にこの環境が改善されるという見通しも立たない。その上広島地域は受験生が首都圏など他府県へ流出する傾向が強く、この地域の大学は苦境に立たされている。このような環境にあっては地域の大学はお互いにライバルであると同時に、足らざるを補い合いながら共存を図る関係でもある。この度のわれわれの取り組みは、このような困難を地域の大学が連携しながら、また高校を含む地域社会を巻き込みながら乗り越えることを企図したものであった。さらに言えば、本事業は教育を通して人材の地域への定着を図り、その先には地域社会の持続的発展をも視野に入れた遠大な企画であった。われわれとしては、本事業がこれで完結したとは考えるのではなく、むしろ今回の事業終了を、高大連携を通して地域の教育力を高めるという遠大な構想の第一歩として位置づけ、今後も継続発展させていきたい。

最後に10年後に本事業の真の成果が地域に定着し花開くことを願いつつ、もう一度ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

新しい段階に入った教育ネットワーク中国

広島修道大学学長
教育ネットワーク中国代表幹事
(戦略的大学連携運営委員会 委員長)

市川 太一



早いもので 2008 年度に採択された戦略的大学連携支援事業「高大連携による過疎地域の人材育成及び I C カードを活用したひろしまカレッジ」も、この 3 月で終了します。

戦略的大学連携支援事業は、全国大学コンソーシアム協議会のフォーラムが広島修道大学で開催された 2007 年 9 月に、文部科学省の担当者から聞くことができました。フォーラム終了後、いち早く勉強会を開き構想を固めていったことが採択につながったと思います。応募締め切り直前の 2 カ月間には、応募書類を何度も書き直し、いくつかの大学に何度か足を運んで、ようやく 18 大学が参加して申請することができました。

戦略的大学連携支援事業は「高大連携による過疎地域の人材育成」と「I C カードを活用したひろしまカレッジ」の 2 つの柱からなります。前者の新しい取り組みは三次、庄原格致、向原、日彰館の 4 高校を対象にした遠隔授業の実施です。遠隔授業を行う基盤が十分でなく、新たに光回線や ADSL などを使って講義をしました。総計 33 講座を開き、受講した高校生数は 467 名になりました。高校からは高い評価をいただきました。次年度からは経費の問題もあり 2 校で実施します。中山間地域においてこそ、地方公共団体は情報基盤を整備すべきではないでしょうか。

もう一つの柱は I C カード受講証を使った生涯学習講座です。I C カードの使用によって、一人の受講生がいくつかの講座に登録をしていることがわかったり、講座ごとに受講生の年代も把握できるようになりました。2010 年度末でひろしまカレッジには約 3,787 名の登録がありました。来年度からは広島銀行が発行する『〈ひろぎん〉PASPY』、中国新聞社発行が発行する『P タッチカード(おサイフケータイ)』、広島県交通系 I C カード『PASPY (パスピー)』などの I C カードも受講証として利用できるようになります。企業との連携が成果です。

これらの事業は、文部科学省の事業に採択されなければ経費のかかる事業のため実施されなかったでしょう。この事業を通じて、教育ネットワーク中国は質的に異なった段階に入りつつあります。

代表校を引き受けていただいた広島経済大学の石田理事長と前川学長にお礼を申し上げます。広島県や広島市、備北地区の高校、戦略的大学連携運営委員会のメンバー、この事業に参加して下さった多くの教職員、そして事務局のみなさんに感謝します。ありがとうございました。

目 次

【巻頭挨拶】戦略的大学連携委員長 戦略的大学連携代表校学長 挨拶

戦略的大学連携運営委員長 教育ネットワーク中国代表幹事 挨拶

平成20年度「戦略的大学連携支援事業」申請書

第1章 連携取組概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

1. 連携取組の趣旨・目的
2. 連携取組の内容
3. 取組概要図
4. 組織図
5. 年次計画

第2章 組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

1. 運営体制
2. 各種委員会
3. 評価体制

第3章 高大連携による過疎地域の人材育成・・・・・・・・・・23

戦略的大学連携運営委員 高大連携担当挨拶

戦略的大学連携運営委員 遠隔授業担当挨拶

1. 中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」
 - ・中高大連携公開講座
 - ・キャリア講座「大学卒業後の進路」
 - ・進学・進路相談
 - ・保護者対象講座
2. 高大連携公開授業(大学正規の授業)・公開授業(高校生のための講座)
 - ・公開講座A「大学入門」・公開講座B「大学で学ぼう」バス運行
 - ・大学へ行こうウィーク
3. キャリア講座
 - (1) 地域で生きる若者のためのキャリア講座
 - (2) キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ1
 - (3) キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ2

- 4. 高大連携遠隔授業
- 5. 高大連携研究交流会

第4章 I Cカードを活用したひろしまカレッジ・・・・・・・・・・107

戦略的大学連携運営委員 生涯学習担当挨拶

戦略的大学連携運営委員 I Cカード担当挨拶

- 1. ひろしまカレッジ受講システム
- 2. ひろしまカレッジ連携公開講座
- 3. ひろしまカレッジメールマガジン
- 4. ひろしまカレッジフォーラム
- 5. ひろしまカレッジ交流会
- 6. ひろしまカレッジ連絡会
- 7. 広島学情報交換会
- 8. 企業連携
 - (1) 市民公開講座「ひろしまカレッジ」とちゅーピークラブの連携
 - (2) I Cカード受講証の多様化
 - (3) その他の連携

第5章 戦略的大学連携通信／教育ネットメルマガ・・・・・・・・・・135

【別添 1】

(様式 1)

大学等番号

5 0 3

平成 20 年度「戦略的大学連携支援事業」申請書

1. 基本情報

申請区分	1・① 総合的連携型(地元型) 1・② 総合的連携型(広域型) 2 教育研究高度化型		
設置形態	1 国立 2 公立 3 私立	地域	中国・四国(広島)
代表校名	広島経済大学		
連携校名	広島大学(1)・島根県立大学(2)・県立広島大学(2)・エリザベト音楽大学(3) 比治山大学(3)・広島工業大学(3)・広島国際大学(3)・広島国際学院大学(3) 広島修道大学(3)・広島女学院大学(3)・広島文教女子大学(3) 安田女子大学(3)・山陽女子短期大学(3)・鈴峯女子短期大学(3) 比治山大学短期大学部(3)・広島文化短期大学(3)・安田女子短期大学(3)		
関係自治体・経済団体等名	広島市、広島県教育委員会、三次市教育委員会、庄原市教育委員会、安芸高田市教育委員会、 広島県公立高等学校長協会三次地区校長会(12高校)、広島県立生涯学習センター、財団法人ひと・まちネットワーク、まちづくり市民交流プラザ、中国新聞社、教育ネットワーク中国		
他の申請への参加状況	大学等名	他に参加する取組名称、代表校名	

事業期間	平成 20 年度 ～ 22 年度 (3 年間)																			
取組名称 (40字以内)	高	大	連	携	に	よ	る	過	疎	地	域	の	人	材	育	成	及	び	I	C
	カ	ー	ド	を	活	用	し	た	ひ	ろ	し	ま	カ	レ	ッ	ジ				
キーワード 〔重要度の高い順に5つ以内〕	過疎地域、高齢社会、高大連携、生涯学習、I C カード受講証																			

連携取組の概要(*400字以内)

教育ネットワーク中国を構成する主な大学短大が当該地区の高校、広島県・広島市・三次市・庄原市・安芸高田市教育委員会などと連携し、過疎地域や高齢社会の到来という社会的課題に取り組み、本申請を通じて大学連携事業の高度化を図ることを目的としている。第1に、大学が1つしかない過疎地域の高校を対象に大学進学意欲を高めるために、より高度な学習機会を提供する(高大連携)。大学での学びや卒業後の地域での働き方や保護者を対象とした出前講座や遠隔授業を行い、高校生は各大学に行っても講義を受ける。第2に、I C カード受講証を活用した生涯学習講座を提供する。教養型講座に加え、課題解決型講座の開設によって高齢者の生きがいと社会参加を図っていく。今後急速に高齢者が増加し講座受講者が増加していく事態に対応するために講座を増やし体系化していき、受講者の学習履歴を残し受講証明書を発行するためにI C カード受講証を活用していく。【399】

第1章

連携取組概要

1

連携取組の趣旨・目的

(1)趣旨・目的

①過疎地域に指定されている広島県三次市、庄原市、安芸高田市にある高校の人材育成のために、より高度な学習機会を提供し、大学進学意欲を向上させ、将来地元に戻って働く意識を涵養するために高大連携事業を展開する。大学と高校の距離があるために、IT技術を利用した遠隔授業を行なう(『教育振興基本計画について』の基本的方向3①高校と大学等の接続の円滑化に対応)。

②生涯学習機会を拡大し、社会参加型・課題解決型講座の開講、講座内容の多様化を図って、ひろしまカレッジを開設する。講座の受講履歴や修了要件などを確認するために、ICカード受講証を活用する(『教育振興基本計画について』の基本的方向3④生涯を通じて大学等で学べる環境づくりに対応)。

③本事業の実施を通じて大学地域コンソーシアムの事業の質的な高度化を図る。

(2)社会的な要請等を踏まえた連携取組の必要性及びその背景について

①緊急性・当該地域における課題とその対応

広島県の年少人口(0～14歳)、高齢者人口(65歳以上)の将来推計は表1のとおりである。

表1 広島県における年少人口と高齢者人口 (単位千人)

	平成17年	22年	27年	32年
年少人口	405	376	335	293
高齢者人口	603	685	786	828
総人口	2,877	2,842	2,784	2,706

平成17年から32年の15年間に年齢階級別に見ると、年少人口は72%の減少に対して高齢者人口は137%増加である。少子化と高齢化が進む中、どのように地域社会を活性化していくのが急務となっている。

本申請は少子化が一因となって生まれる過疎化と高齢化の進展という緊急の課題に対して、以下の2つの事業によって対応する。

第1の事業は「高大連携による過疎地域の人材育成」である。

本事業の対象地域となっている三次市、庄原市、安芸高田市はいずれも「過疎地域自立促進特別措置法(平成12年)」に指定されている。例えば、この地域の1つである庄原市は平成27年の人口を35,964人と推計している。平成17年43,149人に比べると10年間に人口が17%減る。

本事業の対象地域では大学進学率も低い。三次市50.5%、庄原市43.3%、安芸高田市33.2%である(因みに広島県の進学率の平均は57.9%)。地元の高校進学率は低い。このような地域に対して大学が連携して、高校生により高度な学習機会を提供し、大学進学意欲を向上させ、将来地元に戻って働く意識を涵養するための事業を行なう。あわせて過疎地域にある魅力ある高校づくりに貢献する。

第2の事業は「ICカード受講証を活用したひろしまカレッジ」である。

高齢者は団塊の世代が65歳に達する平成24年には毎年100万人ずつ増加していく(「日本の将来推計」)。内閣府の「生涯学習に関する世論調査」(17年)によれば、生涯学習をしてみたいと答えた60～69歳の人が61.9%もいて、高齢社会の到来を迎え、生涯学習の必要性がますます高まっている。

現在よりも提供講座数を倍増し、教養型に加え課題解決型講座の開講(例えば「高齢者に優しいまちづくり講座」「孫と学ぶ環境に優しいライフスタイル講座」)などによって高齢者の

生きがいや社会参加を図っていく。あわせて、生涯学習講座の内容を多様化する(例えば「これからの教師像」「教員免許再更新講習会」)。生涯学習講座の体系化、受講履歴、修了証の発行、事務の効率化、受講者の認証などのためにＩＣカード受講証を活用する。携帯電話を使って講座の情報を定期的に配信し、パソコンが苦手の高齢者の便宜を図る。

(3)大学間連携により得られる教育研究効果及び地域社会への影響、効果等について

①大学間連携の意義

2つの事業に共通して言えることは、1大学だけでは実施できない事業であっても、大学・高校・行政機関・企業が連携すれば、高校生や社会人により多彩で豊富なメニューを提供できる点にある。受講する側からみると、自分の関心や学力にあった講義や講座を選ぶことができる。

人口減少・高齢社会が進行し、財政状況が厳しくなる状況にあっては、分野の異なった組織がそれぞれもっている資源を少しずつ提供して大きな事業をすることができる連携方式は意義がある。この連携によって、現在失われてしまった地域社会のつながりを新しくつくることができる。

②高校、大学、地域社会にとっての効果と影響

a. 高大連携による過疎地域の人材育成

高校生にはより高度な学習機会を提供し、大学進学意欲を向上させ、将来の進路を考える機会をつくることができる。大学には大学へ入学してくる高校生の学力や状況を共有でき、地域の大学などへの親しみを持ってもらえ、地域社会には将来、地元に戻って働く人材を確保できる効果が見込める。

b. ＩＣカード受講証を活用した「ひろしまカレッジ」

教育ネットワーク中国の生涯学習講座には50代以上の受講者が多く教養型講座も関心が高いので、ひきつづきこのタイプの講座も開く。さらに社会参加型・課題解決型講座も開設し、ひろしまカレッジをつくることを通じて、高齢者の生きがいと社会参加を図っていく(大学の地域貢献)。

表2 プログラム一覧

プログラム名		内 容	プログラムレベル
過疎地域の 人材育成	中高大連携公開講座	「大学で何を学ぶか」 保護者対象講座(新規)	基礎プログラム
	高大連携公開講座	公開講座A「大学入門」(新規) 公開講座B「大学で学ぼう」 大学へ行こうウィーク(8月1日～10日) バスの運行(新規)	
	高大連携遠隔授業	遠隔授業(新規)	発展プログラム
	高大連携公開授業	大学へ行こうウィーク(8月1日～10日)	
	キャリア講座	大学卒業後の進路(新規) 進学・進路相談(新規) 「地域での仕事づくり」ワークショップ (新規) 地域で生きる若者のためのキャリア講座 (新規)	

①「高大連携による過疎地域の人材育成」

過疎地域に指定されている広島県三次市、庄原市、安芸高田市にある高校の人材育成のために、より高度な学習機会を提供し、大学進学意欲を向上させ、将来地元に戻って働く意識を涵養するために高大連携事業を展開する。大学と高校の距離があるために、IT技術を利用した遠隔授業を行なう。

<基礎プログラム>

a. 中高大連携公開講座

・1年次7月に「**大学で何を学ぶか**」を受講する。3地域を合計して50-60講座を提供する。人文・社会・自然・複合の4分野から構成し、これから高校へ進学してくる中学生も受講できる。

・保護者対象講座(新規)

大学進学については保護者の考え方が大きく左右するので、大学の意義や大学生活、奨学金などを内容とする保護者を対象とした講座を開講する。

b. 高大連携公開講座

・2年次8月には大学を実際に見るために**公開講座A「大学入門」(新規)**を受講する。
・高校から大学までの距離があるために、各大学あるいは交通拠点まで**バスを運行**する。
・少なくとも90分の講義3コマから構成される**公開講座B「大学で学ぼう」**も受講できる。プログラムは、1限、2限を特定分野の講義とし、3限をキャンパス見学にあてる内容とする。

<発展プログラム>

a. 学力と意欲の高い高校生は正規の授業である**高大連携公開授業**を8月に受講する。

b. さらに希望する高校生は2つのタイプの**高大連携遠隔授業(新規)**を受講する。継続的に講義を受講できる体制をつくるためである。1つは前期・後期とも2ヶ月間開講する。50分授業4回から構成される講座を人文・社会・自然・複合の4つの学問分野別に開講する。もう1つは、本事業参加大学の県立広島大学広島キャンパスから庄原キャンパスに講座を配信し、3市から通学可能な高校生はこのキャンパスでも受講できる(「大学への早期入学及び高等学校・大学間の接続の改善に関する協議会(平成17年度～)の報告書」・文部科学省の提言への対応)。

＜キャリア講座＞

- a. 大学卒業後を視野に入れて大学選びを考えるための講座「**大学卒業後の進路**」(新規)を開く。
 - b. 3 年次には、「**進学・進路相談**」(新規)を各大学別に、中高大連携公開講座とあわせて行う。
 - c. 「地域での仕事づくり」ワークショップ(新規)
備北地域を念頭に置きながら、大学卒業後の「地域での仕事づくり」ワークショップを開催する。
 - d. 地域で生きる若者のためのキャリア講座(新規)
地域に帰って働いている若者を講師として地域社会における働き方を考える講座を開講する。
- ② I C カード受講証を活用した「**ひろしまカレッジ**」

表3 ひろしまカレッジ

プログラム名	内 容
ひろしまカレッジ	・シティカレッジ・ばれっとカレッジ (教養型講座) (課題解決、社会参加型講座)(新規) ・自大学で開講する公開講座の情報提供(新規)
	I C カード受講証の活用(新規) ひろしまカレッジ携帯メールマガジン(新規) ちゅーピーくらぶ(中国新聞社)との連携(新規) ひろしまカレッジ交流会の開催(新規)

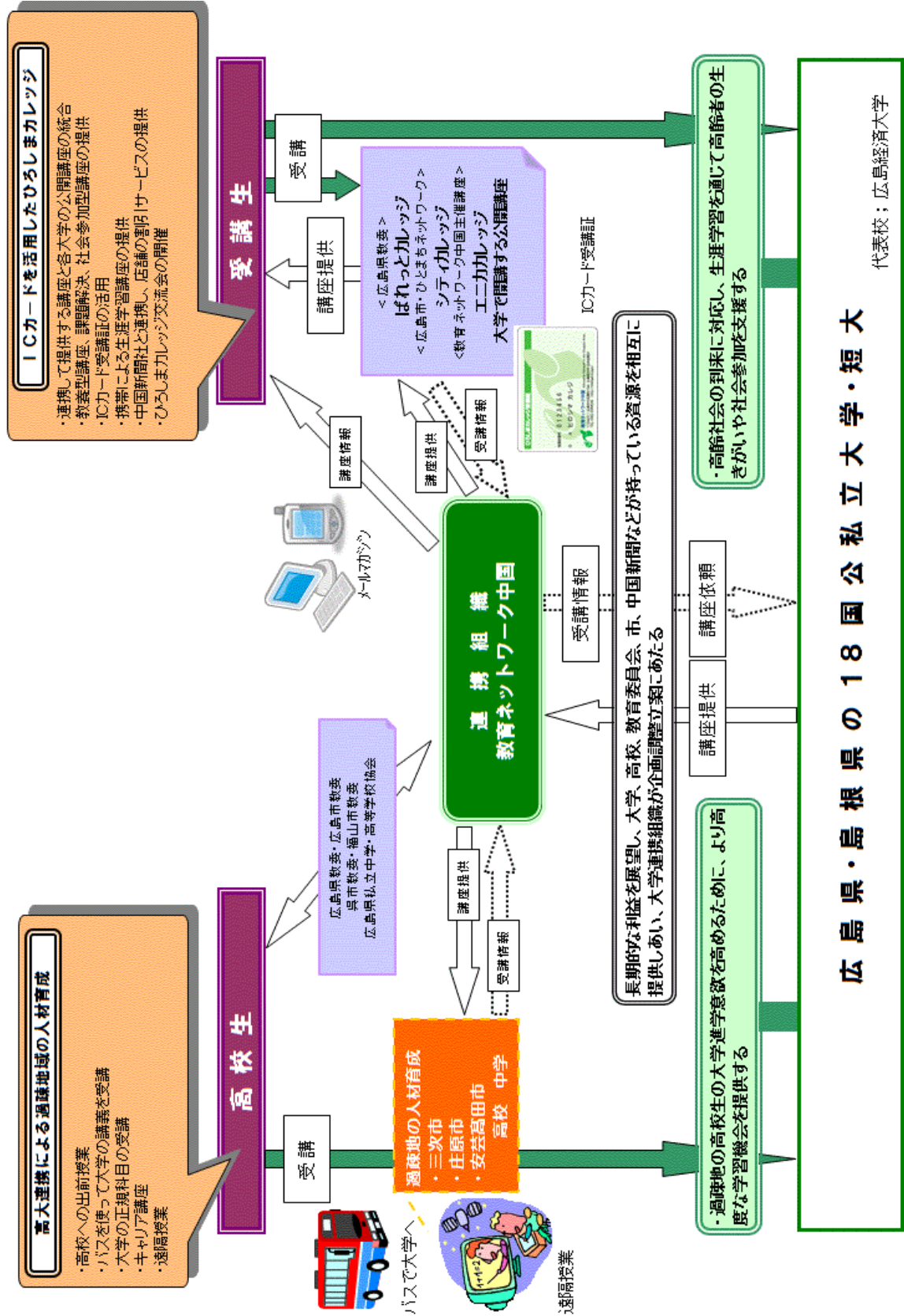
本申請校が提供している講座 20 程度に加え、各大学が自分の大学において開催している生涯学習講座 20 をあわせて提供する**ひろしまカレッジ**を開講し、メニューの多様化や講座の体系化を図っていく。

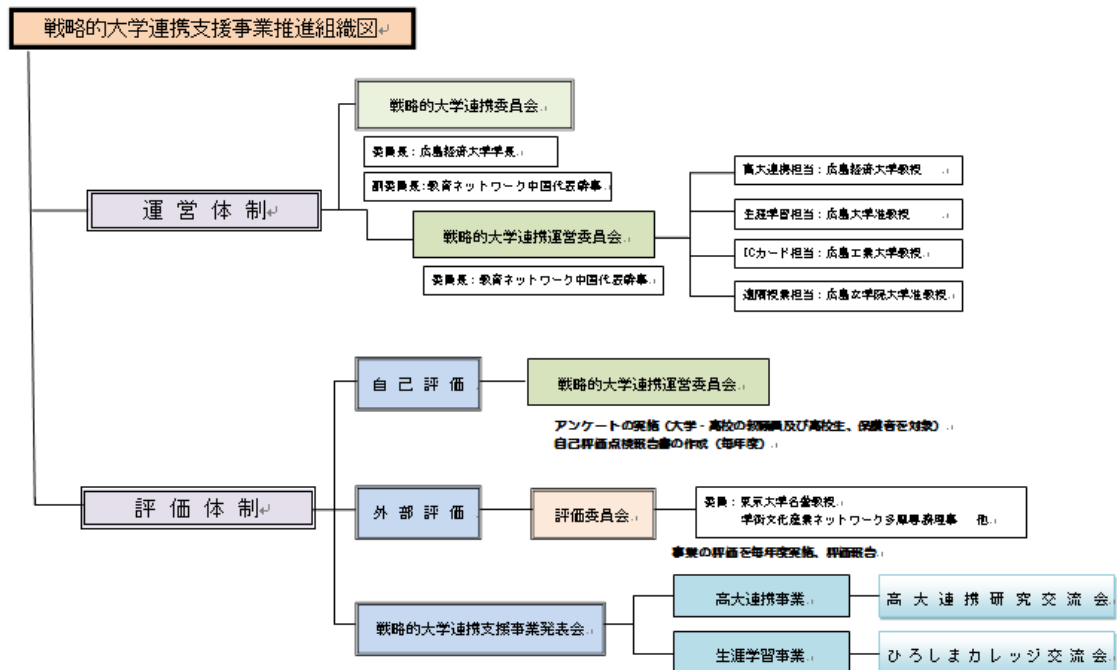
現在、登録者がすでに 1000 名を超えるので I C カード受講証を使用する。教育ネットワークでも I C カード学生証に共通領域を確保する試みを始めている。講座の受講履歴、出欠記録、成績、修了要件の確認、修了証の発行などのために I C カード受講証を使い、事務の効率化と受講者の関心などを探る。受講者は I C カード受講証を通じて何を学んだのか、確認でき、学習へのインセンティブを増すことができる。受講者、とくに年齢の高い層の受講者の便宜を考え、パソコンアドレスや携帯電話へ講座情報を開講の時期にあわせ随時配信する(**ひろしまカレッジメールマガジン**)。

「ちゅーピーくらぶ」(中国新聞社が会員の交流、地域文化の向上と地域の活性化を図ることを目的とする)と連携し、ひろしまカレッジの登録者にもこのクラブが会員に対して行う各種のサービスを受けるようにする(新規)。「ちゅーピー」との連携によって「ひろしまカレッジ」への関心を増し、講座の情報提供範囲を拡大していく。

生涯学習をしたい理由として「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」(『生涯学習に関する世論調査』)と回答した人が 2 番目に多い(39.1%)。教育ネットワークの受講者の中にも、このような声があるので、受講者同士、受講者と講師が交流できる場を作る(**ひろしまカレッジ交流会**)。

高大連携による過疎地域の人材育成及びICカードを活用したひろしまカレッジ





プログラム名	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
高大連携による過疎地域の人材育成			
☐ 中高大連携公開講座			
*「大学で何を学ぶか」(7月)	○	○	○
*保護者対象講座(7月)	○	○	○
☐ 高大連携公開講座			
*公開講座 A「大学入門」(8月)		○	○
*公開講座 B「大学で学ぼう」(8月)		○	○
*バスの運行		○	○
☐ 高大連携遠隔授業(前期、後期)		○	○
☐ 高大連携公開授業(前期、後期)		○	○
☐ キャリア講座			
*大学卒業後の進路(7月)	○	○	○
*進学・進路相談(7月)		○	○
*地域での仕事づくりワークショップ		○	○
*地域で生きる若者のためのキャリア講座		○	○
ICカードを活用したひろしまカレッジ			
シティカレッジ・ぱれっとカレッジ(A)		○	○
大学で開講する公開講座の提供 (B)		○	○
ICカード受講証(A)		○	○
ICカード受講証(B)			○
ひろしまカレッジ携帯メールマガジン		○	○
ひろしまカレッジ交流会の開催		○	○

第2章

組織体制

1

運営体制

(1)実施体制

教育ネットワーク中国は、参加している大学等が短期的に利益を得るのではなく、長期的な利益を求めるという考え方に立って実施している。社会関係資本の根幹にある互酬性という考え方である。政府及び地方公共団体の財政難や少子高齢社会が進行している時代にあつて、地域社会を構成している各組織がそれぞれ分担し連携し、相互信頼を形成し実績を積みながら事業を推進していくというのがもっともよいやり方である。

本事業への参加大学数は多く、規模も異なるので、それぞれの大学が自大学の特性に応じて参加していく方式を取る。過去、新規事業を立ち上げる際には、参加できる大学から参加する方法をとっている。当初、新事業に参加しなかった大学等も、事業が発展すれば参加するようになっていく。高大連携事業は平成14年度18大学44高校が参加して始めたが、19年度には24大学67高校が参加しているのが好例である。本ネットワーク加盟校の規模も小規模から大規模大学まであり、設置形態も私立の学校法人、公立大学法人、国立大学法人と多様な教育機関から構成されている。

ゆるやかに始め、各大学の特性に応じて展開していく方法を取っているため、今回もこの方式を取っていく。

①**代表校の役割**：事業の全体を統括する戦略的連携委員会の委員長となり、予算の大きな比重を占める事業、ICカード受講証、遠隔事業のシステム、バスの運行などを発注する。

②**連携校の役割**：中核となる中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」、シティカレッジやぱれっとカレッジ、自大学で開講する公開講座の提供などにはすべての大学・短期大学が参加する。

・高大連携公開講座「大学入門」「大学で学ぼう」各16、高大連携公開授業16、高大連携遠隔授業12、進学・進路相談17大学・短大が参加する。その他の事業については実施に必要な講師を派遣する。

③**教育ネットワーク中国の役割**：日常的な業務を審議するために本事業に参加する大学の教職員からなる戦略的連携運営委員会を置く。教育ネットワーク中国はこの運営委員会の業務、及び①に記す以外の経費の執行について業務の委託を受ける。

(2)運営体制

①全体を統括するために、本事業に参加する大学の教職員や連携する組織などからなる戦略的連携委員会を置く。「戦略的大学連携支援事業」の代表校の学長が委員長となって、各年度における主な事業計画などについて審議する。

②日常的な業務を審議するために、本事業に参加する大学の教職員からなる戦略的大学連携運営委員会を置く。

③高大連携、高大連携遠隔授業、ICカード受講証、ひろしまカレッジの事業には、それぞれ代表校または連携校の教員の責任者を置き、この責任者は戦略的大学連携運営委員会の委員となる。

④事業ごとに以下のような運営体制をとる。

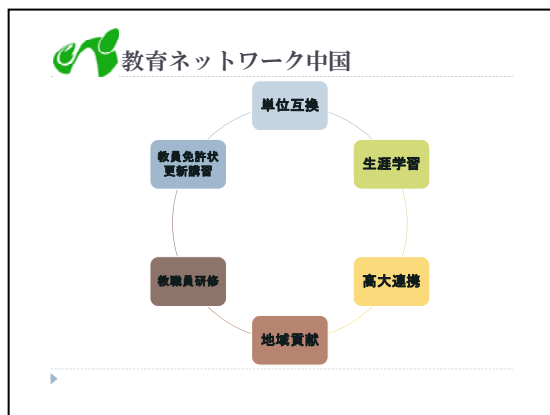
「高大連携による過疎地域における人材育成」：該当する地域の高校・教育委員会と、本事業について協議するために、「高大連携人材育成連絡会」を置く。連絡会には必要に応じて小委員会を置く。

「ICカード受講証を活用したひろしまカレッジ」：本事業に参加する大学等と連携する教育委員会と、本事業について協議するために「ひろしまカレッジ連絡会」を置く。必要に応じて小委員会を置く。

⑤本事業への参加大学、参加高校、関係団体等とのコミュニケーションを円滑にするためにメールマガジンを発刊する。

※教育ネットワーク中国

戦略的大学連携運営委員会の業務について代表校から委託を受ける。



「教育ネットワーク中国」とは

1998年4月に設立された大学連携組織です。
2009年4月現在、中国地方の27大学・短期大学、
教育委員会、広島県私立中学高等学校協会、企
業などの会員や賛助会員からなります。
事業としては単位互換(学部・大学院)、高大連携
(大学の正規授業科目を提供する公開授業科目
と高校生のためにつくられた公開講座など)、生
涯学習講座、地域社会との連携事業、教職員研
修などを行っています。

「教育ネットワーク中国」設立から現在まで

▶ 1997. 10. 7

「協力し連携することによって広島の高
等教育機関全体がレベルアップし、魅
力あるものとなる」ことをめざして、広島
修道大学学長、広島工業大学学長が
協議会の結成を呼びかける。

「教育ネットワーク中国」設立から現在まで

- 1998 ・ 広島県高等教育機関等連絡協議会発足。30の大学・短期大学が参加。
- 1999 ・ 単位互換および生涯学習事業を始める。
- 2002 ・ 高大連携事業を始める。
- 2004 ・ 全国コンソーシアム協議会設立、呼びかけ団体となる。
- 2005 ・ 教育ネットワーク中国と改称。
- 2008 ・ 文部科学省「戦略的大学連携支援事業」採択。
- 2009 ・ 広島県から「大学コンソーシアム支援事業」受託。

教育ネットワーク中国 会員校

- | | |
|-------------------|------------------|
| ・エリザベト音楽大学 | ・広島国際大学 |
| ・海上保安大学 | ・広島修道大学 |
| ・近畿大学工学部 | ・広島女学院大学 |
| ・呉工業高等専門学校 | ・広島市立大学 |
| ・県立広島大学 | ・広島大学 |
| ・山陽女子短期大学 | ・広島都市学園大学 |
| ・島根県立大学 | ・広島文化学園短期大学 |
| ・鈴峯女子短期大学 | ・広島文教女子大学 |
| ・日本赤十字広島看護大学 | ・放送大学広島学習センター |
| ・ノートルダム清心女子大学 | ・安田女子大学 |
| ・比治山大学 | ・安田女子短期大学 (五十音順) |
| ・比治山大学短期大学部 | ・広島市教育委員会 |
| ・広島経済大学 | ・呉市教育委員会 |
| ・広島工業大学 | ・広島県私立中学・高等学校協会 |
| ・広島国際学院大学 | |
| ・広島国際学院大学自動車短期大学部 | |

教育ネットワーク中国 賛助会員

- ▶ 紀伊國屋書店中四国営業部
- ▶ 進研アド西日本本部 中・四国支社
- ▶ 大学生協中国・四国事業連合
- ▶ 中国新聞社
- ▶ 凸版印刷中四国事業部
- ▶ 広島銀行
- ▶ 広島商工会議所
- ▶ 広島信用金庫
- ▶ 広島電鉄
- ▶ ムロオシステムズ
- ▶ モルテン

2011年4月1日法人格を取得「一般社団法人 教育ネットワーク中国」に名称変更

(1)戦略的大学連携委員会

事業の全体を統括するために、本事業に参加する大学の代表者からなる戦略的大学連携委員会置く。「戦略的大学連携支援事業」の代表校の学長が委員となって、各年度における主な事業計画及び事業の実施及び予算・決算について審議する。

2008 年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長	前川 功一	広島経済大学 学長
副委員長	市川 太一	広島修道大学 教授 教育ネットワーク中国代表幹事
委員	浅原 利正	広島大学 学長
	宇野 重昭	島根県立大学 学長
	赤岡 功	県立広島大学 学長
	中村 英昭	エリザベト音楽大学 学長
	高橋 超	比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
	茂里 一紘	広島工業大学 学長
	森永 規彦	広島国際大学 学長
	今村 詮	広島国際学院大学 学長
	川本 明人	広島修道大学 学長
	今田 寛	広島女学院大学 学長
	角重 始	広島文教女子大学 学長
	吉野 昌昭	安田女子大学・安田女子短期大学 学長
	飯山 郁子	山陽女子短期大学 学長
	正岡 稔民	鈴峯女子短期大学 学長
	小笠原 道雄	広島文化短期大学 学長

※広島文化短期大学：広島文化学園短期大学(2009年4月に大学名変更)

2008 年度委員会協議事項

年月日	主な協議事項
第1回 2008. 11. 4(火) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業について
第2回 2009. 3. 17(火) 広島国際大学 広島キャンパス	1. 平成20年度戦略的大学連携支援事業について 2. その他

2009 年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長	前川 功一	広島経済大学 学長
副委員長	市川 太一	広島修道大学 教授 教育ネットワーク中国代表幹事
委員	浅原 利正	広島大学 学長
	本田 雄一	島根県立大学 学長
	赤岡 功	県立広島大学 学長
	中村 英昭	エリザベト音楽大学 学長
	高橋 超	比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
	茂里 一紘	広島工業大学 学長

	森永 規彦 今村 詮 川本 明人 今田 寛 角重 始 吉野 昌昭 飯山 郁子 正岡 稔民 小笠原 道雄	広島国際大学 学長 広島国際学院大学 学長 広島修道大学 学長 広島女学院大学 学長 広島文教女子大学 学長 安田女子大学・安田女子短期大学 学長 山陽女子短期大学 学長 鈴峯女子短期大学 学長 広島文化学園短期大学 学長
--	---	---

2009 年度委員会協議事項

年月日	主な協議事項
第 1 回 2009. 6. 22(月) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業について(2009 年度の計画と進捗状況) 2. その他
第 2 回 2010. 2. 10(水) 広島国際大学 広島キャンパス	1. 平成 23 年度以降の戦略的大学連携支援事業の継続について 2. その他
第 3 回 2010. 3. 19(金) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業の実施報告等について 2. その他

2010 年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長 副委員長 委員	前川 功一 市川 太一 浅原 利正 本田 雄一 赤岡 功 川野 祐二 高橋 超 茂里 一紘 森永 規彦 奥田 勉 長尾 ひろみ 角重 始 瀬山 敏雄 飯山 郁子 正岡 稔民 岡 隆光	広島経済大学 学長 広島修道大学 学長 教育ネットワーク中国代表幹事 広島大学 学長 島根県立大学 学長 県立広島大学 学長 エリザベト音楽大学 学長 比治山大学・比治山大学短期大学部 学長 広島工業大学 学長 広島国際大学 学長 広島国際学院大学 学長 広島女学院大学 学長 広島文教女子大学 学長 安田女子大学・安田女子短期大学 学長 山陽女子短期大学 学長 鈴峯女子短期大学 学長 広島文化学園短期大学 学長

2010 年度委員会協議事項

年月日	主な協議事項
第 1 回 2010. 6. 21(月) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業について (2009 年度実施報告及び 2010 年度戦略的大学連携支援事業実施計画書) 2. 2010 年度戦略的大学連携支援事業に関する委員一覧 3. その他

第2回 2011. 3. 16(水) 広島経済大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業の実施報告等について 2. その他
--	------------------------------------

(2)戦略的大学連携運営委員会

戦略的大学連携運営委員会では以下のような事項について審議し、代表校・連携校と連絡を密に取りながら実施していく。

a. 「高大連携による過疎地域における人材育成」について

中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」、高大連携公開講座「大学入門」「大学で学ぼう」、進学・進路相談、高大連携研究交流会、高大連携公開授業、高大連携遠隔授業、地域での仕事づくりワークショップ、地域で生きる若者のためのキャリア講座などについて、現地の高校と大学、関係教育委員会、講師などと連絡調整を取り、実施期日、科目の提供、内容、プログラムなどを作成し、審議する。

b. 「ICカード受講証を活用したひろしまカレッジ」について

・シティカレッジやぱれっとカレッジなどへの講座の各大学への募集案内、各大学からの講座提供に関する業務、シティカレッジなどとの調整、各大学で開講する公開講座の情報受託業務などを行なう。

・ひろしまカレッジ交流会を開催する業務を行なう。

・ICカード受講証のソフト案を作成する会議の業務などを行なう。

・ひろしまカレッジ携帯メールマガジンの発信の業務を行なう。

2008 年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長	市川 太一	広島修道大学 教授 教育ネットワーク中国代表幹事
委員・高大連携担当	岡本 貞雄	広島経済大学 学生相談室長 教授
委員・生涯学習担当	柳瀬 陽介	広島大学 准教授
委員・遠隔授業担当	中田 美喜子	広島女学院大学 准教授
委員・ICカード担当	長坂 康史	広島工業大学 教授
委員	岡田 浩典	広島経済大学 総務課長
	藤井 保	県立広島大学 副学長・教授
	川野 祐二	エリザベト音楽大学 学長補佐・教授
	高橋 超	比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
	福田 由美子	広島工業大学 准教授
	後藤 寛	広島国際大学 キャリアセンター長
	落合 功	広島修道大学 学術交流センター長・教授
	穂垣 由恵	広島文教女子大学 経営改革推進室長
	上原 浩二	教育ネットワーク中国 事務局長

2008 年度運営委員会審議事項

年月日	主な協議事項
第1回 2008. 10. 20(月) エリザベト音楽大学	1. 平成20年度 戦略的大学連携支援事業「大学間連携戦略」(総合的連携型広域型) 2. 戦略的大学連携支援事業に関する会議体について 3. その他
第2回 2008. 11. 17(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携研究交流会及び高大連携人材育成連絡会の開催について 2. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 3. 高大連携公開授業、講座(備北)について 4. その他

第3回 2008.12.15(月) 広島市青少年センター	1. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 2. 高大連携公開授業、講座(備北)について 3. その他
第4回 2009.1.19(月) 広島市青少年センター	1. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 2. 高大連携公開授業、講座(備北)について 3. 3月の日程について 4. その他
第5回 2009.2.16(月) 広島県自治会館 2階会議室	1. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 2. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 3. 広島県による大学コンソーシアム支援事業について 4. その他
第6回 2009.3.9(月) 広島県自治会館 2階会議室	1. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 2. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 3. その他

2009年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長	市川 太一	広島修道大学 教授 教育ネットワーク中国代表幹事
委員・高大連携担当	岡本 貞雄	広島経済大学 学生相談室長 教授
委員・生涯学習担当	柳瀬 陽介	広島大学 准教授
委員・遠隔授業担当	中田 美喜子	広島女学院大学 学長補佐 准教授
委員・ICカード担当	長坂 康史	広島工業大学 教授
委員	深川 敏一	広島経済大学 総務課長
	藤井 保	県立広島大学 副学長・教授
	川野 祐二	エリザベト音楽大学 学長補佐・教授
	高橋 超	比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
	福田 由美子	広島工業大学 教授
	後藤 寛	広島国際大学 キャリアセンター長
	落合 功	広島修道大学 学術交流センター長・教授
	穂垣 由恵	広島文教女子大学 経営改革推進室長
	上原 浩二	教育ネットワーク中国 事務局長

2009年度運営委員会審議事項

年月日	主な協議事項
第1回 2009.4.13(月) 広島市青少年センター	1. ICカードを活用したひろしまカレッジについて 2. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 3. 広島県による大学コンソーシアム支援事業について 4. その他
第2回 2009.5.25(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. その他
第3回 2009.6.15(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. その他
第4回 2009.7.13(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. フォーラム実施計画(案)について 3. その他

第5回 2009. 8. 10(月) 広島国際大学 広島キャンパス	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. ひろしまカレッジフォーラムの開催について(チラシ) 3. その他
第6回 2009. 9. 14(月) 広島経済大学 立町キャンパス	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. その他
第7回 2009. 10. 19(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携による過疎地域の人材育成事業(備北)について 2. 高大連携研究交流会について 3. ひろしまカレッジ交流会について 4. その他
第8回 2009. 11. 16(月) 広島市青少年センター	1. 戦略的大学連携事業補助金の執行状況について 2. 広島学情報交換会について 3. その他
第9回 2009. 12. 14(月) 広島市青少年センター	1. 戦略的大学連携事業補助金の執行状況について 2. キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ2(興動館プログラム)について 3. ひろしまカレッジフォーラム「学生による大学と地域の交流フェスティバル」について 4. その他
第10回 2010. 1. 18(月) 広島経済大学 立町キャンパス	1. 戦略的大学連携支援事業のH22年度以降実施計画等について(文科省提出 資料) 2. ひろしまカレッジフォーラム「学生による大学と地域の交流フェスティバル」について 3. その他
第11回 2010. 2. 16(火) 広島経済大学 立町キャンパス	1. 平成23年度以降の戦略的大学連携支援事業の継続について 2. その他
第12回 2010. 3. 9(火) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. 2010年度の戦略的大学連携支援事業(文部科学省調書)について 2. 外部評価委員会、戦略的大学連携講演会の開催について 3. 2010年度備北地区中高大連携公開講座の日程について 4. その他

2010年度委員

役職名	名 前	所 属
委員長	市川 太一	広島修道大学 学長 教育ネットワーク中国代表幹事
委員・高大連携担当	岡本 貞雄	広島経済大学 学生相談室長 教授
委員・生涯学習担当	柳瀬 陽介	広島大学 准教授
委員・遠隔授業担当	中田 美喜子	広島女学院大学 情報管理センター副センター長 准教授
委員・ICカード担当	長坂 康史	広島工業大学 教授
委員	深川 敏一	広島経済大学 総務課長
	藤井 保	県立広島大学 副学長 教授
	川野 祐二	エリザベト音楽大学 学長
	高橋 超	比治山大学・比治山大学短期大学部 学長
	福田 由美子	広島工業大学 教授
	後藤 寛	広島国際大学 キャリアセンター長
	遠藤 敏郎	広島国際学院大学 工学部長 教授
	宇野 伸浩	広島修道大学 副学長 教授

	穂垣 由恵 上原 浩二	広島文教女子大学 経営改革推進室長 教育ネットワーク中国 事務局長
--	----------------	--------------------------------------

2010 年度運営委員会審議事項

年月日	主な協議事項
第 1 回 2010. 4. 12(月) 広島国際学院大学 立町キャンパス	1. ひろしまカレッジ受講証の企業カードとの連携について 2. 2010 年度広島県大学コンソーシアム支援事業について 3. 戦略的大学連携支援事業 2010 年度スケジュールについて 4. その他
第 2 回 2010. 5. 10(月) 広島市青少年センター	1. 遠隔授業について 2. 備北地区中高大連携公開講座関係について 3. その他
第 3 回 2010. 6. 14(月) 広島市青少年センター	1. ひろしまの地域学導入支援事業について 2. その他
第 4 回 2010. 7. 12(月) 広島市青少年センター	1. ひろしまの地域学導入支援事業について 2. その他
第 5 回 2010. 8. 4(水) 広島経済大学 立町キャンパス	1. ひろしまの地域学導入支援事業について 2. その他
第 6 回 2010. 9. 13(月) 広島経済大学 立町キャンパス	1. ひろしまカレッジフォーラムについて 2. 2011 年度以降のひろしまカレッジについて 3. 広島銀行と教育ネットワーク中国のひろしまカレッジに関する協定(案)について 4. 2011 年度以降の戦略的大学連携支援事業の継続と廃止について 5. 後期遠隔授業について 6. 公開講座 A「大学訪問」(備北高校保護者による大学訪問)について 7. 「地域で生きる若者のためのキャリア講座」取りやめについて 8. その他
第 7 回 2010. 10. 4(月) 広島市青少年センター	1. 中国新聞社と教育ネットワーク中国のひろしまカレッジに関する業務協力の確認書改正案について 2. 広島銀行と教育ネットワーク中国のひろしまカレッジに関する協定案について 3. これからの教師像について 4. その他
第 8 回 2010. 11. 8(月) 広島市青少年センター	1. 高大連携研究交流会について 2. 次年度継続の事業について 3. ひろしまの地域学導入事業としての公開講座「広島と移民—その歴史と現状—」について 4. その他
第 9 回 2010. 12. 20(月) 広島経済大学 立町キャンパス	1. ひろしまカレッジフォーラム「一学一山運動フォーラム」について 2. キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ 2 について 3. その他
第 10 回 2011. 1. 17(月) 県立体育館本館 小アリーナ小会議室	1. 広島学情報交換会について 2. その他

第 11 回 2011. 2. 14(月) 市民交流プラザ 南棟会議室 B	1. 2011 年度ひろしまカレッジちらし案内チラシについて 2. IC カード利用に関する契約書(案)について 3. その他
第 12 回 2011. 3. 8(火) 広島経済大学 立町キャンパス	1. 実施報告等について 2. 外部評価委員会、戦略的大学連携講演会の開催について 3. その他

その他の会議等

2008. 8. 19(火)	戦略的大学連携支援事業 内定
2008. 8. 25(月)	文部科学省 戦略説明会(東京)参加
2008. 9. 27(土)	戦略的大学連携支援事業 研修会 実施
2008. 12. 3(水)	戦略的大学連携説明会(三次)実施 「中山間地域と大学連携」 教育ネットワーク中国 代表幹事 市川 太一
2008. 12. 13(土) 12. 14(日)	第 5 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(名古屋大学)参加 第 5 分科会「戦略的大学連携支援事業の採択大学の事例発表」 大学コンソーシアム京都
2009. 1. 12(月)	大学教育プログラム合同フォーラム(パシフィコ横浜)参加 ポスターセッション「平成 20 年度戦略的大学連携支援事業」
2009. 2. 17(火)	高大連携による過疎地域の人材育成「遠隔授業」説明会(広島女学院大学)実施 遠隔デモ授業(三次高校に配信)・説明会・質疑応答
2009. 3. 16(月)	戦略的大学連携外部評価委員会(広島国際大学 広島キャンパス) 戦略的大学連携講演会(広島国際大学 広島キャンパス) 「中長期的な大学教育のあり方の審議経過(中央教育審議会)」 東京大学名誉教授 天野 郁夫 「学術産業ネットワーク多摩の現状と課題」 学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事・中央大学教授 細野 助博
2009. 3. 27(金)	IC カードを使用したひろしまカレッジ説明会(広島経済大学) 運用について・受講システム操作に関する説明・質疑応答
2009. 9. 13(土) 14(日)	第 6 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(函館)参加 ポスターセッション 第 5 分科会「戦略的大学連携支援事業の採択大学の事例発表」 大学コンソーシアム京都
2009. 10. 9(金)	単位互換・高大連携実務担当者会議(広島国際学院大学 立町キャンパス)
2010. 3. 16(水)	戦略的大学連携外部評価委員会(広島経済大学 立町キャンパス) 戦略的大学連携講演会(広島経済大学 立町キャンパス) <講演 1> 「大学コンソーシアム石川の事業と連携の工夫」 大学コンソーシアム石川教務学生専門部会長 戦略 GP 支援企画委員会委員長 金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系教授 古畑 徹 <講演 2> 「特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなしについての現状と課題」 特定非営利活動法人 大学コンソーシアムやまなし事務局 コーディネータ 佐藤 文昭

2010. 9. 11(土) 12(日)	第7回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(大阪)参加 ポスターセッション 第1分科会「中山間地域の高校を対象にした遠隔授業」 報告者：中田 美喜子(戦略的大学連携運営委員 遠隔授業担当) 教育ネットワーク中国 第6分科会「戦略的大学連携支援事業を活用した地域大学コンソーシアム活動の活性化」 大学コンソーシアム京都
2010. 10. 8(金)	単位互換・高大連携実務担当者会議(広島市青少年センター)
2011. 3. 16(火)	戦略的大学連携外部評価委員会(広島経済大学 立町キャンパス) 戦略的大学連携講演会(広島経済大学 立町キャンパス) 「中規模大学の現状と課題」 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース講師 両角 亜希子 ※平成23(2011年)東北地方太平洋沖地震のため中止
2011. 3. 25(金)	ICカードを活用したひろしまカレッジ説明会(広島修道大学) 運用について・受講システム操作に関する説明・質疑応答

3

評価体制

(1)実績報告書の作成：実績報告書を作成して、外部評価委員会から評価を受け、次年度の事業に反映していく。

(2)評価指標・評価方法：過疎地域の人材育成については、大学進学意欲の向上、将来地元に戻って働く意識の涵養、ひろしまカレッジについては社会参加型・課題解決型講座の開講、生涯学習講座内容の多様化、受講者の満足度を評価指標とする。具体的には初年度、事前に高校生を対象としてアンケート調査をし、事後の変化を把握する。この数値を基にして次年度、高校生の評価が上がっているのかどうか、検証して改善していく。教職員や保護者などにもアンケート調査を実施する。ひろしまカレッジについては受講者と講師を対象にしてアンケート調査を実施する。21年度には社会参加型・課題解決型講座の開講数を5講座、22年度までには特定の目的を持った講座5講座の開講を目標とする。

(3)外部評価委員会：評価委員会は毎年度、開催する。委員は天野郁夫(東京大学名誉教授)、細野助博(学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事・中央大学教授)などを予定している。

(4)戦略的大学連携支援事業発表会の開催：2つの事業の発表会(高大連携交流会・ひろしまカレッジ交流会)を開き成果を検証し共有化を図ると共に、地域社会に対しては情報提供をする。

高大連携 広がり と 深まり

岡本 貞雄

広島経済大学 教授
教育ネットワーク中国運営委員
(戦略的大学連携運営委員・高大連携担当)



教育ネットワーク中国の実施している高大連携事業の特色は、幅の広さである。そもそも高大連携は、大学の授業科目の高校生への公開を通じて、高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校教育と大学教育の円滑な接続に資することを目的としているが、実施規模において他と大いに異なる。ここでいう規模とは、参加校の多さと実施内容の多様さである。

平成 14 年広島県下ほぼすべての大学と高校が参加して「高大連携協定」を締結してスタートしている。その頃本ネットワークは、広島県高等教育機関協議会と称していた。一校もしくは数校で実施する高校と大学の連携は比較的容易に実施できるが、ほぼ全県下の高校、大学が加盟しているものはあまり例がない。この開始当初からのスケールメリットを十分に生かし切っているかについては、若干検討の余地があるが、現在に至るまで連携の規模を気にせずにその質的向上を図ってこれたことは幸運であった。

先に述べたように、高大連携の柱は高校へ提供される公開授業（大学の正規の科目）と公開講座（高校生のための科目）であるが、その実施形態は多様である。平成 19 年からは、「高大連携科目等履修生制度」を設け、特定の大学において入学後に単位認定される講座を設置した。又、大学の実態に触れることの少ない、中山間地域などの高校を対象にして、加盟大学が出走き、高校を会場として、中高大連携公開講座を平成 17 年から実施（中学は 18 年から）している。この講座の提供科目数は開始当初の 9 科目から平成 22 年には 59 科目となり、高校生の参加人数も 136 人から 1390 人となっている。さらにこの地域からバスを運行して、各大学に来校してもらい公開講座を実施する、公開講座 A「大学入門」、大学と高校をインターネットを利用して結び授業を行う、遠隔授業、地域での仕事づくりワークショップ、地域で生きる若者のためのキャリア講座など、非常に多くの取り組みを行っている。この取り組みを通じて、身近に感じることができるようになった大学への進学率の向上と、地域で生きる可能性を探ることによって、人材流出の防止が期待されている。

これらの活動を検証し、さらに充実させるために、関係者による高大連携交流会を開催し、平成 14 年以降は、事業に参加した高校生、高校の担当教員、大学教員を対象にして、アンケートを実施し、改善のための参考にしている。さらに、大学教員が高校の授業参観に行き、高校生の実態や授業方法を学ぶなど、本ネットワークは高大連携を可能な限り柔軟にとらえ、それぞれの教育向上に資することを常に目指して活動が続けている。

高大連携遠隔授業の実施について

中田 美喜子

広島女学院大学 准教授
教育ネットワーク中国運営委員
(戦略的大学連携運営委員・遠隔授業担当)



1995 年大学からインターネットへ接続し始めて 10 年以上となった。当初インターネットの教育利用の研究として、米国との交換講義や、広島市内の大学間での遠隔講義などの実験を実施してきた。2000 年過ぎから、ブロードバンド回線が普及することで、離れたキャンパス間で実際に単位を認定する講義を開講した。さらに、教育ネットワーク中国における単位互換科目では、各大学または自宅からインターネットに接続することで受講・単位取得可能科目を設定し、各大学や高専からの受講者が 20 名以上になる講義もあった。先の研究結果から、今回の高大連携遠隔講義の実施を行っている。システムは持ち運び可能なものとして、ノート PC とカメラなどを設置するだけで、テレビ会議システムに接続することで講義が可能なシステムを利用した。

実際に接続すると、備北地区のインターネットインフラの整備の遅れ、高校のインターネット接続インフラ整備の補助が必要であるなど、物理的に解決すべき問題が認識されることとなった。補助金でできるだけ解決し、2009 年度前期の遠隔授業実施となった。2009 年度前期では、4 大学から 6 講座が開講された。2009 年度後期では 6 大学から 7 講座が開講された。2009 年度後期からは 2 高校への同時配信も実施した。

2009 年度の高校生・高校教員および大学教員からのアンケートや自由記述の感想などを集計した結果、講義の方法について、音声を最優先にする。高校側の席を固定にして名簿を事前に送付してもらう。大学側の資料も事前に高校へ送付しておく。大学側の講義は、少しゆっくり話をする方法で音声の聞きやすさを保った。教員の視線を改善するため（生徒が映し出されているノート PC の画面をみる傾向があり、設置場所が横だと横をみて授業をすることとなる）生徒が映し出される画面を教員の正面、カメラと同列に設置する工夫をした大学もあった。これらは、大学の設備や教室の設備に依存するため、どの大学でも可能とはならないが、工夫することで講義が改善される可能性があることを示唆したといえる。

2010 年度、前年度の成果から大学側から提供する講義については、だれでも講義実施が可能になるように、基本的な方法について文書化して配布し、資料作成、授業の組み立て方などの工夫を依頼した。2010 年前期には 6 大学から 10 講座、後期には 7 大学から 10 講座を提供し高校へ配信した。

備北地区の高校からは、大学の生の情報が不足していることと高校生への大学進学への刺激になるため、今後も継続を希望されているが、継続していくためには、広島県および高等学校、大学間のサポートをどのように実施していくのが課題である。

第3章

高大連携による過疎地域の人材育成

1

中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」

図1 平成22年度中高大連携公開講座募集要項 表



自分の学びたいことはどの学部で学べるのだろうか。学んだことはどのような将来の進路につながるのだろうか。大学の先生が簡潔に講義をします。また、大学でのキャリア教育、就職指導・相談はどのように行われるのか。大学の先生・職員を通じて、大学での学びを体感してみよう。

日 時：平成22年7月17日(土) 10時30分～12時30分
会 場：広島県立三次高等学校(三次地区)
受講対象：高校生・中学3年生・保護者
主 催：教育ネットワーク中国
後 援：三次市教育委員会
広島県公立高等学校長協会三次地区校長会
三次市中学校長会
広島県私立中学・高等学校長協会

教育ネットワーク中国会員

(28校・3団体)

エリザベト音楽大学 / 海上保安大学校 / 近畿大学工学部 / 呉工業高等専門学校 / 県立広島大学
山陽女子短期大学 / 島根県立大学 / 鈴峯女子短期大学 / 日本赤十字広島看護大学
ノートルダム清心女子大学 / 比治山大学 / 比治山大学短期大学部 / 広島経済大学 / 広島工業大学
広島国際学院大学 / 広島国際学院大学自動車短期大学部 / 広島国際大学 / 広島修道大学
広島女学院大学 / 広島市立大学 / 広島大学 / 広島文化学園大学 / 広島文化学園短期大学
広島都市学園大学 / 広島文教女子大学 / 放送大学広島学習センター / 安田女子大学 / 安田女子短期大学
広島県私立中学・高等学校協会 / 広島市教育委員会 / 呉市教育委員会

賛助会員

紀伊國屋書店(中四国営業部) / 大学生協中国・四国事業連合 / 中国新聞社 / 広島銀行 / 広島信用金庫
広島電鉄 / モルテン / 凸版印刷(西日本事業本部) / 進研アド / 広島商工会議所 / ムロオシステムズ
大学ナビ <http://www.daigakunavi.jp/>

図2 平成22年度中高大連携公開講座募集要項 裏

日 時	会 場		
平成22年7月17日(土) 10時30分～12時30分	広島県立三次高等学校 三次市南畑敷町155番地 TEL: 0824-63-4104 J R芸備線・三次駅下車庄原方向へ徒歩約20分 または備北交通バス・三次高校前下車すぐ(三次駅から約5分)		
主催・問い合わせ	後 援		
教育ネットワーク中国 〒730-0011 広島市中区基町10-3 TEL: 082-209-8044 FAX: 082-209-8045 E-mail: office@enica.jp U R L: http://www.enica.jp/	三次市教育委員会 広島県公立高等学校長協会三次地区校長会 三次市中学校長会 広島県私立中学・高等学校長協会		
申込方法			
1. 高校生・中学生のみなさんは申込用紙に記入して、月 日()までに各学校の担任の先生に希望の講座を知らせてください。保護者の方の受講もできますので、保護者の方にも講座があることを伝えてください。 2. 開講場所(教室)は当日お知らせします。 なお、受講希望者が非常に少ない講座は開講しない場合がありますのでご了承ください。			
連絡事項			
○ 開講10分前には会場においでください。各教室で名簿に記入してください。 ○ 会場には他の利用者がいらっしゃいます。マナーある行動をこころがけてください。 ○ 開講する講座については、申し込みをされていない場合でも受講いただけます。ぜひ受講してみてください。			
----- キリトリ線 ----- 「大学で何を学ぶか」(三次)申込用紙 ⇒ 月 日()までに担任の先生へ提出			
名 前			
学校名・学年・組	高等学校・中学校	年	組 番
受講したい講座(番号に○をしてください。)複数受講可			
	1	2	
A会場	A1	A2	
B会場	B1	B2	
C会場	C1		
D会場	D1	D2	
E会場	E1	E2	
F会場	F1		
G会場	G1	G2	
H会場	H1		
I会場	I1	I2	
J会場	J1	J2	

(1)平成 20 年度教育ネットワーク中国中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」

開 催 日：2008 年 7 月 19 日(土)

備北地区：58 科目(1522 人/内アンケート情報者数 1353 人)

授業時間：10 時 30 分～12 時 30 分(50 分授業)

※呉大学：広島文化学園大学、広島文化短期大学：広島文化学園短期大学(2009 年 4 月に大学名変更)

①三次会場：三次高校

■参加者：中学生(7 人)

■参加者：高校生(441 人)(441 人：三次 434、三次青陵 4、日彰館 3)

■その他：保護者(50 人)

a. 中高大連携公開講座(498 人)

提供大学	講座名
比治山大学短期大学部	保育士の仕事 保育所の役割
広島大学	ボディーヴォイス ーみんなでラップ！！
島根県立大学	石見銀山とポルトガル滅亡
広島女学院大学	あなたはオバマ派 それとも ヒラリー派？
エリザベト音楽大学(2 講座)	＜音楽家の耳＞トレーニングを体験しよう！
広島修道大学(2 講座)	日本企業は海外でどのような活動を行っているか
広島経済大学(2 講座)	映像メディアの基礎・テレビの制作
広島国際大学(2 講座)	建築分野の紹介と建築デザインの基本
山陽女子短期大学	病気と微生物学 ～敵を知って身を守ろう～
広島大学	超低温の世界
県立広島大学	循環型社会の形成に向けて
広島工業大学	活断層と地震災害
広島市立大学(2 講座)	大学で学ぶということ

b. キャリア講座(48 人は公開講座受講者 498 人に含む)

広島修道大学(2 講座)(写真 1)

「大学生の就職や進路を考える～修大生の実態から～」



写真 1 キャリア講座

②庄原会場：庄原実業高校

■参加者：中学生(1 人)総領中

■参加者：高校生(418 人)(418 人：庄原実業 172、庄原格致 246)

■その他：保護者(50 人)

a. 中高大連携公開講座(469 人)

提供大学	講座名
比治山大学(2 講座)	一葉は五千元札になった一樋口一葉、その人と文学ー
広島女学院大学	イザナキ・イザナミ神話とヤマタノオロチ
広島文化短期大学	美・芸術・音楽
広島文教女子大学(2 講座)	人間の想像力と表現とー〈視線〉の先には何がある？ー
広島国際大学(2 講座)	障害のある方、高齢者の方の生活を支える
呉大学(2 講座)	手と手との絆 ～朝日新聞の報道記事から学ぶ～
県立広島大学(2 講座)	身の周りの帰化植物と外来生物法
広島国際学院大学(2 講座)	A L Aちゃんと農業・園芸
広島大学	環境保全工学(環境問題をエネルギーと微生物の視点から考える)
広島大学	突然変異、身近な遺伝現象から「遺伝」および「遺伝子の不思議な世界(農学・理学)」へ
近畿大学工学部(2 講座)	テーピング理論とテクニック

b. キャリア講座(70 人は公開講座受講者 469 人に含む)

広島国際大学

「自分らしく働き、自分らしく生きる」

比治山大学、比治山大学短期大学部

「大学での学びと将来の進路」

③安芸高田会場：向原高校

■参加者：中学生(17 人)

■参加者：高校生(405 人)(405 人：向原、吉田)

■その他：保護者(50 人)

a. 中高大連携公開講座(472 人)

提供大学	講座名
安田女子大学(2 講座)	日本語と対比しながら学ぶアジア諸言語の入門
比治山大学短期大学部	動く絵・アニメーション
広島市立大学	3DCGによる町並み復元
比治山大学	現代若者気質～若者の対人関係
広島修道大学	教師という仕事
広島経済大学(2 講座)	ビジネスの世界を探求する
広島文化短期大学(2 講座)	あなたの“やさしさ発見”
広島工業大学(2 講座)	レーザで何ができる？
呉大学(2 講座)	多様化するナースのおしごと
広島国際学院大学	アニメーションのできるまで
広島大学	微生物パワーの利用ーバイオ燃料、環境浄化、資源循環ー

b. キャリア講座(22 人は公開講座受講者 469 人に含む)

広島工業大学

「志を抱いて 一次世代を担うみなさんへー」

広島大学

「子どものためのキャリアデザイン」

(2)平成 21 年度教育ネットワーク中国中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」

2009 年 7 月 11 日(土)広島県立三次高等学校、広島県立庄原格致高等学校

2009 年 7 月 18 日(土)広島県立吉田高等学校

2009 年 7 月 25 日(土)広島県立日彰館高等学校

備北地区：63 科目(1564 人／内アンケート情報者数 1518 人)

中学生の受講が可能な講座、従来からの 50 分授業と今年度から新たに 90 分授業を開講し、保護者対象講座、キャリア講座「大学卒業後の進路講座」、進学・進路相談会を同日に開催した。



写真 2 公開講座授業風景①



写真 3 公開講座授業風景②

①三次会場：三次高校

■参加者：中学生(5人)

■参加者：高校生(513人)

■その他：保護者(29人)

a. 中高大連携公開講座(547人)

提供大学	講座名
エリザベト音楽大学	アカペラ合唱の楽しみ
比治山大学	夢の実現に向けて(職業としての「教師」とは)
広島大学(90分授業)	大学教養教育における倫理学
安田女子短期大学(2講座)	子どもの心の世界を知ろう
広島大学	民事訴訟法
島根県立大学	戦争・平和問題と現代
広島国際大学(90分授業)	社会福祉の現場 ～感じる、考える、行動する～
県立広島大学	作業療法入門
広島市立大学	コンピュータのしくみと役割
広島国際学院大学(2講座)	アラちゃん(ALA)で地球を救う
広島工業大学	光と画像
広島大学	橋と力学
広島文化学園短期大学	スポーツと栄養
広島国際大学	よりよいコミュニケーションのために ～伝わっていますかあなたの表現～

b. 保護者対象講座(約400人)*高校生と保護者が参加

広島大学 学長 浅原 利正

「大学で学ぶという事」

c. キャリア講座(25人は公開講座受講者547人に含む)

島根県立大学(2講座)

「大学で学ぶことと働くこと」

d. 進学進路相談会(19人)

参加大学：

エリザベト音楽大学、県立広島大学、比治山大学、比治山大学短期大学部、広島修道大学、
広島女学院大学、広島文化学園大学、広島文化学園短期大学、広島文教女子大学、
島根県立大学

②庄原会場：庄原格致高校

■参加者：高校生(547人)(547人：庄原格致、庄原実業、西城紫水)

a. 中高大連携公開講座(547人)

提供大学	講座名
県立広島大学	『竹取物語』と生老病死
広島女学院大学	日本神話—日本の誕生—
比治山大学短期大学部	みてみてきいて！心と体
広島市立大学	3DCGによる町並み復元
比治山大学(2講座)	Englises に挑戦 ～”英語の冒険の最前線”を身体で感じる～
島根県立大学(90分授業)	ツーリズムの動向と中山間地域
広島修道大学(2講座)	もしもあなたが首相だったら

広島大学	地域の防災を考えよう
広島国際大学	情報通信とは？～価値ある内容を早く遠くへ～
広島国際学院大学 (90分授業)	日本の科学・技術を支えるスーパーコンピュータ
山陽女子短期大学 (90分授業)	病理形態学からみた癌(がん)細胞
県立広島大学	変わった微生物を環境に役立ててみる (環境バイオテクノロジーの研究について)
広島市立大学	大学で学ぶということー“ゆとり教育”の問題点の明確化ー

b. 保護者対象講座(40人)

比治山大学・比治山大学短期大学部 学長 高橋 超(写真4)
「若者にとって大学とは～大学で身につく人間力～」

c. キャリア講座(69人は公開講座受講者 547人に含む)

広島修道大学(2講座)

「大学生の就職や進路を考える～修大生の実態から～」



写真4 保護者対象講座

d. 進学進路相談会(15人)

参加大学：

県立広島大学、比治山大学、比治山大学短期大学部、
広島修道大学、広島文化学園大学、広島文化学園短期大学、
広島文教女子大学 (写真5)



写真5 進学路相談会

③安芸高田会場：吉田高校

■参加者：中学生(5人)

■参加者：高校生(378人)(378人：吉田、向原)

■その他：保護者(7人)

a. 中高大連携公開講座(390人)

提供大学	講座名
広島大学	小学校教師への道ー大学で何を学ぶのか
県立広島大学	毛利元就と源氏物語
広島文教女子大学(2講座)	「こころ」ってあるのかな？どうやって見るのかな？
広島経済大学(2講座)	情報システムの変遷と将来像
県立広島大学	バイオテクノロジーと植物の品種改良
広島大学	ダイエットを科学する ～食物の体内でのゆくえを知る～
県立広島大学(90分授業)	言語障害と言語聴覚士の専門性
広島修道大学(90分授業)	食と環境～ファーストフードから世界をみる～
広島工業大学(90分授業)	食と健康
比治山大学短期大学部 (2講座)	食と健康について

b. キャリア講座

広島工業大学

「仕事って何！～大人になるということ～」(19人は公開講座受講者 390人に含む)

県立広島大学

「大学におけるキャリア形成支援の現状について」(9人は公開講座受講者 390人に含む)

④三次会場：日彰館高校

■参加者：中学生(10人)

■参加者：高校生(65人)

■その他：保護者(5人)

a. 中高大連携公開講座(80人)

提供大学	講座名
広島大学(90分授業)	小学校国語の授業の実際ーたのしくことばを学ぼうー
広島文化学園短期大学(90分授業)	色の不思議
広島文化学園大学(2講座)	手と手との絆～朝日新聞の報道記事から学ぶ～
広島女学院大学(90分授業)	I C T社会の理論
広島工業大学	私たちの暮らしとインターネット
広島市立大学	情報化社会と情報処理技術者
広島女学院大学(90分授業)	バイオテクノロジーで切り開くこれからの植物栽培
広島市立大学(90分授業)	情報とコミュニケーション
近畿大学工学部(2講座)	テーピング理論とテクニック

b. キャリア講座(2講座)(5人は公開講座受講者80人に含む)

比治山大学・比治山大学短期大学部

「大学での学びと将来の進路」

(3)平成22年度教育ネットワーク中国中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」

2010年7月17日(土)広島県立三次高等学校、広島県立向原高等学校

2010年7月24日(土)広島県立庄原実業高等学校、広島県立日彰館高等学校

備北地区：59科目(1390人／内アンケート情報者数1348人)

中学生の受講が可能な講座、50分授業と90分授業を開講し、保護者対象講座、キャリア講座「大学卒業後の進路講座」、進学・進路相談会を同日に開催した。

①三次会場：三次高校

■参加者：中学生(4人)

■参加者：高校生(429人)

■その他：保護者・教員(19人)

a. 中高大連携公開講座(452人)

提供大学	講座名
比治山大学	青年の社会規範意識と帰属意識
広島国際大学	ことばを使ったコミュニケーションを見直す
広島女学院大学	ディズニーとアメリカ
広島国際学院大学	フラッシュアニメーションの紹介
広島修道大学(90分授業)	経済学入門
安田女子大学(2講座)	正しく治してきれいな傷あとに
広島都市学園大学	看護の魅力
広島文化学園大学	看護の仕事について
県立広島大学(90分授業)	命のミラクル
県立広島大学	言語聴覚療法とは
広島大学	口腔の健康を科学する 広島大学歯学部取り組み
広島国際大学(90分授業)	ふしぎ！なぜ止まるの？ (振り子の原理を用いたクレーンの制御について)
山陽女子短期大学(2講座)	びょういんの仕組みを知ろう ～医療事務のお仕事～

b. 保護者対象講座(約 450 人)＊高校生と保護者が参加

広島放送(株) 専務取締役 新宅富士夫

「テレビ番組「夢の通り道」に見る県内の優良企業」

c. キャリア講座

比治山大学・比治山大学短期大学部

「高校卒業後の人生を考えてみよう」(24 人は公開講座受講者 452 人に含む)

県立広島大学

「大学生生活とキャリア形成について」(31 人は公開講座受講者 452 人に含む)

②庄原会場：庄原実業高校

■参加者：中学生(1 人)

■参加者：高校生(392 人)(392 人：庄原格致、庄原実業)

■その他：保護者・教員(11 人)

a. 中高大連携公開講座(404 人)

提供大学	講座名
広島女学院大学(90 分授業)	昔話の研究
広島大学	国際政治経済学
広島国際学院大学	農業と環境の社会学
広島文化学園大学	成人を対象とした看護
県立広島大学	リハビリテーションという仕事
広島工業大学(2 講座)	工学系の講座
広島市立大学(90 分授業)	コンピュータに知能を与え、謎を解明してみよう
県立広島大学	バイオテクノロジー
県立広島大学	植物栄養元素の流れから見たエネルギー・環境問題
広島国際学院大学	ALA ちゃんは農業・園芸を豊かにし、地球を救う
比治山大学	自然科学と情報技術のかかわり
広島大学(90 分授業)	生き物の生体防御の仕組みに魅せられて
比治山大学短期大学部 (90 分授業)	食と健康について

b. 保護者対象講座(27 人)

(株)合同総研 代表取締役副社長・税理士 篠原敦子

「受信力がものをいう」

c. キャリア講座(36 人は公開講座受講者 404 人に含む)

広島国際大学(2 講座)

「なりたい自分になるために」

d. 進学進路相談会(220 人)

参加大学：エリザベト音楽大学、比治山大学、比治山大学短期大学部、広島経済大学、広島工業大学、広島国際大学、広島大学、広島文化学園大学、広島文化学園短期大学、広島文教女子大学

③安芸高田会場：向原高校

■参加者：高校生(403 人)(403 人：向原高校、吉田高校)

■その他：保護者(2 人)

a. 中高大連携公開講座(405 人)

提供大学	講座名
広島修道大学(90 分授業)	社会心理学入門
県立広島大学(2 講座)	毛利元就と源氏物語
広島大学	行動科学
エリザベト音楽大学	音の癒す力 (声・動き・ふれあい)
広島経済大学(2 講座)	全てはネットからやってくる
広島市立大学	コンピュータの数学
広島大学	入門：建築の世界へ
広島国際大学	病院を裏から見てみよう
山陽女子短期大学	血液の働きと輸血
広島工業大学	揺れない建物造り、壊れない建物造り
広島文化学園大学	看護の仕事について
広島都市学園大学 (90 分授業)	看護師のライセンスで拓くあなたの未来

b. 保護者対象講座(22 人)

放送大学広島学習センター所長 二宮 皓(にのみや あきら)
「思い出に残る学校」

c. キャリア講座

広島修道大学

「大学生の就職や進路を考える ～修大生の実態から～」(21 人は公開講座受講者 405 人に含む)

広島工業大学

「仕事を持つ(就職する)ために必要なこと！」(30 人は公開講座受講者 405 人に含む)

④三次会場：日彰館高校

■参加者：高校生(129 人)

a. 中高大連携公開講座(129 人)

提供大学	講座名
比治山大学短期大学部 (90 分授業)	広島のモニュメント
広島経済大学(2 講座)	人が幸せになるための経済学入門
広島文化学園大学	「ユニバーサルデザイン」って何だろう
広島文教女子大学	介護の基本
県立広島大学	ダイエットについて知っておくことって？
広島大学	安全で自然豊かな河川づくり
広島都市学園大学 (90 分授業)	看護師を目指す！将来に向けてのひとつのヒント
広島市立大学	大学で学ぶということー“ゆとり教育”の問題点の明確化ー
山陽女子短期大学	栄養～摂らなくても摂りすぎても困ります

高大連携は、大学の授業科目の高校生への公開を通じて、高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校教育と大学教育の円滑な接続に資することを目的としている。

提供科目は公開授業(大学の正規の科目)と公開講座(高校生のための科目)から構成されている。

3月中旬に教育委員会や私学団体を通じて出願受付を行うが、1月下旬からホームページ(図3)でも科目名や講義の内容を公開し、4月中旬に履修許可の通知をしている。

【經緯】

2002 年 3 月に広島県下 152 高校が参加して高大連携協定を締結。

2002 年 4 月から広島県立、広島市立、呉市立、福山市立、広島県私立各高校が参加して開始。

2003 年度から広島大学附属高校が参加して 153 校となる。

2005 年度から岩国地区の高校が参加して 157 校となる。

二次募集の開始。高大連携委員会の設置、高大連携研究交流会の開催、三原尾道地区で高大連携公開講座を開講。

2006 年 7 月三次地区で中高大連携公開講座を開講。

2007年度から12大学・短大で高校生の科目等履修制度の開始。

2007年7月～備北地区3高校で中高大連携公開講座を開講。

2009年7月～備北地区4高校で中高大連携公開講座を開講。

[illegible][illegible]

図1 高大連携ポスター

図2 大学へ行こうウィーク



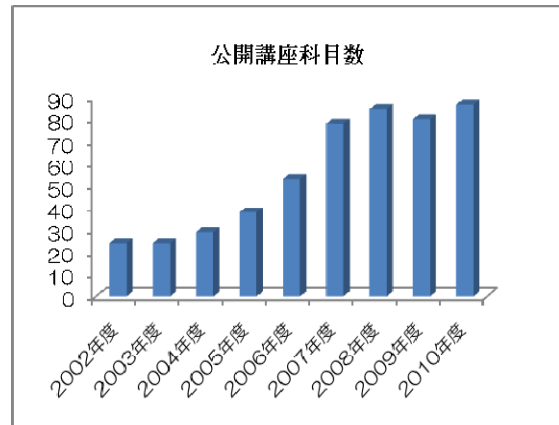
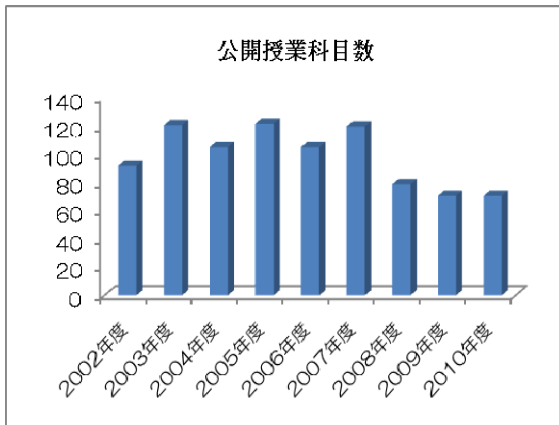
図3 高次連携シラバス掲載(W e b サイト) <http://www.enica.jp/03highschool/2011/index.html>

■参加大学数と参加高校数

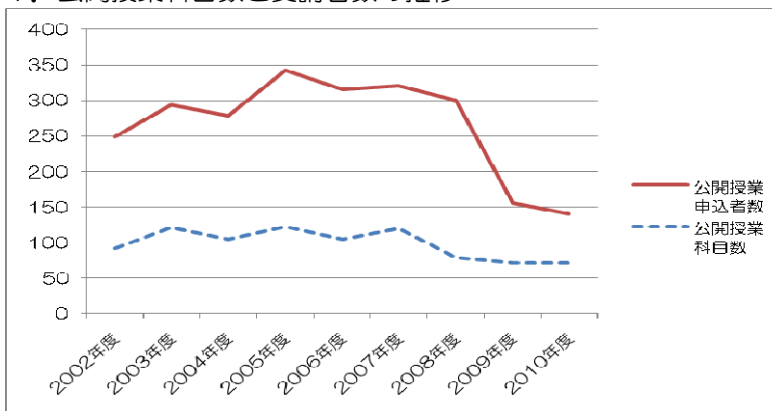
	参加大学	参加高校	受講者数
2002 年度	18 大学	44 校	310 人
2003 年度	22 大学	40 校	363 人
2004 年度	20 大学	47 校	471 人
2005 年度	24 大学	63 校	922 人
2006 年度	24 大学	77 校(内中学校 11 校)	1740 人(内中学生 99 人)
2007 年度	24 大学	75 校(内中学校 8 校)	2802 人(内中学生 50 人)
2008 年度	22 大学	73 校(内中学校 8 校)	2915 人(内中学生 29 人)
2009 年度	22 大学	61 校(内中学校 4 校)	3143 人(内中学生 20 人)
2010 年度	21 大学	65 校(内中学校 4 校)	2855 人(内中学校 5 人)

■受講科目と受講者数 ()内は受講生徒数

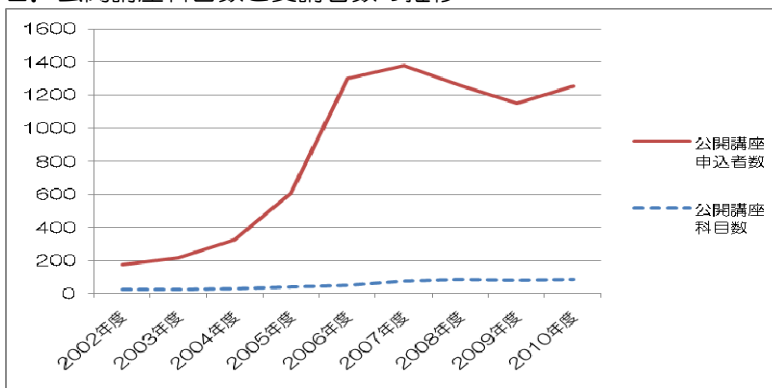
	公開授業科目数	公開講座科目数	総計
2002 年度	92(157 人)	24(153 人)	116 科目(310 人)
2003 年度	121(173 人)	24(190 人)	145 科目(363 人)
2004 年度	105(173 人)	29(298 人)	134 科目(471 人)
2005 年度	122(220 人)	38(566 人)	160 科目(786 人)
	高次連携公開講座(三原尾道地区)		9 科目(136 人)
2006 年度	105(211 人)	53(1248 人)	158 科目(1459 人)
	中高大連携公開講座(三次地区)		15 科目(281 人)
2007 年度	120(201 人)	78(1299 人)	198 科目(1500 人)
	中高大連携公開講座(備北地区)		56 科目(1302 人)
2008 年度	79(221 人)	85(1172 人)	164 科目(1393 人)
	中高大連携公開講座(備北地区)		58 科目(1522 人)
2009 年度	71(85 人)	80(1070 人)	151 科目(1155 人)
	中高大連携公開講座(備北地区)		63 科目(1564 人)
	公開講座 A(備北地区)		24 科目(424 人)
	遠隔授業(備北地区)		13 科目(194 人)
2010 年度	71(69 人)	87(1168 人)	158 科目(1237 人)
	中高大連携公開講座(備北地区)		59 科目(1390 人)
	公開講座 A(備北地区)		15 科目(243 人)
	遠隔授業(備北地区)		20 科目(273 人)



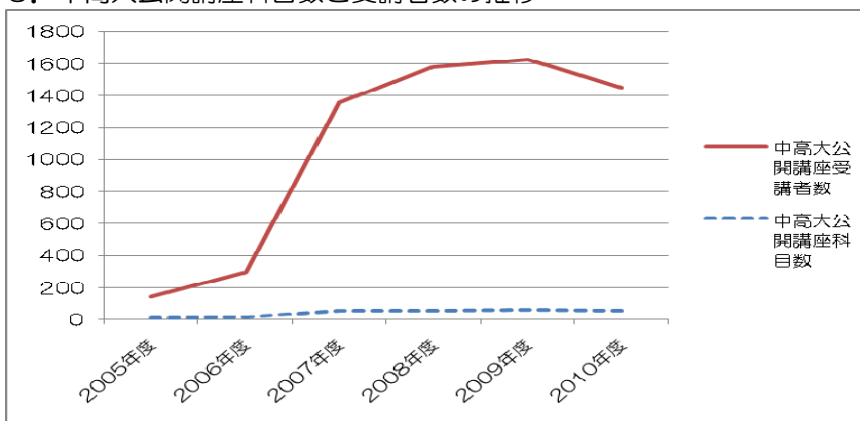
1. 公開授業科目数と受講者数の推移



2. 公開講座科目数と受講者数の推移



3. 中高大公開講座科目数と受講者数の推移



(1)公開講座A「大学入門」および公開講座B「大学で学ぼう」バス運行

三次地区、安芸高田地区、庄原地区の高校生を対象に、各大学の開催する公開講座A「大学入門」および公開講座B「大学で学ぼう」のプログラムを開催し無料バスを各地区の高等学校から運行し公開講座に参加した。

- ◆公開講座A「大学入門」は、備北地区の高校生対象の特別講座と大学のオープンキャンパスのプログラム講座の2種類
- ◆公開講座B「大学で学ぼう」は例年行われている高大連携公開講座で8月に行われる講座のうち、大学の提供希望があった講座



写真1 バス運行



写真2 模擬授業



写真3 大学説明

<2009 年度プログラム>

■大学へ行こうウィーク 8/1～8/11 の期間で開催される公開講座

開催大学	開催日	プログラム	内 容
広島修道大学	8月1日(土)	公開講座A (オープンキャンパス)	学部学科説明・模擬講義・保護者対象プログラム、キャンパスツアーほか
比治山大学 比治山大学短期大学部	8月2日(日) 8月3日(月)	公開講座A (オープンキャンパス)	大学・学部紹介・模擬(体験)講義 キャンパスツアーほか
広島国際学院大学	8月2日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	講義・学部紹介・キャンパス見学・学科見学ほか
広島修道大学	8月3日(月)	公開講座B	「もっと知りたい世界と日本の政治」 ～人々の力と世界の未来～
広島文教女子大学	8月3日(月)	公開講座A (特別プログラム)	大学説明とオリエンテーション 「教育心理学入門ー心を理解し、心を育てるー」「英語コミュニケーション」ほか
安田女子大学 安田女子短期大学	8月4日(火)	公開講座A (特別プログラム)	大学・短期大学紹介 「マルチメディアと社会貢献」 キャンパス見学
広島国際大学	8月5日(水)	公開講座A (特別プログラム)	大学説明等 「音楽のもつ力」「好きと嫌いの人間関係」学科見学および体験・キャンパス見学
広島文化学園短期大学	8月5日(水)	公開講座A (特別プログラム)	大学紹介 「ファッションスタイリング入門」 「食事バランスチェックをしてみよう」 「音楽療法」「精神保健～こころの発達について～、キャンパス見学
広島経済大学	8月7日(金)	公開講座A (特別プログラム)	大学紹介及びオリエンテーション 「経営学～実は身近なビジネスの世界～」学内見学ツアー
広島工業大学	8月7日(金)	公開講座A (特別プログラム)	各学科紹介 「賢いものづくりを体験しよう!」「体

			験！アニメーション作製」「氷から考える地球環境」新講義棟 施設見学
広島大学	8月7日(金)	公開講座A (オープンキャンパス)	オープンキャンパス2009 特別プログラム
エリザベト音楽大学	8月9日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	公開レッスン・体験授業など
広島女学院大学	8月9日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	全体説明会・講義・個別相談コーナーほか
安田女子大学	8月10日(月)	公開講座B	「高校生のための心理学セミナー」
県立広島大学	8月11日(火)	公開講座A (オープンキャンパス)	学科紹介・入試説明・模擬講義ほか 備北地域高校生対象：施設の引率見学

開催大学	開催日	プログラム	内 容
広島国際大学 (東広島)	8月23日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	大学入試説明会、AO入試説明会、個別相談、学生寮見学ツアー、各学科模擬講義、キャンパス見学ほか
エリザベト音楽大学	8月30日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	大学説明会・在学生演奏会・公開レッスン体験授業・パイプオルガン体験、大学案内
広島経済大学	8月30日(日)	公開講座A (オープンキャンパス)	総合ガイダンス～「センパイの声を聞こう！」 「推薦入試必勝ガイド」「学科別ミニ模擬講義」プロジェクトブースや施設見学など

■保護者対象プログラム

- ①広島県立吉田高等学校(18人)PTA 大学訪問
日 時：2009年10月22日(木) 9:00～16:30
訪問大学：広島経済大学 広島大学
- ②広島県立庄原格致高等学校(13人)PTA 大学訪問
日 時：2009年10月27日(火) 8:00～17:30
訪問大学：広島修道大学 安田女子大学 広島大学

■県立広島大学 公開講座A「大学入門 in 紫苑祭」

日 時：2009年10月11日(日)11:00～
会 場：県立広島大学 広島キャンパス
参加者：三次高校(6人)
プログラム内容：

- ①「本学の教育・特色について」
- ②「大学での学びとキャリアについて」
- ③「県大入門」
- ④「質疑応答」

※講義終了後は、「紫苑祭」の見学

帰路途中、広島市内数箇所の史跡を学長が案内

池田勇人元首相銅像、帝国議会議事堂、鈴木三重吉「赤い鳥」記念像 他

■広島修道大学 公開講座A「大学入門」・広島キャンパスフェスティバル 09 プログラム

日 時：2009 年 12 月 6 日(日)

会 場：広島修道大学 MAZDA Zoom Zoom スタジアム広島

参加者：三次高校、2 年生(14 人)1 年生(3 人)

プログラム内容：

①広島修道大学：学部学科説明、図書館見学ツアー

②広島キャンパスフェスティバル 09：オープンキャンパスブースに参加



写真4 学部学科説明



写真5 進学相談①



写真6 進学相談②

■平成21年度「経営学特別講義Ⅱ」実施

県立広島大学の庄原キャンパスで行われる遠隔講義に三次高校(6 人)と庄原実業高校(11 人)の生徒が参加。(延べ150 人)

①講義形式：

広島県を中心とするエクセレントカンパニーのトップマネジメントによるオムニバス形式の講義

②講義の概要・目標：

「トップマネジメントが語る これからの企業経営と地域」

広島を中心に様々な分野で事業展開する企業のトップマネジメントから企業経営の現状、動向等について講義。通常の講義では聞けない「生きた経営学」を学ぶ。

③開講時間：後期 木曜日 5 限目(16:20～17:50)

④講 義 室：広島キャンパス 1239 講義室、庄原キャンパス 2201 講義室(遠隔)

参加高校	日 時	講師名
三次高校 庄原実業高校	10 月 8 日(木)	佐々木茂喜 氏 オタフクソース(株) 代表取締役社長、広島市
三次高校 庄原実業高校	10 月 22 日(木)	脇坂 徳男 氏 (株)イズミ 人事総務部長、広島市
三次高校 庄原実業高校	10 月 29 日(木)	平田 克明 氏 (有)平田観光農園 代表取締役会長、三次市
庄原実業高校	11 月 5 日(木)	田邊 耕造 氏 アンデックス(株) 代表取締役社長、尾道市
庄原実業高校	11 月 12 日(木)	佐藤 利行 氏 (株)ハローズ 代表取締役社長、福山市
庄原実業高校	11 月 19 日(木)	澤井 誠 氏 (株)ウッドワン 取締役総務人事部長、廿日市市
庄原実業高校	12 月 10 日(木)	十倉 純子 氏 (株)ウーブル・ロールモデル研究所 代表取締役社長、広島市
庄原実業高校	12 月 17 日(木)	杉之原祥二 氏 マナック(株) 代表取締役社長、福山市

庄原実業高校	12月24日(木)	高橋 正 氏 (株)広島銀行 取締役会長、広島市
庄原実業高校	1月 7日(木)	中島 修治 氏 福留ハム(株) 代表取締役社長、広島市
庄原実業高校	1月14日(木)	松坂 敬太郎 氏 (株)ヒロボー 代表取締役社長、府中市
庄原実業高校	1月21日(木)	民秋 史也 氏 (株)モルテン 代表取締役社長、広島市

＜2010 年度プログラム＞

■大学へ行こうウィーク 8/1～8/11 の期間で開講される公開講座

開催大学	開催日	プログラム	内 容
鈴峯女子短期大学	8月1日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	実験実習体験・模擬授業・パネル展示・ 相談会(進学・入試相談)・学内見学・ 寮見学など
広島工業大学	8月2日(月)	公開講座 A	各学科紹介・全体紹介 「マイコンはこんなこともできる」 「Java による情報システム開発」「氷 から考える地域環境」施設見学など
安田女子大学 安田女子短期大学	8月3日(火)	公開講座 A	安田女子大学・安田女子短期大学紹介 「大学で学ぶということ」 キャンパス見学
広島経済大学	8月5日(木)	公開講座 A	オリエンテーション・大学現況説明 「ビジネスを見る目を磨く」キャンパ ス見学
エリザベト音楽大学	8月8日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	大学紹介・入試説明会・模擬授業 特別演奏会・個別相談コーナー・学内 見学ツアー
広島国際学院大学	8月8日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	学部・学科ガイダンス/施設・設備の見 学/キャンパスライフ紹介・体験談/ 模擬授業/個別相談/保護者説明会
広島女学院大学	8月8日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	オリエンテーション・全体説明会・講 座・各学科実習体験および展示・個別 相談コーナー・保護者説明会など
広島大学	8月8日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	オープンキャンパス 2010 B 群特別 プログラム
広島文化学園短期大学	8月8日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	学科別体験・オリエンテーション・大 学・学部紹介・学科別体験
県立広島大学	8月11日(水)	公開講座 A (オープンキャンパス)	学部学科紹介、入試説明、個別相談 (学生生活、教育内容、入試制度等)

開催大学	開催日	プログラム	内 容
比治山大学 比治山大学短期大学部	7月11日(日)	公開講座 A (オープンキャンパス)	オリエンテーション・大学・学部紹介・ 「入門！日本語の歴史」「翻訳の世界」 「染織体験」「陶芸体験」など学科講 義・キャンパス見学ほか
島根県立大学	7月17日(土)	公開講座 A (オープンキャンパス)	大学紹介・合格体験・留学体験・キャン パスランチ交流会・授業体験・クラ ブサークル体験、進学進路相談キャン パスツアーなど
広島国際大学	7月24日(土)	公開講座 A (オープンキャンパス)	大学入試説明会・各学科体験型イベン ト・各学科模擬講義・キャンパス見学

広島文教女子大学	7月31日(土)	公開講座A (オープンキャンパス)	オリエンテーション・大学・学部紹介・ 公開講座
広島修道大学	8月28日(土)	公開講座A (オープンキャンパス)	学部学科説明・A0・公募入試説明／対策 講座・模擬講義・予備校講師による入 試問題分析・高校1・2年生対象プログ ラム・保護者対象プログラムなど

■保護者対象プログラム

①広島県立庄原格致高等学校(14人)PTA 大学訪問

日 時：2010年10月18日(月) 9:10～15:30

訪問大学：県立広島大学 安田女子大学 広島大学

②広島県立吉田高等学校(13人)PTA 大学訪問

日 時：2010年10月26日(火) 10:40～13:40

訪問大学：広島修道大学 県立広島大学

③広島県立庄原実業高等学校(12人)PTA 大学訪問

日 時：2010年10月28日(木) 9:30～14:20

訪問大学：広島工業大学 広島経済大学 広島文教女子大学

■平成22年度「経営学特別講義Ⅱ」実施

県立広島大学の庄原キャンパスで行われる遠隔講義に三次高校(15人)と庄原実業高校(4人)の生徒が参加。(延べ104人)

①講義形式：

広島県を中心として、ソーシャル・ビジネス／コミュニティ・ビジネスを行っている組織のトップによるオムニバス形式の講義

②講義の概要・目標：

統一テーマ「ソーシャル・ビジネス最前線」

育児・保育、医療・年金、高齢者介護、コミュニティ崩壊、治安悪化、環境破壊など、わが国の社会には、従来の企業と行政を中心とする二元的な社会では解決が困難と思われる課題が山積している。こうした課題の解決に向けての活動を、ビジネスの手法を用いて実践しているのがソーシャル・ビジネスである。本講義の目的は、社会への問題意識を深めるとともに、ソーシャル・ビジネスの最前線を理解することにある。

③開講時間：後期 木曜日5限目(16:20～17:50)

④講 義 室：広島キャンパス 1239 講義室、庄原キャンパス 2201 講義室(遠隔)

参加高校	日 時	講師名
三次高校 庄原実業高校	10月7日(木)	中村 隆行 氏 ひろしまNPOセンター副代表理事、広島市
三次高校 庄原実業高校	10月14日(木)	岡田 吉弘 氏 農業生産法人アグリインダストリー代表取締役、福山
三次高校 庄原実業高校	10月21日(木)	下宮 勇生 氏 (有) S-Produce 代表取締役 CEO、広島市
三次高校 庄原実業高校	10月28日(木)	清水 久嗣 氏 (株)アスタビ代表取締役、広島市
三次高校	11月4日(木)	國田 博史 氏 NPO法人ピースウィングジャパン尾道支部長、尾道市
三次高校 庄原実業高校	11月11日(木)	木織 雅子 氏 NPO法人工房おのみち帆布理事長、尾道市
庄原実業高校	11月18日(木)	児玉 宏 氏 NPO法人コーチズ理事長、広島市

三次高校	11月25日(木)	北野 尚人 氏 (株)中国博報堂執行役員、広島市
三次高校 庄原実業高校	12月2日(木)	川口 隆司 氏 NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぼん理事長、広島市
三次高校 庄原実業高校	12月9日(木)	山崎 肇 氏 三菱電機(株)中国支社、広島市
三次高校 庄原実業高校	12月16日(木)	中村 真介 氏 三菱電機(株)中国支社、広島市
庄原実業高校	1月13日(木)	井上 英之 氏 慶応義塾大学総合政策学部、神奈川県藤沢市
庄原実業高校	1月20日(木)	児玉 学 氏 (株)ファインサポート代表取締役、広島市

2010 年度公開講座A「大学入門」アンケート結果(受講生)

1. 目的：現状と問題点を把握し、よりよい企画運営の提供を行う為。
2. 調査対象者：受講生(三次高校、庄原格致高校、庄原実業高校、日彰館高校)
3. 参加大学：比治山大学・比治山大学短期大学部、広島国際大学、広島工業大学、安田女子大学、広島経済大学、広島国際学院大学、広島女学院大学、広島大学、県立広島大学、広島修道大学
4. 調査方法：各大学の担当者にアンケート調査票を渡し、該当者に配布を依頼し、回収した。
※日程開催順
5. 調査期間：2010 年 7 月 11 日～8 月 28 日
6. 配布数と回収率

	配布数	回収数	回収率
受講生	243	207	85.2%

7. 調査結果：

F 1. あなたの学校名を書いてください。

(延べ人数)

三次高等学校	170	206
庄原格致高等学校	23	
庄原実業高等学校	10	
日彰館高等学校	3	
保護者・その他	1	1
合 計	207	

F 2. あなたは何年生ですか。

	高校 1 年 生	高校 2 年 生	高校 3 年 生	保護者 その他	回答なし	合計
人 数	1	158	45	1	2	207
割 合	0.5%	76.3%	21.7%	0.5%	1.0%	100.0%

F 3. あなたの性別は次のいずれですか。

	男	女	回答なし	合計
高校生	97	109	0	206
保護者・その他		1		1
総 計	97	110	0	207

F 4. あなたが行った大学どこですか。

大学名	高校生	保護者 その他	合計
比治山大学・比治山大学短期大学部	4		4
広島国際大学	15		15
広島工業大学	17		17
安田女子大学	31		31
広島経済大学	6		6
広島国際学院大学	7		7
広島女学院大学	8	1	9
広島大学	92		92
県立広島大学	25		25
広島修道大学	1		1
合 計	206	1	207

F 5. あなたは教育ネットワーク中国の講座を今までに受講したことがありますか。

	ある	ない	回答なし	総計
高校生	55	140	11	206
保護者・その他	1			1
合 計	56	140	11	207

問1 あなたが今回、このプログラムに参加しようと思った最も大きな理由は何ですか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 内容が面白そうだったから	30		30	14.5%
2 この大学へ来てみたかったから	83	1	84	40.7%
3 将来、この大学・短大への進学を考えているから	33		33	15.9%
4 バスが運行されたので、利用しやすかったから	52		52	25.1%
5 先生に薦められたから	3		3	1.4%
6 その他 ・希望している学科があったから ・見てみたかったから ・友達の付き添い	3		3	1.4%
回答なし	2		2	1.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問2 今回プログラムに参加したことは将来の進路の選択に役立ちそうですか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 大変役立ちそうである	87	1	88	42.5%
2 少し役立ちそうである	115		115	55.5%
3 ほとんど役立ちそうにない	2		2	1.0%
4 まったく役立ちそうにない	1		1	0.5%
回答なし	1		1	0.5%
合 計	206	1	207	100.0%

問3 今回参加したことで、参加前よりも大学への関心は深まりましたか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 大変深まった	102	1	103	49.8%
2 少し深まった	101		101	48.8%
3 あまり深まらなかった	3		3	1.4%
4 全く深まらなかった			0	0.0%
回答なし			0	0.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問4 今回参加したことで大学への進学意欲は増しましたか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 大変増した	94	1	95	45.9%
2 少し増した	110		110	53.1%
3 あまり増さなかった	2		2	1.0%
4 全く増さなかった			0	0.0%
回答なし			0	0.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問5 あなたはこのプログラムに参加してよかったですか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 大変よかった	142	1	143	69.1%
2 少しよかった	61		61	29.5%
3 あまりよくなかった	3		3	1.4%
4 まったくよくなかった			0	0.0%
回答なし			0	0.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問6 バスの行き帰りの出発時間は適当でしたか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 適当だった	162	1	163	78.8%
2 どちらとも言えない	41		41	19.8%
3 適当ではなかった ・学部の講義の終了時間が出発時間より 遅いから ・行きしにトラブルがあった ・早くて2部の講習を受けれない	3		3	1.4%
回答なし			0	0.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問7 次回も教育ネットワーク中国のバスを利用したいと思いますか

	高校生	保護者 その他	計	割合
1 思う	114	1	115	55.5%
2 やや思う	82		82	39.6%
3 あまり思わない	7		7	3.4%
4 まったく思わない	1		1	0.5%
回答なし	2		2	1.0%
合 計	206	1	207	100.0%

問8 全体の感想・意見などがあれば、書いてください

- ・絶対にこの大学に来たいと改めて思うことができました。
- ・進路に役立つことを知れたので良かったです。
- ・スライドショーなどを使って在学中の学生の方々の話を聞くことがとても分かりやす楽しかったです。
- ・その大学のことがよく分かって、とても良い経験になりました。
- ・自分の思っていたのと違ってとても良いなと思った。
- ・高校と比べるととても大規模だったことに驚いた。大学について知ることができたので来て良かった。
- ・新たな発見がいくつかあった。今後の進路決定に役立てたい。
- ・大学への興味がわいた！！
- ・大学での授業のやり方の違いにおどろいた。
- ・とても広かった。図書館でも色々調べたりできそうで楽しそうだった。いろんな場所が見れてよかった。
- ・オープンキャンパスでは見にいかなかったところが見れて良かったです。
- ・もっとこの大学に興味がわきました。
- ・今回オープンキャンパスに来ることを迷っていたけど、バスが運行されるということで決心がつけました。オープンキャンパスに参加できてとても良かったです。
- ・庄原から自分で代金を払って広島まで来ると行き帰りで4000円近くかかるので、この教育ネットワーク中国のバスがあってとても助かりました。
- ・たいへん便利でよい企画だと思います。保護者も利用できてとてもうれしいです。ありがとうございました。 など

2010 年度保護者対象講座アンケート結果

1. 目 的：保護者対象講座の現状と問題点を把握し、よりよい企画運営の提供を行う為。
2. 調査対象者：保護者(庄原格致高校、庄原実業高校、吉田高校)
3. 訪問大学：
 - 庄原格致高校：県立広島大学、安田女子大学、広島大学
 - 庄原実業高校：広島修道大学、県立広島大学
 - 吉 田 高 校：広島工業大学、広島経済大学、広島文教女子大学
4. 調査方法：各大学の担当者にアンケート調査票を渡し、該当者に配布を依頼し、回収した。
5. 運 行 日：10月18日(月)庄原格致高校
 10月26日(火)吉田高校
 10月28日(木)庄原実業高校

6. 調査結果：

F 1. お子様の学校名を書いてください。

庄原格致高等学校	9
庄原実業高等学校	7
日彰館高等学校	10
合 計	26

F 2. あてはまる番号に○印をつけてください。

	①保護者	②教職員	合計
人 数	24	2	26
割 合	92.3%	7.7%	100.0 %

F 3. あなたの性別は次のいずれですか。

	男	女	合計
保護者	7	17	24
教職員	2		2
合 計	9	17	26

F 4. あなたは教育ネットワーク中国の講座を今までに受講したことがありますか。

	ある	ない	回答なし	合計
保護者	5	17	2	24
教職員	1	1		2
合 計	6	18	2	26

問1 あなたが今回、このプログラムに参加しようと思った最も大きな理由は何ですか

	保護者	教職員	計	割合
1 内容が面白そうだったから	2		2	7.7%
2 これらの大学へ来てみたかったから	11	1	12	46.2%
3 将来、お子様がこれらの大学・短大への進学を考えているから	4	1	5	19.2%
4 バスが運行されたので、利用しやすかったから	5		5	19.2%
5 その他 ・PTA行事の参加企画の為 ・子供に対して親の感心があることを示すことになるから	2		2	7.7%
合 計	24	2	26	100.0%

問2 今回のプログラムは将来お子様の進路の選択に役立ちそうですか

	保護者	教職員	計	割合
1 大変役立ちそうである	10	2	12	46.2%
2 少し役立ちそうである	12		12	46.2%
3 ほとんど役立ちそうにない	2		2	7.6%
4 まったく役立ちそうにない				0.0%
合 計	24	2	26	100.0%

問3 今回参加したことで、参加前よりも大学への関心は深まりましたか

	保護者	教職員	計	割合
1 大変深まった	13	2	15	57.7%
2 少し深まった	11		11	42.3%
3 あまり深まらなかった				0.0%
4 全く深まらなかった				0.0%
合 計	24	2	26	100.0%

問4 あなたはこのプログラムに参加してよかったですか

	保護者	教職員	計	割合
1 大変よかった	21	2	23	88.5%
2 少しよかった	3		3	11.5%
3 あまりよくなかった				0.0%
4 まったくよくなかった				0.0%
合 計	24	2	26	100.0%

問5 バスの行き帰りの出発時間は適当でしたか

	保護者	教職員	計	割合
1 適当だった	22	2	24	92.3%
2 どちらとも言えない	2		2	7.7%
3 適当ではなかった ・行き場所によっては出発時間の調整もあってもよかったなと思った。				0.0%
合 計	24	2	26	100.0%

問6 次回も教育ネットワーク中国のバスを利用したいと思いますか

	保護者	教職員	計	割合
1 思う	17	2	19	73.1%
2 やや思う	6		6	23.1%
3 あまり思わない				0.0%
4 まったく思わない				0.0%
回答なし	1		1	3.8%
合 計	24	2	26	100.0%

問7 全体の感想・意見・今後希望するプログラム等あれば、書いてください。(原文記載)

(庄原格致高校保護者)

- ・役員の方々のお陰で大学という場が実際どういう事を重要とされているか、各大学の個性も知る事ができました。修道大学にも行ってみたい、どんな大学なのだろうと思いました。座って話を聞くだけよりも、学内を見てまわった方が、どんなところがよく実感できるような気がしました。ありがとうございました。
- ・とても楽しく、よい勉強になりました。大学の内部まで案内していただいたり、昼食までいただいたり、バスにも乗せていただいて、深く感謝しています。大学進学のこと、現実問題としてははっきりと目の前に開けてきたように思います。ありがとうございました。
- ・大学の方が大変快い対応をして下さり、感謝しています。是非来年度も本事業を継続していただければと思います。
- ・ありがとうございました。とても楽しく、参考になりました。
- ・なかなか大学についてのアドバイスができないが、今回実際に大学に訪問することで雰囲気、設備等見ることができ、子供と一緒に話ができてよかったと思う。(帰宅後にパンフレットを見ながら話をした。)長男(高3)にはもう遅いが、長女の進学の参考にしたいと思う。
- ・今回この企画に参加して、それぞれの大学の雰囲気を肌で感じることができ、大変よかったです。

(庄原実業高校保護者)

- ・大学だからこそできる教育内容を、もう少し詳しく知る事があるとよかったと思うが、特徴がそれぞれあってよかった。説明者の良し悪しが、大学の印象を左右するので、なるべく分かり易い説明を一人の人がしていただきたい。ありがとうございました。
- ・実業のOBの子供さんが話を聞かせてくれたのがよかった。

(吉田高校保護者・教職員)

- ・各大学の様子を知ることができてよかったです。
- ・大変参考になりました。修道大学の学食がおいしかったです。
- ・その大学の教授、学生なども声もあれば良いと思った。
- ・人数が少なかったので、もう少し参加される方が多いとよいと思いました。
- ・子どもと進路について話し合ういい機会になりました。

(1) 地域で生きる若者のためのキャリア講座

■ 事前検討会の開催

日 時：2009 年 10 月 14 日(水) 14:00～15:00

会 場：広島県立庄原実業高等学校

■ “教育ネットワーク中国シンポジウム”

地域で生きる若者のためのキャリア講座「中山間地域における担い手の育成」

【目 的】

備北地域の高校生に、県内の中山間地域で担い手として活躍する若者の思いや活動の実態を伝えることで、卒業後地元で働くという選択肢もあることを認識させる。

日 時：2009 年 11 月 7 日(土)10:30～11:50

会 場：庄原実業高等学校体育館

パネラー：せら夢公園 自然観察園 主任 猪谷信忠

北備建設(株)代表取締役 松森悦子

藤本農園 食育・広報担当 藤本 聡

コーディネーター：広島経済大学 准教授 山本公平

総 括：県立広島大学 名誉教授 野原建一

参加者：高校生・保護者・教職員・一般(約 400 人)

主 催：教育ネットワーク中国

後 援：広島県公立高等学校長協会三次支部、
広島県高等学校 P T A 連合会三次地区連合会

協 賛：広島県教育委員会

概 要：

3 人の広島県内の中山間地域で担い手として活躍するパネラーから、仕事を選択した動機や、普段の活動、仕事のやりがいなどの話を聞くことで、備北地域の高校生が大学等に進学後、地元に戻って働くという選択肢もあり、仕事としてやりがいもありそうだと感じられるようになることを目的として実施した。



写真 1 シンポジウム

(2) キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ 1

一高校生コミュニティビジネス講座一「地域での仕事づくりワークショップ 1」を開講した。

日 時：2009 年 7 月 11 日(土)10:30～

場 所：三次高校 理数教室

参加者：三次高校(22 人)

講 師：広島修道大学 商学部 教授 川名 和美、大学生 4 名(アシスタント)

目 的：この講座は、広島県中山間地域における若者の就業機会の増加及び雇用促進を長期目的としたものである。

中山間地域においては、若年層が域外に就業機会を求め、人材流出が多いという現状を鑑み、高校生が将来地元で U ターンする際、企業への就職だけではなく、自ら起業する、仕事を創造するという視点で、その際に必要な知識や仕事に対する価値観を培う。

講座内容：

①起業家精神(アントレプレナーシップ)とは

- ②若年層の起業活動の現状と国際比較
- ③コミュニティビジネスの事例紹介
 - ・広島修道大学の安芸人力組
 - ・商店街と連携した地域活性化イベントなど
- ④コミュニティビジネスの現状と課題
- ⑤ワークショップ
 - ・アシスタント大学生のサポートで、コミュニティビジネスのアイデア立案
- ⑥グループごとのプレゼンテーションと講評



写真2 プレゼンテーションの様子①



写真3 プレゼンテーションの様子②

(3) キャリア講座「地域での仕事づくり」ワークショップ2

過疎地域の人材育成事業の取り組みの一環として、備北地区高校生の卒業後の仕事について考えるキャリア講座を実施、広島経済大学A〇入試入学者を対象にした入学前セミナー(興動館育成プログラム)に参加して集団生活やグループワークのスキルを学ぶ。

<2009 年度プログラム>

■事前説明会を実施

研修の事前準備、実施内容の説明会をインターネットを使い遠隔授業形式で行う。

日 時：平成22年2月16日(火)16:30~17:30

会 場：広島県立三次学校(広島経済大学興動館の担当者から発信)

内 容：プログラムの内容について理解してもらう。

■「地域での仕事づくり」ワークショップ2

日 時：平成22年2月19日(金)~21日(日)

研修会場：広島経済大学土師ダム研修センター

参加者：1泊2日コース 三次高校(11人)

2泊3日コース 吉田高校(7人) 向原高校(8人)



写真4 プレゼンテーションの様子①



写真5 プレゼンテーションの様子②

「高校生たちが安芸高田市八千代町の活性化案を考える報告会」2009

司 会：広島経済大学 興動館 副館長 中村 克洋
開会挨拶：広島経済大学 学長 前川 功一
来賓挨拶：安芸高田市八千代支所 支所長 藤本 宏良
活動報告：(報告・質疑応答・審査)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① キラキラボート I N 八千代湖 | T h e ゆくちゃんチーム |
| ② 八千代町で愛される Cafe | チームひろむ |
| ③ 知って！楽しもう！八千代町 | ブラックサンダー |
| ④ 自然を学ぶのどごえツアー | さくらドロップス |
| ⑤ 土師ダムバス釣り大会 | ぎゃんぶちじゃけん |
| ⑥ おもしろいフリーペーパーを作ろう！ | Y T R S O |
| ⑦ Light On！ in Yachiyo | つつきーをゆかいな仲間達 |
| ⑧ 八千代の自然と昔遊び(親子で楽しむ八千代) | E T |
| ⑨ 八千代湖スポーツツアー | 陽水 |
| ⑩ 八千代の四季変化 | レインボーの和 |

審査結果発表
閉会セレモニー

<2010 年度プログラム>

■事前説明会を実施

研修の事前準備、実施内容の説明会を三次高校で行う。

日 時：平成 23 年 2 月 8 日(火)16：20～17：20

会 場：広島県立三次学校

内 容：プログラムの内容について理解してもらう。

■「地域での仕事づくり」ワークショップ 2

日 時：平成 23 年 2 月 18 日(金)～20(日)

研修会場：広島経済大学土師ダム研修センター

参加者：2 泊 3 日コース 吉田高校(7 人)向原高校(4 人)三次高校(2 人)

「高校生たちが安芸高田市八千代町の活性化案を考える報告会」2010

司 会：広島経済大学 興動館 副館長 中村 克洋
開会挨拶：広島経済大学 興動館 副館長 中村 克洋
来賓挨拶：サイクリングターミナル所長 河野雄二
活動報告：(報告・質疑応答・審査)

- | | |
|-------------------|-----------|
| ① 八千代MUS I Cロード | さわやか男子 |
| ② 花見&桜春フェスタツアー | TAMAKO |
| ③ みんなで守ろう桜の木 | J I L L B |
| ④ いい町八千代 かまくら イルミ | 草食ライオン |
| ⑤ 光の八千代に行きやっちょ | アンダーボーイズ |

審査結果発表
閉会セレモニー

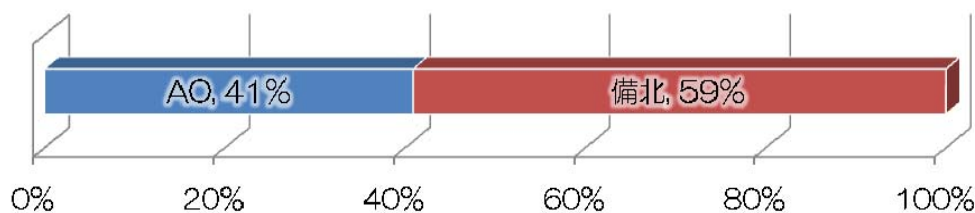
平成 23 年度「地域での仕事づくり」ワークショップ 2 参加者アンケートについて

1. Q1. あなたについて教えてください。

対 象：AO 入学者 9 名 41%、備北地域高校生(三次、向原、吉田) 13 名 59%

回 収 率：100%(23 名中 23 名回収)

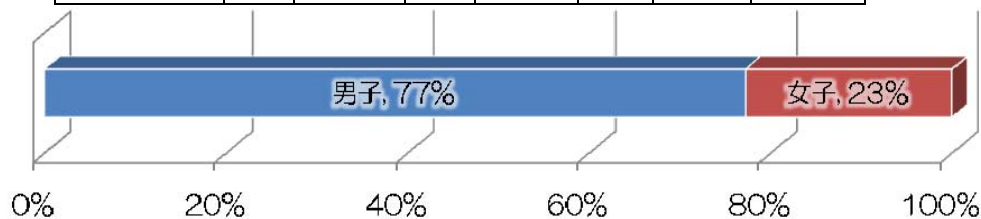
高校生内訳		
AO	9	41%
備北	13	59%



戦略的・大学連携支援事業 キャリア講座「地域での仕事づくり」として、備北地域の高校生が 13 名(三次、向原、吉田高校 1～3 年生)を受け入れ。※受け入れは 14 名を予定していたが内 1 名欠席

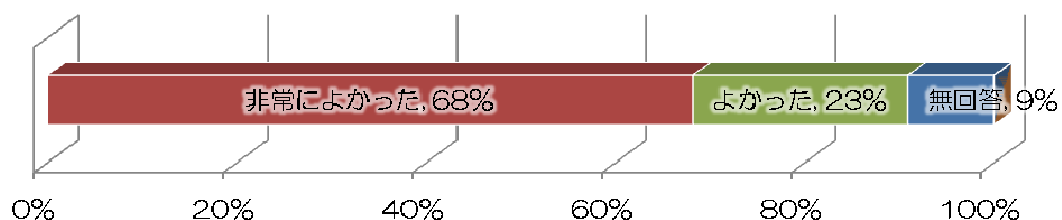
男 女 比：男性 41 人 76%、女性 13 人 24%

項 目	H21		H22		H23		前年比
男性	18	62%	41	76%	17	77%	1%
女性	11	38%	13	24%	5	23%	-1%



2. Q2. このプログラムの印象について教えてください。

項 目	H21		H22		H23		前年比
無回答	0	0%	0	0%	2	9%	9%
非常に良かった	13	45%	22	41%	15	68%	27%
よかった	14	48%	26	48%	5	23%	-25%
ふつう	2	7%	5	9%	0	0%	0%
悪い	0	0%	1	2%	0	0%	0%
非常に悪かった	0	0%	0	0%	0	0%	0%

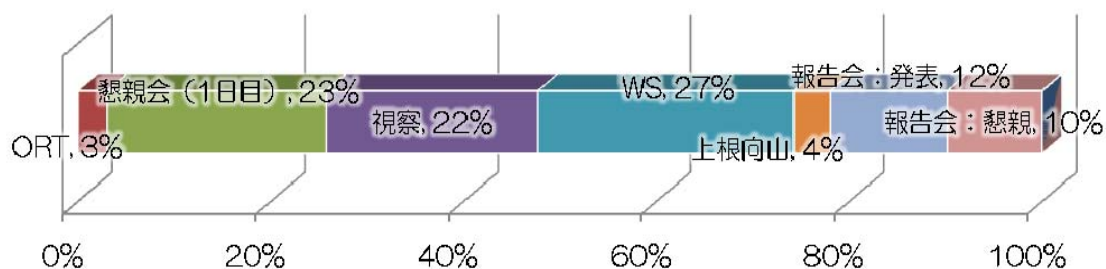


「非常に良かった」、「良かった」を合わせると約 90%、満足度の非常に高いプログラムであったと言える。

3. Q3. このプログラムに参加してよかったことは何ですか？(複数回答可)

※H23年度はランキング付け(1～3位)をし、ポイント制(1位は3P、2位は2P、3位は1P)で集計。

項 目	H21		H22		H23		前年比
無回答	0	0%	1	1%	0	0	1%
オリエンテーション	6	5%	17	9%	4	3%	-6%
懇親会(1日目)	10	9%	22	12%	30	23%	11%
視察(2日目)	12	11%	18	10%	29	22%	12%
活性化を考えるWS	20	18%	32	17%	35	27%	10%
上根向山地域振興会がつくる夕食	14	13%	18	10%	5	4%	-6%
報告会：発表会	17	15%	20	11%	16	12%	1%
報告会：懇親会	13	12%	22	12%	13	10%	2%
友だちができた	20	18%	33	18%	-	-	-

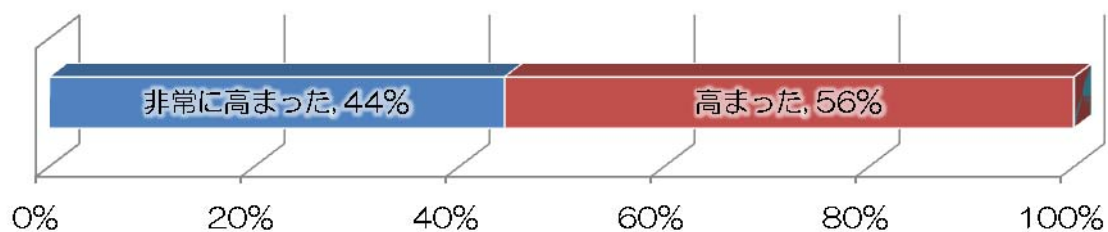


4. Q4. このプログラムに参加して感じたことを何でもいいのでお聞かせ下さい。

- はじめはとても嫌だったけれど、実際に来てみると思ったより楽しくてこれからも積極的に何でも参加していこうかなと思った。
- 最初は本当に嫌でしたが最後は楽しかったです。
- 班の全員で意見を出し合っていく中で協調性や主体性の大切さを実感できた。
- はじめて会った人とチームを組み、チームで案を出して良いものをつくっていくのが楽しかったです。
- たくさんの人と仲良くでき、ひとつのことを考え、つくっていく楽しさを学んだ。
- 最初はやる気がなかったけど、来てみてとても楽しくて来て良かった。
- とても良い企画だった。
- 経済大学に入学したい意欲が強くなりました。そして普段、身近にあるものについて詳しく知れたことに満足しています。
- 知らない人とたくさん関わることができた。貴重な体験でき良かったです。大学に行っても、しっかりシェア型のリーダーシップで頑張っていきたいと考えています。
- 楽しかったです。
- 楽しかった。
- 是非今後も続けてください。
- 最高でした。
- 楽しかった。もっと経大に興味を持った。
- とてもいい行事だと思う。
- 来年はサポーターとして絶対に参加したいです。

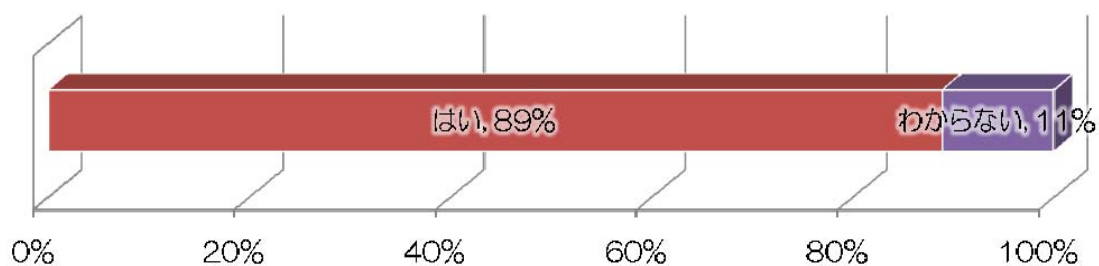
5. Q5. このプログラムに参加して入学後のプロジェクト活動への意欲は高まりましたか？

項 目	H21	H22	H23	前年比
無回答	0%	3%	0%	-3%
非常に高まった	24%	26%	44%	18%
高まった	69%	50%	56%	-6%
変わらない	3%	18%	0%	-18%
下がった	3%	3%	0%	-3%
かなり下がった	0%	0%	0%	0%



6. Q6. 相談できる教職員、先輩はできましたか？

項 目	H21	H22	H23	前年比
無回答	0%	5%	0%	-5%
はい	97%	47%	89%	42%
いいえ	0%	3%	0%	-3%
わからない	3%	45%	11%	-34%



平成 23 年度高校生が八千代町の活性化案について考える報告会アンケートについて

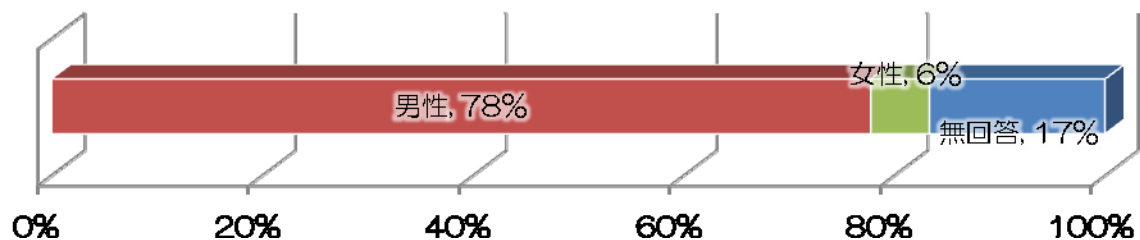
1. Q1. あなたについて教えてください。

対 象：報告会参加者 21 名

回 収 率：86% (21 名の内 18 名が回答) 前年度 58% 回収率 28%UP

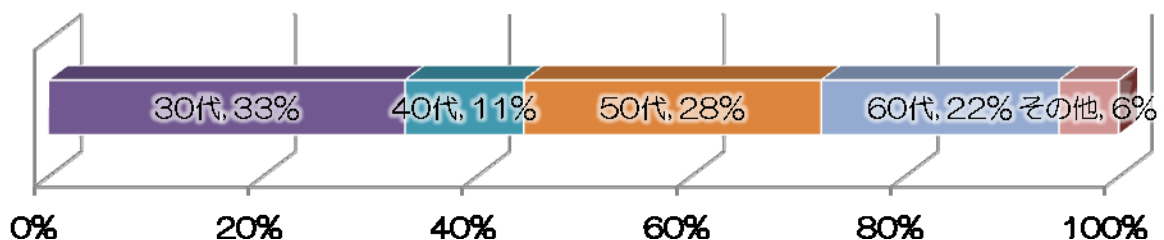
男 女 比：

項 目	H21		H22		H23		前年比
無回答	5	16%	5	15%	3	17%	2%
男性	18	58%	22	67%	14	78%	11%
女性	8	26%	6	18%	1	6%	-12%



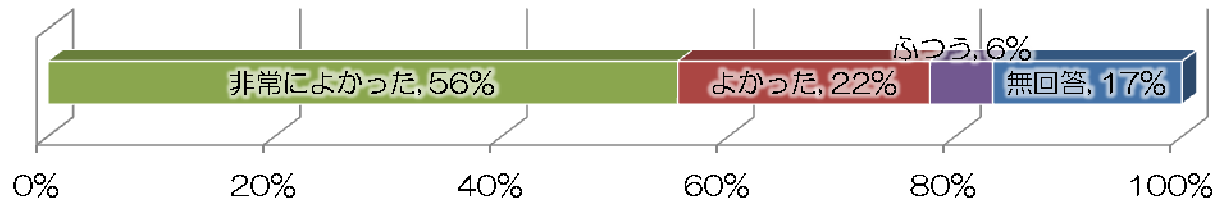
年齢内訳：

項 目	H21		H22		H23		前年比
無回答	1	3%	3	9%	0	0%	9%
10代	0	0%	0	0%	0	0%	0%
20代	1	3%	1	3%	0	0%	-3%
30代	3	10%	3	9%	6	33%	24%
40代	2	6%	2	6%	2	11%	5%
50代	9	29%	7	21%	5	28%	7%
60代	10	32%	13	39%	4	22%	-17%
70代以上	5	16%	4	12%	1	6%	-6%



2. Q2. この報告会の内容について印象を教えてください。

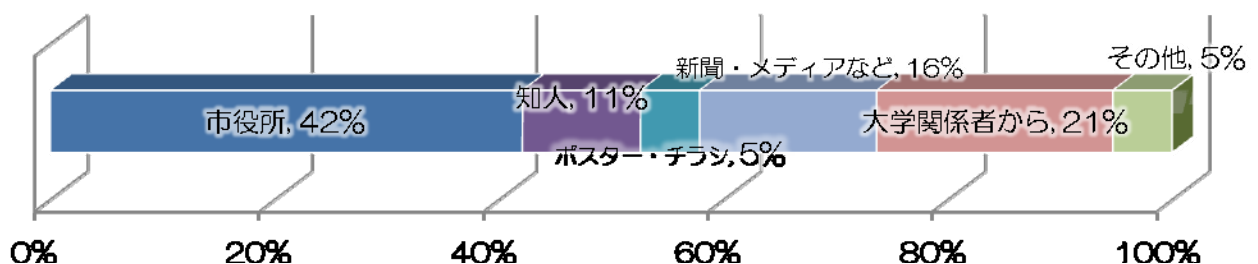
項 目	H 2 1		H 2 2		H 2 3		前年比
無回答	16	52%	7	21%	3	17%	-4%
非常に良い	6	19%	14	42%	10	56%	14%
良い	7	23%	12	36%	4	22%	-14%
ふつう	1	3%	0	0%	1	6%	6%
悪い	1	3%	0	0%	0	0%	0%
とても悪い	0	0%	0	0%	0	0%	0%



3. Q3. 本日の報告会についてお答えください。

① どこで報告会について知りましたか？

項 目	H 2 1		H 2 2		H 2 3		前年比
無回答	1	3%	2	6%	0	0%	0%
市役所から	5	15%	9	25%	8	42%	17%
回覧板	8	24%	7	19%	0	0%	-19%
知人から	5	15%	7	19%	2	11%	-8%
ポスター・チラシなど	3	9%	1	3%	1	5%	2%
インターネット	0	0%	0	0%	0	0%	0%
新聞記事などメディア	0	0%	1	3%	3	16%	13%
大学関係者から	4	12%	8	22%	4	21%	1%
その他	7	21%	1	3%	1	5%	2%



② 各チームの発表を聞いて、印象に残ったことやご意見をお聞かせください。

【ポジティブ】

- 学生の企画やアイデアを発表する積極的な姿勢が印象に残りました。地域の財産を活かし、環境を守るアイデアもあり良かったと思います。
- 夢のある意見、参考になりました。
- Music ロードはいいアイデアで実現可能な気がします。
- 若い人は夢があるので良い。
- ユニークな発想には感激しました。他の町の事なのに皆、真剣に考えていることが素晴らしい。
- 冬の観光客のことを考えてもらってよかった。
- PR の充実、郷土料理の活用、桜の活用、ダム電力の活用など、これらは具体化可

能な提案で、すべてエコにつながる。

- 斬新な発表で、現実にはほど遠いがサイクリングの音楽は面白い。
- 土師ダム周辺の活性化策を提案いただきありがとうございました。生徒の発表内容も素晴らしいものでした。
- ダムの電気を使うツリーの発想が良かった。
- 実現できること、できないことがあったけど発想がおもしろかった。
- 土師ダムの事を何も知らなかった高校生がよく調べ地域を支えていこうという熱の伝わる発想ばかりでした。
- 土師ダム、八千代湖が全く知られていない現状を知った。
- 各チームは自分のことと思って一生懸命発表されており大変良かったです。
- サイクリングロードの音楽というのは、おそらく全国どこにもないので、ぜひ実施してほしいと思います。
- 斬新なアイデアが多く感心しました。おもしろい。楽しい。夢がある。そう思いました。

【ネガティブ】

- 実現性の高さはあるが夢がもう少しあれば。

③ その他、本日の報告会に関するご意見ご感想をお聞かせ下さい。

【ポジティブ】

- 夜遅くまで企画を考え、熱心に取り組んでいたそうで、大変良い取り組みだと感じました。
- ひとつは採用するぐらいの行政との連携があった方がこの発表の意味がある。
- 高校生とは思えないほどの力強い発表でした。
- 夢のある発表をありがとうございます。
- 積み木体験、美しい四季の撮影会、ポスター募集で関心を持たせるなど現実性がある。
- 良いと思った。
- 今後も八千代のために続けていただきたい。
- 最後のビデオは密度の高さを感じさせるもので、見ているだけで感動しました。
- まだまだ良い案ができると思いますので、少しの間続けてもらいたい。
- 実現可能な意見ばかりで、興味深く感じました。ひとつでも実現できたら良いですね。

【ネガティブ】

- 良かったと思うが、班の発表後に質疑応答の方が良かった。

4. Q4. 広島経済大学に対するご意見・ご感想・その他何でも結構です。自由に記入してください。

【ポジティブ】

- 地域の経済に根ざした活動や教育をすすめ、地域経済を支える人を育てている印象を持っています。
- 八千代との関わり合いを益々深めて活動してください。
- これからも地域と共に学ぶキャンパスであって欲しいです。
- 地域とのつながりを大切にしてほしい。
- 若い視点に触れられてうれしかった。
- 八千代町の活性化だけでなく、安芸高田市の活性化等の検討を大学と連携できたらと考えています。
- 非常に良い企画をされており、続けてほしい。
- いつも先進的な大学のイメージを発信されて素晴らしいと思います。大学の元気を感じます。
- 高校生達が一生懸命考え、企画したことに出席でき、非常に良かったと思います。市の役員の方にぜひ実行していただきたいと思います。

高大民連携でキャリア講座

職業人がアドバイス



教育ネットワーク中国(市川太一代表幹事)は、高大連携事業として11月7日、「中山間地域における担い手の育成」をテーマに「地域で生きる若者のためのキャリア講座」と題するシンポジウムを、広島県立庄原実業高校で開催した。

同ネットワークは、大学・短大など27校が加盟している。シンポジウムでは、広島経済大学の山本公平准教授がコーディネーターを務め、県内の中山間地域で担い手として活躍する3人と同校生徒2人がパネリストとなった。同校生徒が将来、備北地域各職業人が高校生に熱いエールを送った。

広島県立庄原実業高校で

「読書で様々な考えを知ってほしい」

要性と魅力が教えられたこと」が農業を継ぐきっかけであったと述べた。県立大学を卒業後すぐに

(同県北東部)の担い手として生きていくことについて、意見や思いを交わした。パネリストとして参加した庄原市東城町でアイガモ農法による安全で安心できる米作りを行う(株)藤本農園の藤本聡代表取締役は、「小学校2年生のとき、担任に農業の重

「好きなものを見つけ情熱ぶつけて」

就農し、現在は「地元の小・中学生への食育教育や都市の消費者との交流を進める中で、自らも成長する」ことが担い手としてのやりがいであると語った。庄原市高野町でギムチ

産野菜を使うことで地域の活性化に役立ちたい」と述べた。また、愛媛県から大学院修了後に「せらゆめ公園・自然観察園」にインターン就職した猪谷信忠主任は、「学生時代の環

土河美紀さんが「社員の日休みの過ごし方」について質問したところ、松森さんが「演劇サークルに所属するなどして、地域の中で楽しんでいるようだ」と備北地域での若者の充実した生活ぶりを語った。

もう一人の高校生パネリスト、生物生産学科3年生の横山光亮さんが「庄原実業生へのアドバイス」を依頼すると、猪谷さんは「読書によって様々な考えを知ること」とし、松森さんは「自分を信じて決めたことはやり続けること」であると述べた。藤本さんは自らの体験をもとに「好きなこと」を身につけて恥ずかしがらずに情熱をぶつけてほしい」と語った。また、聴衆として参加した宮本佳奈さん(25歳、地元庄原)は「自分たちの地域にも希望がもてました」と語った。

総括として、県立広島大学の野原健一名誉教授が「中山間地域の担い手の充実した仕事を学ぶことができた。今後の指針としてほしい」というようなシンポジウムを毎年開催してほしい」とまとめた。

を製造し「女子高生ギムチ」という斬新な商品名で全国に販売する北備建設(株)の松森悦子代表取締役は、「新規事業で不安もあったが、ユニークな商品名から多くのマスコミで取り上げられて販売量は増加している」とし、「社員は自宅通勤を喜んでおり、今後も地元

環境教育の実践者たちとの交流」が備北地域の世羅町で就職した勤労者であり、自然観察園での活動について「里山が、人の手によって守られている自然であることを多くの人に伝えることが充実している」と語った。高校生パネリストを務めた生活科学科3年生の

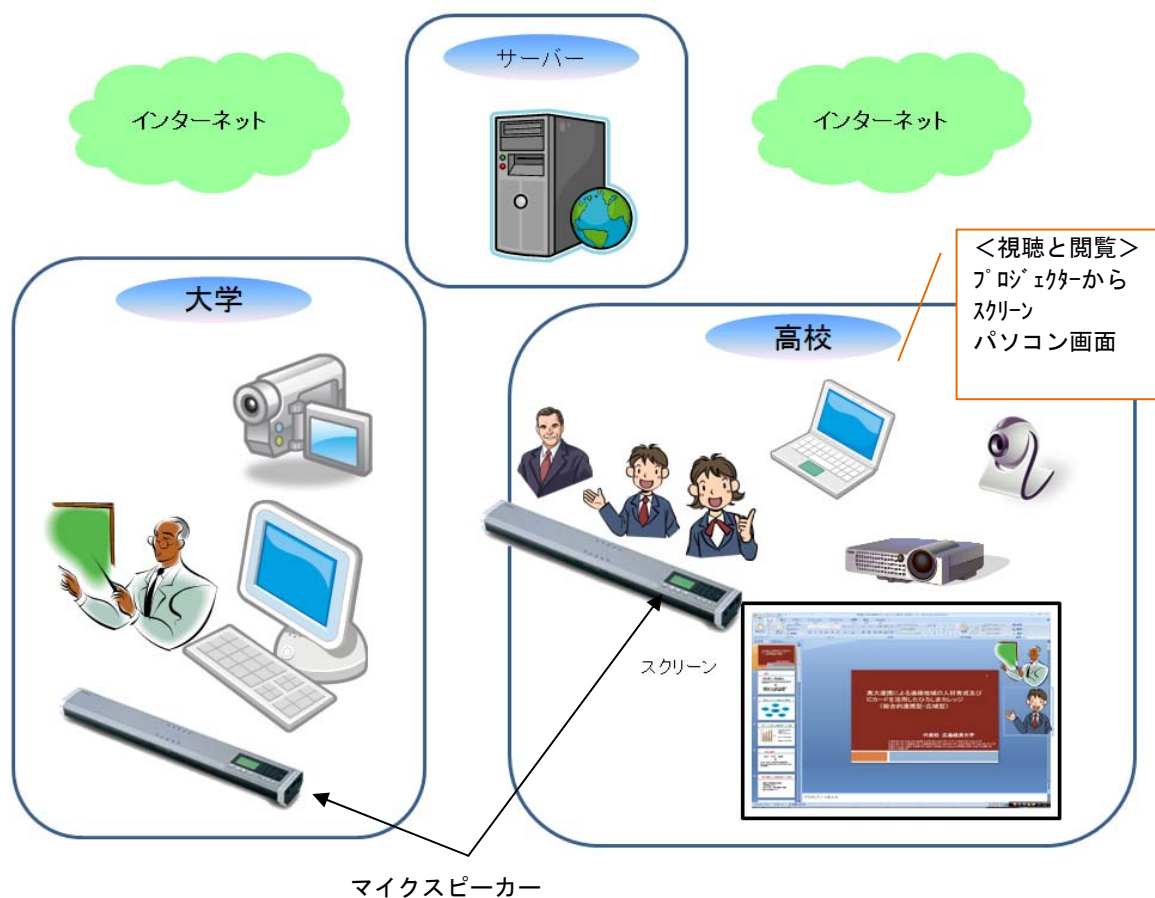
教育ネットワーク中国が実施してきた主要な事業をより高度化しようとする取り組みである。「高大連携による過疎地域の人材育成」とは過疎地域に指定されている広島県三次市、庄原市、安芸高田市にある高校の人材育成のために、より高度な学習機会を提供し、大学進学意欲を向上させ、将来地元に戻って働く意識を涵養するために高大連携事業を展開します。大学と高校の距離があるために、IT技術を利用した遠隔授業を行う。

過疎地域と言われる備北地区の高校に配信授業を行うために、様々なテストを繰り返し行いました。その中で、インフラの整備が整ってなく、光回線も三次地区に一部しか通っていないことや、広島県の回線も細いことなどがわかった。

備北地区の高校におけるインターネット回線状況調査アンケート回答では、10人がWebを見ようとしたところフリーズする、または動作が遅いなどと広島市内では考えられない現状がある。

今回の遠隔授業でIT技術を体感し、大学のより高度な授業を受けることにより、高校生の学習意欲を高め、ゼミ形式のような授業を体験してもらうことにより、大学進学意欲の向上を期待するとともに県北における教育力の向上を目指す。

図1 遠隔授業イメージ



※ムロオシステム ビジュアルデスク2(会議システム)使用

(1) 高大連携遠隔授業模擬授業・説明会

日 時：2009 年 2 月 17 日(火) 16：05～
 会 場：広島県立三次高等学校
 ：広島女学院大学(写真 1)
 内 容：遠隔デモ授業(50 分)
 説明会(30 分)
 質疑応答(30 分)



写真 1 遠隔授業説明会

高大連携遠隔授業模擬授業および実施説明会を広島女学院大学と三次高等学校で 2 月 17 日に開催した。本事業の補助金で導入した遠隔授業システムと機材を使用し、広島女学院大学では 12 大学の教職員 20 人、三次高等学校では備北地区の 9 高校の教職員 14 人と高校生 13 人が、広島女学院大学から配信される遠隔授業を受講し、遠隔授業システム操作、回線の状況等を確認した。回線が不安定でパワーポイント共有の映像や音声とも満足 of いく結果とはならなかった。

しかし、受講した高校生や教員からは、「進んだ技術を使って授業をするのは刺激になる」「遠隔地でなかなか大学に行く機会がないので良いと思う」など、今後の改善に期待する声も聞かれた。不測の事態に応じる対策として遠隔サポート(専門的な業者)が必要であるとの意見が大学側と高校側から出された。

その後、大学、備北地区高校 10 校の双方に環境チェックシートを提出してもらい、業者が確認を行うとともに、広島女学院大学、広島修道大学、広島経済大学などとの間で数回にわたって回線テストを行った。また、遠隔授業地域を対象にして、NTT の ADSL・B フレッツ、FOMACARD、他のプロバイダーとも回線の状況をテストした。広島県教育委員会とも回線の状況について協議した。

日 時：2009 年 3 月 26 日(木) 遠隔講義研修会
 場 所：広島女学院大学 601PC 教室、602PC 教室
 参加者：広島修道大学 矢田部教授、広島経済大学 野北教授、
 広島女学院大学 中田准教授、他補助

大学間ではファイル共有もでき音声も安定していた。備北地区は現在のところ三次高校には光回線が通っているが、その他の地域は ADSL 回線であること、また利用している広島県の回線が細いことが分かった。携帯カード等のテストを実施したが回線の安定は認められないため、広島県の回線とは別の回線を利用した高大連携遠隔授業を実施することとした。

その後、遠隔授業希望調査を基に、まずは 2009 年度前期、光回線で三次高校に遠隔授業を実施し、庄原格致高校、向原高校、日彰館高校は校内の回線工事を行う必要があるため ADSL 回線で後期からの授業開始とした。

<高大連携遠隔授業スケジュール>

日 程	高 校	大 学	教育ネットワーク中国
2 月	希望調査回答票提出		実施高校に希望調査依頼文発送
3 月			各大学に科目提供依頼文発送
4 月		実施概要等回答提出	遠隔授業日程調整
6 月～7 月	前期遠隔授業	前期遠隔授業	
7 月			遠隔授業日程調整
10 月～11 月	後期遠隔授業	後期遠隔授業	

高大連携遠隔授業科目提供大学：

広島経済大学、広島女学院大学、広島国際大学、広島修道大学、広島文教女子大学
 比治山大学、比治山大学短期大学部、安田女子大学、安田女子短期大学部、広島工業大学

(2) 高大連携遠隔授業(前期・後期)

前期：4 大学、三次高校配信 (66 人受講)

後期：6 大学、三次高校・庄原格致高校・向原高校・日彰館高校の 4 高校へ配信
(107 人受講、内 2 高校同時配信 4 回)



写真2 広島経済大学細井教授、授業配信



写真3 広島国際大学授業、三次高校教室

2009 年度前期(6 月～7 月)

高校	提供大学	学問分野	講師名	講座名
三次	広島経済大学	社会科学系 経営学	細井 謙一	経済を見る目を磨く
	広島女学院大学	複合系 教養(総合科学)	宇吹 暁	世界遺産入門
		複合系 教養(総合科学)	中田 美喜子	メールの常識・非常識
		人文科学系 文化・文学	澤村 雅史	しかくってまるいもの 多元的思考のすすめ
	広島国際大学	社会科学系 社会学・社会福祉学	八木 裕子	福祉の世界へようこそ！
	広島修道大学	社会科学系 政治学	矢田部 順二	世界や日本、「自分」をつなぐ国 際政治学

2009 年度後期(10 月～12 月)

高校	提供大学	学問分野	講師名	講座名
三次	広島文教女子大学	人文科学系 心理学	植田 智 福田 雄一 田村 進	「心理学ってなんだろう!？」
庄原格致				
向原	広島女学院大学	複合系 食物・被服・生活(児童など)	鈴木 道子	幼児教育
		人文科学系 外国語学・言語学	John Herbert	英語のコミュニケーション
庄原格致	比治山大学 比治山大学短期大学部	人文科学系 教育学	湯地 宏樹	保育道 — 子どもを知る、保育を知る、 自分を知る —
三次	安田女子大学 安田女子短期大学	人文科学系 教育学	柿岡 玲子	保育入門
日彰館				
向原	広島経済大学	社会科学系 経済学	細井 謙一	経済を見る目を磨く
日彰館				
三次	広島工業大学	自然科学系 自然科学系の情報	長坂 康史	インターネットの仕組み
向原				

前期：6 大学、三次高校・庄原格致高校・向原高校・日彰館高校の 4 高校へ配信
(129 人受講、内 2 高校同時配信 3 回)

後期：7 大学、三次高校・庄原格致高校・向原高校・日彰館高校の 4 高校へ配信
(144 人受講、内 2 高校同時配信 4 回)

2010 年前期(6 月～8 月)

高校	提供大学	学問分野	講師名	講座名
三次	比治山大学	社会科学系 社会学・社会福祉学	山田 知子	「人口減少、 少子・高齢社会」 で「地域社会」を解く
庄原格致	広島経済大学	社会科学系 経営学	細井 謙一	経済を見る目を磨く
庄原格致	広島工業大学	自然科学系 自然科学系の情報	長坂 康史	インターネットの仕組み
向原	広島国際大学	社会科学系 社会学・社会福祉学	八木 裕子	福祉の世界へようこそ！
三次 日彰館	広島国際大学	自然科学系 工学	藤田 盟児	人とデザイン
三次	広島修道大学	社会科学系 商学・経営	木谷 直俊	航空と空港
向原 日彰館	広島修道大学	社会科学系 経済学および商 学・経営	大塚 建司	サブプライム以降の経済情勢と 企業動向について
向原	広島女学院大学	人文科学系 外国語学・言語学	John Herbert	英語でコミュニケーション
日彰館		人文科学系 教育学	田中 沙織	幼児期の健康について ～心と体のストレッチ～
庄原格致	広島女学院大学	人文科学系 外国語学・言語学	柚木 靖史	漢字の世界―当て字の話― 漢字の世界―名前と漢字―

2010 年後期(10 月～11 月)

高校	提供大学	学問分野	講師名	講座名
向原 日彰館	比治山大学短期大学部	人文科学系 教育学	七木田 方美	人と人のあいだ―「ここ」と「そ こ」―
三次	広島経済大学	社会科学系 経営学	細井 謙一	経済を見る目を磨く
日彰館 庄原格致	広島工業大学	複合系 教養	金 凡性	近現代日本における科学・技術と 人間・身体・環境
三次 向原	広島工業大学	自然科学系 工学 自然科学系の情報	永田 武	新エネルギー供給形態(スマート グリッド)
庄原格致	広島国際大学	自然科学系 工学	藤田 盟児	モダンデザインの誕生
三次	広島修道大学	社会科学系 法学	田邊 真敏	「私のものとあなたのもの」
庄原格致	広島女学院大学	自然科学系 理学・農学	田頭 紀和	植物バイオテクノロジーの世界
向原	広島女学院大学	人文科学系 文化・文学	澤村 雅史	「しかくってまるいもの」～多元 的思考のススメ～
日彰館		複合系 教養(総合科学)	中田 美喜子	メールの常識・非常識
庄原格致	安田女子大学	自然科学系 保健	神田 博史	「植物のしたたかな多様性と薬 用植物学―甘い話から根も葉も ない話―」

中山間地域の高校を対象にした遠隔授業

中田 美喜子

広島女学院大学 生活科学部 教育ネットワーク中国

nakata@hju.ac.jp

概要：広島県における大学コンソーシアム、教育ネットワーク中国では、広島県の備北地区の高校と連携し、県内の各大学のオープンキャンパスにバスの送迎を行うなどお支援事業を行っている。その一環として、高校と大学間でインターネットを利用した遠隔授業を開催した。県内の各大学から備北地区の高校へ遠隔授業を実施したので報告する。

キーワード：遠隔授業、インターネット、大学コンソーシアム

1 はじめに

現在 e-learning や遠隔講義は様々な内容や形式で行われ、学習効果をあげていると報告されている。特に遠隔講義については、離れた大学キャンパスにおける同時講義や、人数の多いクラスにおける遠隔講義併用開講など、同じ大学内での開講が多く報告されている。大学間においては、それぞれの地域にある大学コンソーシアムで実施している単位互換制度における科目の中で、遠隔講義で開講しているものもある[1][2]。今までの報告では、インターネット速度及び機材の性能などに依存しているため、機器の進歩により改善が多く見られると思われる[3]。

教育ネットワーク中国では、備北地区における高校からの大学進学を支援するため、オープンキャンパスへの送迎を補助金事業として行った。補助金事業の中に高大連携による大学の講義を高校で聴こうという遠隔講義を企画し実施したので報告する。

2 方法

2.1 ネットワーク機器設備

備北地区における高校は「平和ネット」といわれる広島県教育委員会の配置しているネットワークを利用してインターネット接続を行っている。インターネットテレビ会議システムを利用するため、広島市内の大学間で接続テストを行った。映像、音声ともに快適に見聞きすることが可能であった。次に、備北地区の高校と実際に接続テストを実施した。接続はするが、画面もコマ送りの映像となり、音声も途中で途切れることが頻発した。インターネット回線のスピードが遅いためのものであった。

そのため、備北地区に B フレッツ光が接続可能である高校には光を、ADSL の接続のみの地区には ADSL の接続を新たに引き、高校内に配線を行い再度接続テストを実施した。

光接続では快適に、また ADSL においても画像・音声とも快適な接続状況が得られた。

2.2 会議システム

遠隔授業で利用した会議システムは V2 Conference 5.6.0.20 を用いた(図1)。



図 1 テレビ会議画面(1.提示パワーポイント画面、2.講師・教員、3.高校側生徒、4.高校側提示画面)

2.3 講義方法

講義方法については、以下の条件で行うこととした。

1. 資料はプレゼン用ソフトで作成して、大学から高校側へ配信しながら講義する
2. 講義時間は 45 分 高校の授業時間なので短くまとめること
3. 手持ち資料が必要であれば事前にメールで送付しておく
4. 大学側の設備 カメラ、コンピュータ 2 台、マイクスピーカ (図 2)
5. 高校側の設備 カメラ、コンピュータ 1 台、マイクスピーカ

授業については、高校・大学両方へ技術サポートの人員を各 1 名配置して機材を設置した。福祉関連の講義、経済関連講義、世界遺産関連講義、哲学関連講義など 2009 年度前期は 6 科目を 1 高校へ配信であったが、2009 年後期では、7 科目を 4 高校へ配信、2010 年前期には、9 科目を 4 高校へ配信している(表 1)。



表 1 2010 年度前期授業科目一覧

図 2 教員側講義設備

日 時	高校	実施大学	講座名
7 月 8・15 日	三次高校	比治山大学	「人口減少、少子・高齢社会」で「地域社会」を解く
6 月 30 日 7 月 7 日	庄原格致	広島経済大学	経済を見る目を磨く
6 月 21・28 日	庄原格致	広島工業大学	インターネットの仕組み
6 月 10・17 日	向原	広島国際大学	福祉の世界へようこそ！
6 月 15・22 日	<u>三次・日彰館</u>	広島国際大学	人とデザイン
6 月 18・日 7 月 9 日	三次高校	広島修道大学	航空と空港
6 月 1・8 日	<u>向原・日彰館</u>	広島修道大学	サブプライム以降の経済情勢と企業動向について
6 月 4 日 7 月 12 日	<u>向原・日彰館</u>	広島女学院大学	英語でコミュニケーション
8 月 25・30 日	庄原格致	広島女学院大学	漢字の世界—当て字の話— 漢字の世界—名前と漢字—

2.4 アンケート調査

授業終了後、高校側教員、生徒にアンケート調査を実施した。また授業を実施した大学教員にもアンケートを実施した。

3 結果

高校生へのアンケート調査の結果、すべての生徒は、今までに遠隔授業を受けた経験がない生徒であった。「遠隔地で授業してもらうことに抵抗がありますか」は思わない、やや思わないで 80%、「遠隔授業に興味がありますか」は思う、やや思うで 78.3%であった。さらに「1 学期の授業の中で数回なら遠隔授業が入ってもよいですか」では、思う、やや思うが 79.5%であった。

質問項目の「身近に教員がいるほうが勉強になりますか」のみ、86.9%の生徒がそう思うと回答した。実際に「遠隔授業が 1 学期に含まれてもよいか」は思うとやや思うは 79.5%であった。「遠隔講義は無味乾燥でいやですか」については、思わないとやや思わないで 75.1%であった。

質問項目の「通常の授業と大差なく無理なく遠隔授業を受けることができましたか」はよくできた、できたが68.1%であった（図3）。「あなたはこの授業の内容を理解できましたか」では、97.9%の生徒が理解できた、ほとんど理解できたと回答した（図4）。「今回の授業は将来の進路の選択に役に立ちそうですか」では、91.5%の生徒が大変役に立ちそう、少し役に立ちそうと回答した（図5）。

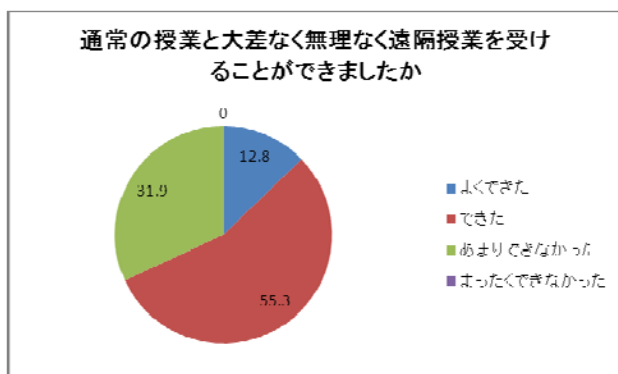


図3 授業アンケート回答（通常の授業と大差なく無理なく遠隔授業を受けることができましたか）

自由記述について、「思ったより良く、近くに先生がいるようだった。」「楽しかった」「普通の授業とかわりなかった」など肯定的な回答が多く認められた。また、「コミュニケーションがとりづらい」といった回答も数名あげられていた。

高校教員へのアンケートでは、「音声は明瞭に聞こえましたか」よく聞こえた、聞こえたで100%、「映像は鮮明に見えましたか」は良く見えた、見えたで100%、「通常の授業と大差なく、生徒が本授業を受けていたように思われましたか」は思う、やや思うで100%の回答が得られた。

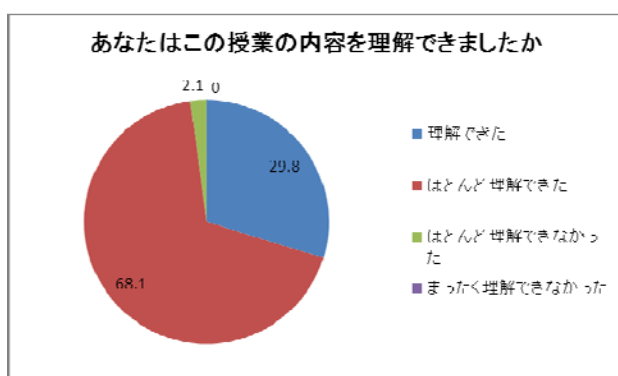


図4 授業アンケート回答（理解できたか）

大学教員によるアンケートでは、「技術の進歩に感心した」「大学構内で授業ができるので時間の節約になる」などの好意的感想が示された。さらに「パワーポイントだけによる授業に限界を感じる」「高校生の反応が分かりづらい」という批判的な感想も得られている。

特に「人手も機材もかかるのでこのような授業は大変」といった問題点も指摘された。

4 まとめ

高大連携による遠隔授業の結果、高校生は興味深く授業を受けてもらえることが可能であった。また、今回は文科系の科目がほとんどであったため、高校からも理系の科目が受講したいという要望があり、今後も高大連携の授業を継続していくことが必要であることが認められた。

広島県備北地区においては、接続テストをして県立高校のインターネット回線が遅いことで、別に回線を接続した。また光ケーブルの届かない地区もあり、インターネットそのもののインフラに地域格差があることが認められた。今後は、インフラ整備の必要性を訴えていくとともに、過疎地域への連携も含めて検討をしていく必要があると思われる。

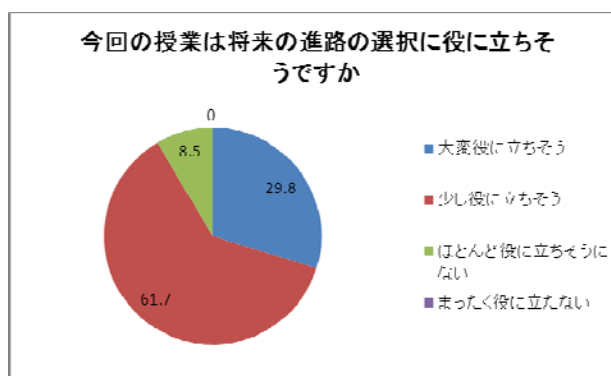


図5 授業アンケート回答（進路に役立つか）

参考文献

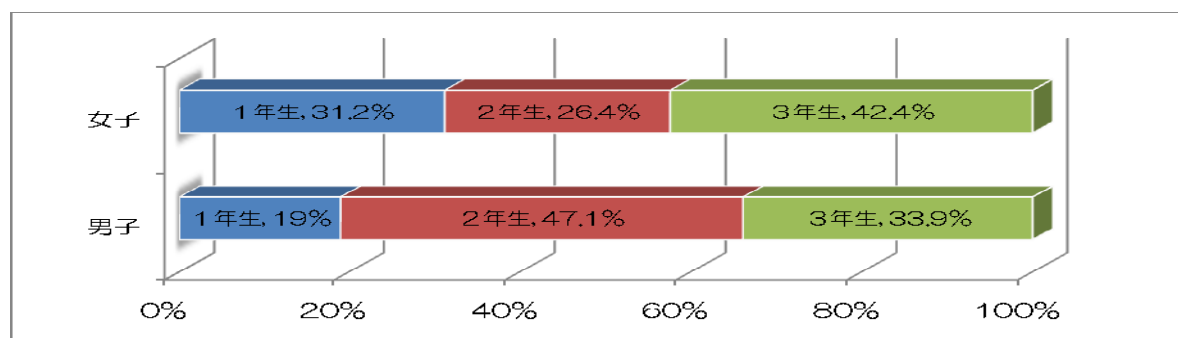
- [1] 大島 修、「1A2 5年目を迎える岡山理科大学との単位認定を伴う高大連携遠隔授業(遠隔授業による教育の連携, 日本教育情報学会第22回年会)」、日本教育情報学会、年会論文集(22) pp.6-7 2006
- [2] 中田 美喜子, 永田 純一、「遠隔教育による単位互換科目—ブログとe-learningを用いて—」、pp.47-50、平成18年年度情報教育研究集会講演論文集、2006
- [3] 中田 美喜子、「インターネットを利用した遠隔教育—技術的進歩と受講者の意識について」広島女学院大学論集、58, 153~164, 2008

2010 年度高大連携遠隔授業受講者アンケートについて(高校生)

1. 目 的 遠隔授業の現状と問題点と把握し今後の改善に役立てるため。
2. 調査対象者 高校生(三次高校、日彰館高校、向原高校、庄原格致高校)
3. 期 間 前期(6～8月)後期(10～11月)
4. 調査方法 各大学の講座修了後にアンケートを配布、回収した。
5. 回 収 率 91.5%(登録者 273 人の内、250 人回収)

性 別	学 年	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		総 計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
男子	1 年生	1			2	1	4	5	10	23
	2 年生		9		1	4	8	18	17	57
	3 年生	15	6	10		7	3			41
	小計	16	15	10	3	12	15	23	27	121
女子	1 年生				13	3	3	9	11	39
	2 年生		6		7	2	10	3	5	33
	3 年生	20	10	11		8	4			53
	小計	20	16	11	20	13	17	12	16	125
無回答	無回答		1			2			1	4
総 計		36	32	21	23	27	32	35	44	250

※男 女 比：男子 121 人 48.4%、女子 125 人 50%、無回答 1.6%

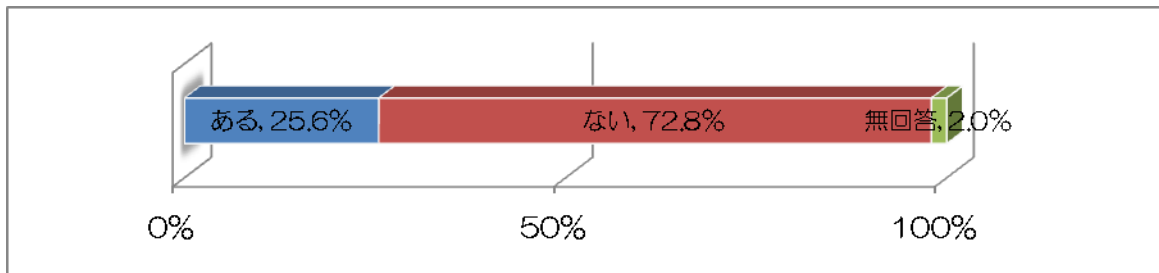


項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
広島経済大学	1	3			5			2	11
広島工業大学	1			2		1	2	2	8
広島国際大学			2			2			4
広島修道大学		5	1						6
広島女学院大学			1	4	4	1			10
比治山大学				2					3
比治山短期大学部				1		1			1
県立広島大学		2							2
安田女子大学	2							3	5
無回答	3				1	4	2	4	14
総 計	7	10	4	9	10	9	4	11	64

※無回答(広島大学 3 名、北海道情報大学を含む)

■問1 遠隔授業を以前に受講したことがありますか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
ある	7	10	4	9	10	9	4	11	64
ない	29	21	17	14	16	23	31	31	182
無回答		1			1			2	4
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250

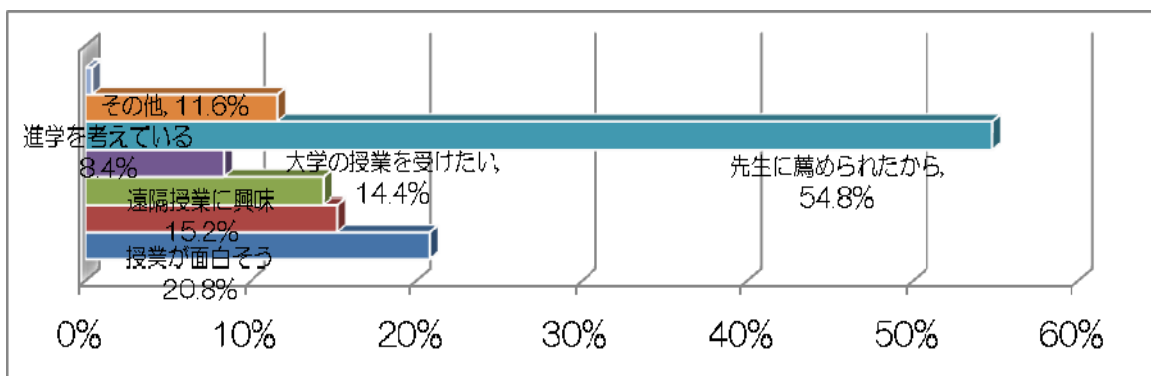


■問2 あなたが受講した最も大きな理由は何ですか。(複数回答可)

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業が面白そうだったから	5	11		7	5	5	9	10	52
遠隔授業に興味があったから	9	4	5	4	1	0	7	8	38
大学の授業を受けてみたかったから	8	4	4	6	4	1	4	5	36
将来、授業を受けた大学・短大への進学を考えているから	9	5	1	1	4	0	1		21
先生に薦められたから	17	16	16	9	15	21	22	21	137
その他	2	2			8	6	6	5	29
無回答								1	1
総 計	50	42	26	27	37	33	49	50	314

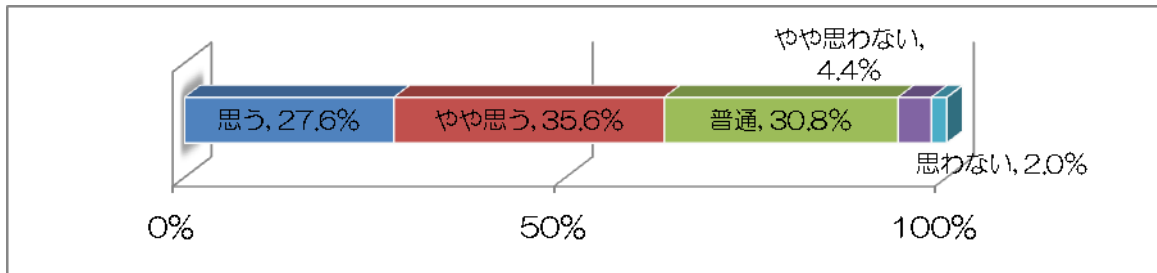
その他の理由

友達に誘われたから。進路や就職先のことを考えて。強制的に



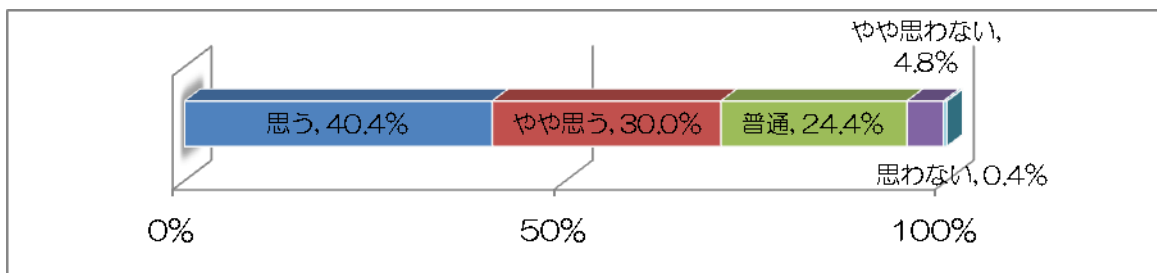
■問3-② レジューメ(資料)は分かりやすいものでしたか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	8	17	8	8	17	10	18	15	101
やや思う	14	10	5	9	4	10	9	14	75
普通	10	4	6	5	4	11	7	14	61
やや思わない	4	1	2	1	1	1	1	1	12
思わない					1	0			1
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



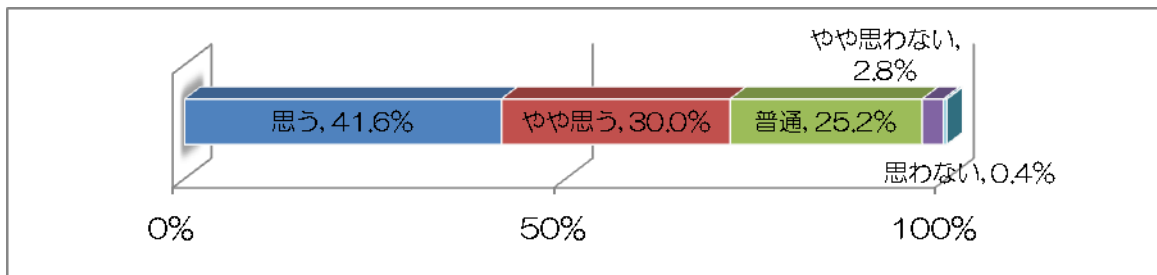
■問3-③ 授業の教材(パワーポイント等)は分かりやすいものでしたか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	9	22	6	12	17	8	15	15	104
やや思う	13	5	4	7	4	12	16	14	75
普通	12	5	9	4	5	10	4	14	63
やや思わない	2		2			2		1	7
思わない					1				1
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



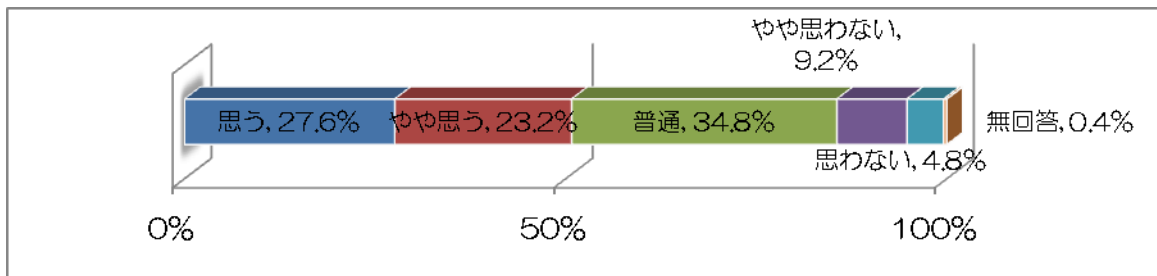
■問3-④ 遠隔地を意識した授業内容だと思いますか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	9	10	5	11	10	3	11	7	66
やや思う	14	16	5	9	8	10	11	14	87
普通	12	6	10	3	7	16	12	20	86
やや思わない	1		1			2	1	2	7
思わない					2	0		1	3
無回答						1			1
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



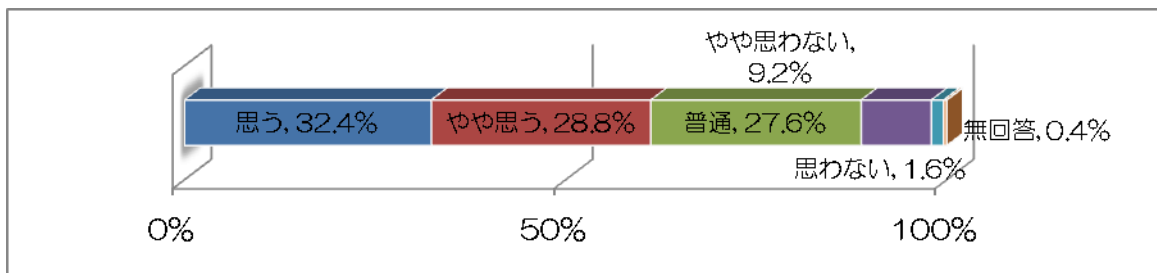
■問3-⑤ 次回も遠隔授業を受けてみたいと思いますか。

項 目	三次高校		日影館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	14	13	5	9	9	3	7	9	69
やや思う	13	13	3	4	6	1	11	7	58
普通	6	5	8	9	8	18	11	22	87
やや思わない	3	1	4		2	5	4	4	23
思わない			0	1	2	5	2	2	12
無回答			1						1
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



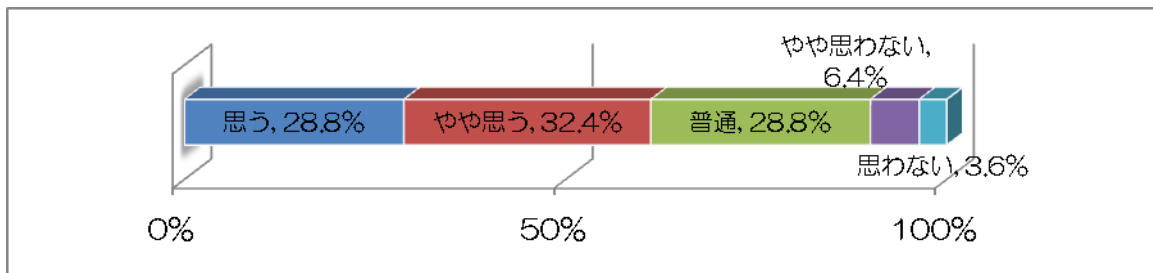
■問3-⑥ 通常授業と大差なく無理なく遠隔授業を受けることができましたか。

項 目	三次高校		日影館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	12	15	4	11	9	6	8	16	81
やや思う	6	13	4	9	12	7	12	9	72
普通	10	4	4	2	5	18	9	17	69
やや思わない	7		7	1		1	6	1	23
思わない	1		1		1			1	4
無回答			1						1
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



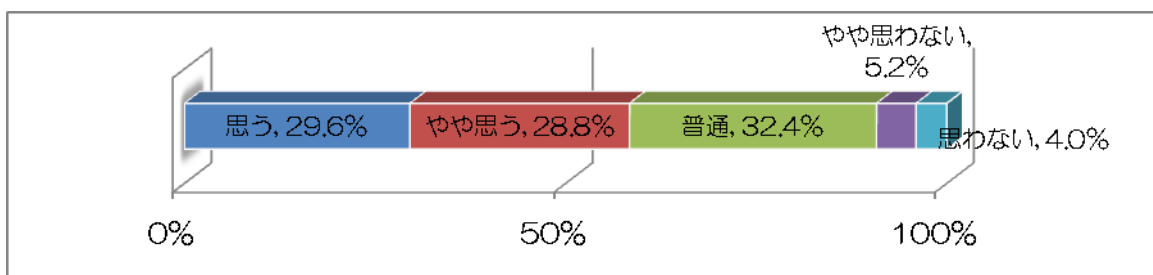
■問3-⑦ 今回受講したことで受講前より大学への関心は深まりましたか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	10	17	5	6	11	4	10	9	72
やや思う	15	10	7	7	7	8	13	14	81
普通	10	3	6	6	7	14	9	17	72
やや思わない	1	1	2	2	1	5	2	2	16
思わない		1	1	2	1	1	1	2	9
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



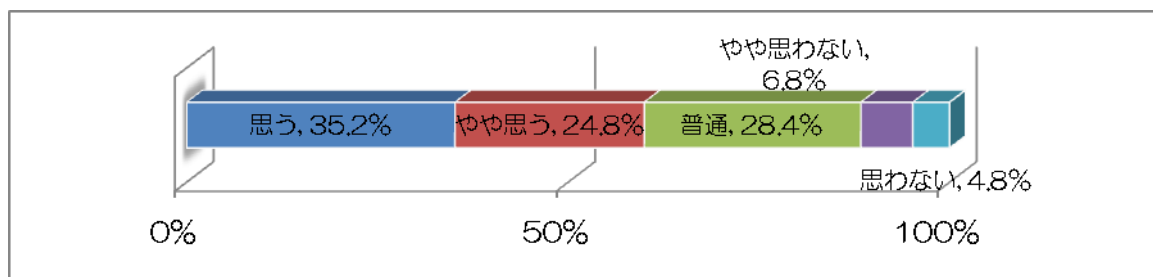
■問3-⑧ 今回受講したことで大学への進学意欲は増しましたか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	8	18	3	6	11	6	9	13	74
やや思う	16	10	8	7	8	6	11	6	72
普通	11	3	8	7	6	13	11	22	81
やや思わない	1		1	3	1	5	2	0	13
思わない		1	1		1	2	2	3	10
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



■問3-⑨ 今回の授業は将来の進路の選択に役立ちそうですか。

項 目	三次高校		日彰館高校		向原高校		庄原格致高校		合 計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
思う	17	19	4	8	13	7	9	11	88
やや思う	12	8	6	3	3	8	15	7	62
普通	6	4	9	6	9	10	8	19	71
やや思わない	1	1	1	4	1	4	3	2	17
思わない			1	2	1	3		5	12
総 計	36	32	21	23	27	32	35	44	250



■問4 今後どのような大学の授業を受けてみたいと思いますか自由に記述してください。

＜三次高校＞

建築、山口大学の感性デザイン、看護・福祉・医療系の授業、航空関係、広島修道大学の授業、進路に関係ある大学の授業、比治山大学の授業、安田女子大学児童教育学科、看護や医療、保育、保健福祉学科、機械系、インターネットの仕組み、最先端技術、経営学、法律、身近な話題、安田女子大学現代ビジネス学部、広島大学、岡山大学、東京大学

＜日彰館高校＞

日本文、現代の政治・経済、首都圏の大学、福岡大学、広島市立大学、文系大学、外国語大学、自分の進路に関係ある授業、福祉・教育、色々な分野の文学の授業、栄養学、国際看護系、東洋史、西洋史、三国志、プロ野球、星、保育、生物、比治山大学短期大学部、広島大学、看護系の大学、教育学部

＜向原高校＞

法学、経済、広島大学、広島文化学園大学、広島文化学園短期大学、保育、看護、福祉、自動車、作業療法、理学療法、薬学、医療、福祉、機械、生物、化学、物理、機器や電子、工学や情報、科学、デジタルデザイン、経済、もう少しわかりやすいもの、日本史、国公立大学、動物、リハビリ、心理学、県立広島大学、広島女学院大学、広島大学、東京芸術大学

＜庄原格致高校＞

漢字、古典、生物、英語、日本史、イラスト(芸術)、教育、作業療法、広島大学、東京大学(難しくてなかなか入ることのできない大学)、興味のある大学の授業、ユーモアのある先生の授業、工学、パソコン、バイオテクノロジー、医療関係(看護や医療技術)、介護・福祉、経済学、法学、コンピュータ関係、広島女学院大学、尾道大学、宗教の関係ない大学

■問5 遠隔授業を受けた感想を自由に記述してください。(原文記載)

＜三次高校：前期＞

①広島国際大学受講回答

- ・普通の授業と同じ授業のように受けることができた。
- ・本当に目の前で授業を受けている気分になった。
- ・デザインというものの面白さが少しわかった。・少し声が聞き取り辛かった。(2)
- ・自分の進みたい学科だったので、興味がよりいっそう出てきた。
- ・予想と違って楽しくかったです。・楽しく授業を受けることができた。(2)

②広島修道大学受講回答

- ・少し聞き取りにくかったが楽しかった。・内容的に難しかったが興味が持てた。
- ・初めてで分からないことが多かったけど役にたった。
- ・授業の雰囲気味わえたのでよかった。また来ようと思う。
- ・とても専門的な感じがして高校とは違う大学の雰囲気を感じることができて良かった。
- ・難しかった。(2)・初めてだったが、なかなか楽しかった。
- ・内容的に難しかったが、興味がもてた。次回が楽しみ。

③比治山大学受講回答

- ・初めて遠隔授業に参加して、今、自分達が考えなければならないことについて、画面を通してですが、とてもわかりやすく授業していただけた。
- ・パソコンを通して話ができることに感動した。・内容は難しいものだった。遠隔授業を受けて高齢化社会や少子化についてわかった。楽しいものだった。
- ・パワーポイントが使ってたので、授業が聞きやすかった。
- ・高齢化の現状についてよくわかった。三次地区も取上げて説明があって、より関心が持てた。

- ・遠隔授業だと、少し質問がしにくい環境だと感じた。
- ・音がこもって聞き取りにくいところもあったけど、普通の授業と同じ感覚で受けれた。
- ・初めて受けてみて大学への関心がより深まりまた受けたいと思った。
- ・始め緊張したけど、普通の授業をパソコンで受けているだけのようで、親しみやすく、そしてすごく分かりやすかった。
- ・過去のデータと最新のデータを比べてみると様々な変化があり、どのような問題点があるのかが分かりました。普段は聞くことができない授業なので、とても興味を持てた。難しい内容でしたが、とても興味深かった。

<三次高校：後期>

①広島経済大学受講回答

- ・自分の進みたい進路の内容だったので受けてよかったです。よくまだわかっていなかったのもっと知りたくなりました。
- ・パワーポイントを使った授業はとても分かりやすかったです。
- ・大学の授業で学ぶことが分かり、良い体験になりました。

②広島修道大学受講回答

- ・まったく知らなかった法律のことなどを知ることができ、大学で習うことを知ることができました。
- ・興味のある授業を受けることができたので、意欲的に参加できた。
- ・授業は工夫してあり、わかりやすかった。

③広島工業大学受講回答

- ・とてもおもしろかった(3)
- ・大学の内容にふれることができて、おもしろかった。
- ・興味がわきました
- ・難しかった
- ・スマートグリッドは意外に身近なものだと思った。
- ・音声や映像などの情報を多数の場で共有できてすごいと思いました。

<日彰館高校：前期>

①広島修道大学受講回答

- ・ふだんできない体験ができてよかった。とても楽しかった。
- ・聞き取りにくかったけど、大学の授業のやり方が分かってよかった。
- ・大学の先生の話聞いてノートを作るのが大変だと思ったけど、大学の授業の雰囲気理解できて良かった。
- ・音が聞こえなくなったり、聞こえにくい所があったので、ノートを作るのが難しかった。
- ・今までにないものだったので新鮮だった。
- ・教授と生徒間のコミュニケーションが取れていない。生徒と教師が同じ空間で学ぶことが重要だと思った。しかし、遠隔授業には大きなポテンシャルが秘められていると思うので、インフラ整備と、経験値を増やすことが重要だと思った。
- ・大学の授業に少しでも触れることができたので良かった。

②広島女学院大学受講回答

- ・たまに止まるけど、参加型で楽しかった。・思っていたよりも楽しかった。
- ・とても楽しかった。・英語力が高まりそうな授業だった。
- ・先生が良い人だったので外国に行きたくなった。

③広島国際大学受講回答

- ・学校の環境が悪すぎて、授業の理解ができなかった。
放送や、部活の声や、廊下を通る人のうるさい声、先生が言う声が聞こえない・・・など、受けるなら、ちゃんとした環境で受けたかった。
- ・直接の方がいいと思った。

<日彰館高校：後期>

①広島工業大学受講回答

- ・長いのかと思ったけど、簡潔にまとめてあって分かりやすかった。

・パソコンを通じて、授業をするのは初めてだったので、楽しかった。

②広島女学院大学受講回答

- ・初めて遠隔授業を受けました。普通の授業と大差がなかったです。とても見やすかったです。また受けてみたいです。
- ・キリスト教について知ることができました。多様なものさしを形成することが大切だということがわかりました。「常識」「ルール」を見につける→「常識」「ルール」を“疑う”
- ・普通の授業のようにスムーズに進んでいてすごいと思いました。遠くの人々と一緒に勉強できて楽しいと思いました。
- ・いろいろな話をいっぱい聞けたのでよかった。おもしろかった。受けて良かったと思います。
- ・笑わせてくれるおもしろい授業だったし、分かりやすく学ぶことができました。
- ・近くにいなくてもTV電話などで遠くに離れていても授業はできるんだと知った。
- ・普通の授業と同じ様に会話ができるので、大学に行かずに大学での授業が受けられるのがいいと思ったし、遠隔授業ならではの授業だったと思う。
- ・一生懸命な授業でよかったです。
- ・難しいけど、おもしろかった。
- ・考えが広げられた。
- ・他の学校の子や、自分の姿がうつっているのが気になって集中がなかなかできなかった。先生を見ながら授業を受けたいと思った。
- ・他の高校の人とも一緒にできたので良かったです。
- ・少しわからないこともあったけど、大学への進学意欲は増した。

<向原高校：前期>

①広島修道大学受講回答

- ・普通の授業よりやりやすかった。
- ・話がそれた。・近藤勇についての所に興味を持った。

②広島女学院大学受講回答

- ・他の高校の人と受けることができて楽しかった。おもしろい授業でした。
- ・楽しかった(4)
- ・意外と楽しかった。また受けてみたい。
- ・自分の為になったし、とても楽しく授業ができた。
- ・質問されるのは嫌でしたが、とても楽しかった。

③広島国際大学受講回答

- ・手話とか興味のあることが学べたのでよかった。・面白かった。
- ・初めて遠隔授業を受けただけ、とてもわかりやすくて良かった。
- ・楽しかった。ありがとうございました。

<向原高校：後期>

①広島女学院大学受講回答

- ・よくメールをやるのでとてもわかりやすかったです。とても楽しく授業を受けることができました。今日習ったことをいかしていきたいと思います。
- ・メールでの常識・マナーなどを知ることができてよかった。
- ・私達は普段パソコンではなく携帯電話のメールを使用しますが、マナーに気をつけるということとは大切だということを、今回の遠隔授業で学ぶことができました。普段の生活でも生かせることだと思うので、生かしていきたいと思います。
- ・勉強になったと思います。・退屈しなかった。・音楽なども流してくれたのでおもしろかった。
- ・ウケをねらった話があったから良かったと思った。
- ・興味のない内容だったので、あまりおもしろくなかった。
- ・2つの学校が合同でやるので、新しい感覚だった。・わかりにくい。

②広島工業大学受講回答

- ・1回目を受けていなかったの、スマートグリットとは何かわからなかったけどとてもおもしろい内容だと思いました。・面白いし分かり易かった。
- ・遠隔で授業が出来ているのはすごいと思った。
- ・CO2家計簿とかいろいろあっておもしろかった。・難しかった。

- ・これからのエネルギーの在り方がよく分かった。
- ・内容はわりと身近なことをあげていて分かり易かった。

③比治山大学短期大学部受講回答

- ・難しい部分もあったけど、中々楽しかったです。
- ・とてもおもしろかった。
- ・こういった授業は初めてだったけど、比治山の先生も楽しくて、まあまあ自分も楽しめたんでよかったなと思った。

<庄原格致高校：前期>

①広島工業大学受講回答

- ・高校生向けに授業のランクを落としてくれるのか、分かりやすかった。
- ・ネット社会、ユビキタスネット社会など、今まで知らなかったことを知ることができて良かった。
- ・コンピュータを使った授業の経験がなかったので貴重な体験になりました。ユビキタスネット社会が早く実現してほしいと思った。
- ・とても興味深い内容でおもしろかったです。また今回のようなことがあれば参加したいです。
- ・とても分かりやすく楽しかった。・画面しかないので聞きづらい。
- ・内容はけっこう難しかったけど、パワーポイントでの説明は分かりやすい方だったと思う。以外にスムーズに授業が進んだ。

②広島経済大学受講回答

- ・ネット最強。・とてもおもしろかった。(3)
- ・経済がどんなのかが分かった。経済を見る目が磨かれたと思う。
- ・大学を考える上でいいものになった。ただ一言、おもしろい。
- ・最近、ニュースについて考えるようになった。
- ・最初はイヤイヤだったけど、受けてみるととても面白かった。
- ・授業内容も興味をもてるものでとても楽しかった。
- ・予想していたよりも、勉強になりとても充実した時間になった。
- ・楽しく経済を学ぶことができた。
- ・普通の授業よりも受けやすい興味のある内容だったら関心が持てたかも。
- ・遠隔授業なのでいろいろ難しかった。・モノづくりなど理解できてよかった。

③広島女学院大学受講回答

- ・質問などが聞こえないときがあったりするので、もうちょっときれいに聞こえるようにしてほしい。
- ・今まで知らなかった漢字の読み方や意味を知れてよかった。
- ・当て字がおもしろかった。知らない当て字とかへえ〜って思うものがあったて楽しかった。
- ・名前をつけるのも色々なことがあると分かった。
- ・クイズが多くて楽しかったですが、声が届かなかったのが残念。
- ・コミュニケーションが取りづらい。
- ・人名とか、普段の授業にない内容で面白かった。(2)
- ・わかりやすい内容で聞きやすかった。
- ・普段の授業にない内容で面白かった。とても楽しかった。
- ・自分が想像していた以上にわかりやすく、楽しくできた。
- ・この授業で興味を持ちました。機会があったら他の当て字を調べてみたいと思った。

<庄原格致高校：後期>

①広島工業大学受講回答

- ・面白かったです。(3)
- ・分かりやすかった。
- ・遠隔授業は遠くなのに自分達にわかりやすく話してくれたので良かったです。また受けてみたいと思いました。
- ・大学ではこういう事を学んだと分かった。大学の授業を受けることができて良かった。
- ・普段の授業とは違った形だったので楽しかった。直接話を聞くことができたので良かった。
- ・初めてのことであったので、とても楽しく授業を受けることができました。

- ・普通の授業よりわかりやすい。
- ・高校の授業と違って考え方が特殊だった。
- ・よいと思いました。

②広島国際大学受講回答

- ・良かった。難しい話が少し多かったかも。
- ・いろいろなデザインが見れて良かったです。絵にはいろいろな表現があるのがよくわかりました。
- ・資料をみながらできるのがいい。
- ・キリコの描いた絵の表現に魅力を持った。
- ・絵とは、時代背景や、その人の心情がとてもよく表現されるもので、モダンデザインもその「時代の中」で生まれたことがわかりました。
- ・また違った感じで良かった。
- ・今後も参加していきたいと思う。
- ・楽しかった
- ・格致でこういう授業ができるってことに少しビックリしました。希望者だけではなく、みんなでもやってみてもいいと思う。質問とかしてるのちょっと感動。
- ・画面の向こうがリアルタイムだと思うとすごかったです。

③広島女学院大学受講回答

- ・遠隔授業のことはよくわからなかったんだけど、実際受けてみるとおもしろいなと少し興味を持ちました。
- ・高校の授業とあまりかわらなかったと思う。
- ・新しいことが知れて良かった。
- ・僕の頭ではよくわかりません。
- ・今習っていることの発展的なことだったのでおもしろかった。
- ・実際に大学の先生の講義を受けて資料をもとにわかりやすく話をしてくださりよかった。遺伝子など、難しい話だったけど少し興味を持てたと思う。
- ・最初はどんなものか分からなかったけど、とても楽しく、分かりやすかったです。次も興味を引くものがあれば参加したいです。

④安田女子大学受講回答

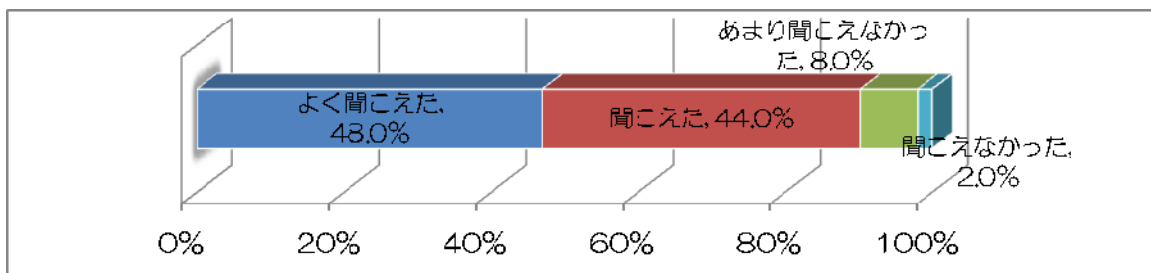
- ・難しかったけど、いい勉強になったと思う。
- ・化合物？はよく分からなかったが、説明はよくわかった。毒が薬になることに驚いた。難しそうだが、楽しそうな学部だと思った。
- ・欧州と東洋で着目するところが違うんだなと思った。知らない言葉がたくさん出てきて難しかった。
- ・内容が難しかったです。
- ・少し興味のある授業内容だったのでいろいろよくわかってよかった。薬学の始まりについてなど詳しく説明してもらい、勉強になった。
- ・実に充実していた。
- ・為になりました。
- ・わかりにくかった。

高大連携遠隔授業アンケートについて(高校教員)

1. 目 的 遠隔授業の現状と問題点と把握し今後の改善に役立てるため。
2. 調査対象者 高校教員(三次高校、日影館高校、向原高校、庄原格致高校)
3. 期 間 2009 年度・2010 年度
4. 調査方法 各大学の講座修了後にアンケートを配布、回収した。

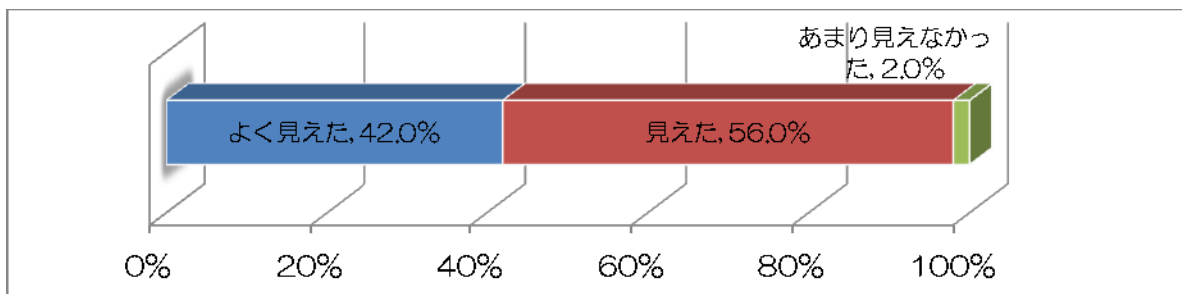
■問1 音声は明瞭に聞こえましたか。

項 目	2009 年度		2010 年度		合 計
	前期	後期	前期	後期	
よく聞こえた	6	7	7	4	24
聞こえた	1	6	1	14	22
あまり聞こえなかった			※4		4
やや思わない					
聞こえなかった					
総 計	7	13	12	18	50



■問2 映像は鮮明に見えましたか。

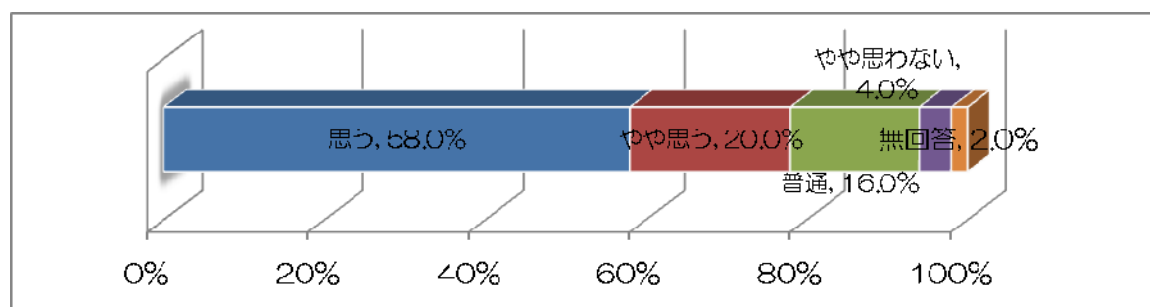
項 目	2009 年度		2010 年度		合 計
	前期	後期	前期	後期	
よく見えた	5	6	6	4	21
見えた	2	7	5	14	28
あまり見えなかった			※1		1
見えなかった					
総 計	7	13	12	18	50



※2010 年度前期遠隔授業の時間内に日影館高校の ADSL 回線の切断があり、音声や画像配信に支障をきたした。NTT 三次支局で回線のテスト等を行ったが、原因はよく分からなかった。後期の授業では、回線の切断はみられなかった。

■問3 通常の授業と大差なく、生徒が本授業を受けていたように思われましたか。

項 目	2009 年度		2010 年度		合 計
	前期	後期	前期	後期	
思う	5	9	7	8	29
やや思う	2	2	2	4	10
普通		2	2	4	8
やや思わない			1	1	2
思わない					0
無回答				1	1
総 計	7	13	12	18	50



■問4 高大連携遠隔授業を高校生が受けて、評価できる点をお書きください。(抜粋)

<三次高校>

- ・興味や関心のある大学の授業が、高校にいながら受けられること。また、質問等もしようと思えばできることも良い点である。
- ・生徒が興味を持っているが、高校では学べない学問を専門の教員に講義してもらうことができる。(2)
- ・専門的な内容の講義を聞くことで、進路意識を高めることができる。(2)
- ・高校の科目では学べない内容を学べ、進路や社会問題について考えることができる。(2)
- ・今回は社会的にも注目されていて、高校では扱うことのない内容で、高度な学問を知ることにもつながったと思う。
- ・遠くに出向くことなく大学の授業に触れることができ生徒の学びへの好奇心が触発される。

<日影館高校>

- ・大学の先生から直接授業を受けることができ生徒の進路を決めるうえで参考になる。(2)
- ・インターネットを通してという点が新鮮で生徒も興味をもてたと思う。(2)
- ・大学の授業を受けて、高校で学んでいる事の意味が明確になる。
- ・他校の生徒と一緒に授業を受けるのは刺激となる。
- ・授業の後、生徒の反応で「大学は面白そう」という声が上がっていた。大学に興味を深めた様子でした。向原高校の生徒達が積極的で、本校の生徒もつられたのか、ペア・ワークは活発でした。
- ・居ながらにして大学の授業が受けられる所。他校の生徒と共に学ぶことで、より真剣に授業を受けていた。(3)
- ・大学の講義の様子を知ることができ、進路選択に役立てることができる。高校と大学の授業の受け方の違いを認識し、必要とされる能力獲得に向けて、準備できる。
- ・パワーポイントで写真を多数使われたことで具体的にイメージを持って授業を受けていたように思われる。又、クイズ形式であきさせない工夫をされていて、大学であの先生に習いたいという生徒もいた。
- ・科学技術には考える力や発想力が必要だと分かった。想像力を身につけることが大切。

<向原高校>

- ・授業にスライド等の画像を取り入れることができる。(2)
- ・大学の先生の授業ということで緊張感を持って授業を受けている。(2)
- ・普段と違う環境であり、緊張感をもって真剣に参加していた。マイクとスピーカーを通してのコミュニケーション方法について違和感はあるものの、生徒はすぐ対応していたように思う。

名前を呼ばれることで参加意欲が高まっているように見えた。

- ・双方向の授業なので非常によかった。
- ・専門的な内容を授業として受けることができる点は非常に評価できる。
- ・これまではほとんど接することのなかった手話を体験することができて良かったのではないかと思います。
- ・好きな事、興味があることを学ぶ楽しさを実感していたようです。
- ・専門性の高い授業に接することが出来、有意義な時間を持つことが出来たと感じました。
- ・通常の授業と違い、英語を楽しんでいるようでした。
- ・講義内容によっては生徒の関心を引くことができるので良いと思った。特にメールについては知っていそうで知らない内容を専門的に勉強でき良かったのではないかなと思う。
- ・普段学習している内容からはイメージできない講義の進め方や内容で生徒の視野は広がったと思います。
- ・大学でどんなことを学ぶのかその空気にふれることには意味があると思う。

<庄原格致高校>

- ・実際に大学の授業を受けることが出来るので、生徒の進路決定にとっても役立つと思います。
- ・普段と違った学習環境であるから、生徒は新鮮な感覚で授業を受けることができたと思う。
- ・少々難解な所もあったが、大学の授業や研究の概容を知ることができ、良いと思います。
- ・大学の研究内容を先取りできて良いと思います。
- ・興味・感心が持てる点
- ・高等学校にしながら、大学で学ぶ事柄を吸収できる点が良いと思います。
- ・大学の公開講座をそんなに受けに行くことができないので、こういう機会があることはいいと思う。

■問5 改善すべき点についてお書きください。

<三次高校>

- ・画面が小さい。
- ・活動(保育所で実際に指導で使われるかなど)があると良いのではと感じました。
- ・音声に加えて、遅れて違う音声がまぎれていて聞き取りにくいところが見られた。(2)
- ・講義の中に「動き」(生徒が動く、教員が動く、映像が動くなど)がないと単調になり、生徒が興味をもちにくいと思います。
- ・資料を書きこみ式のプリントにされると、生徒が作業する時間ができ、生徒も学んだ実感が増すのではないのでしょうか。
- ・こちらからの音声が聞き取りにくかったようだった。(2)

<日彰館高校>

- ・先生が提示される絵本の画像が悪い為、見えにくかった。画像の解析度を上げてほしい。
- ・途中で、映像・音楽が止まることがありました。
- ・もう少し画像がスムーズに動くの見やすいかも。
- ・映像が途切れたり、静止したりするのは良いが、音声がはっきりしないのは、何を話されているのか理解に支障をきたし、緊張感をそいだ。
- ・映像と音声の中断が頻繁に起こったのが残念でした。ペア・ワークの指示の部分が途切れたので戸惑いがあった。光回線の方が良いのではないのでしょうか。

<向原高校>

- ・ホワイトボードを使って、授業を進めないと、生徒は話を聞き、スライドを見て終わるということになる。双方向の授業を実施するには音声等の接続は不可欠である。
- ・少人数 10 名程度が限界だと思う。4 名程度のグループ学習がさらに効果をあげていると感じた。できればグループ毎でも、Webカメラやマイクをセットしてほしい。きめ細かい語りかけや発言させる工夫が今後の課題だと思う。
- ・生徒の声が小さいときは向こうに聞こえなかったり、音声が二重に聞こえた。
- ・本日の講義はスライドで説明されていた。スライドは非常に便利であるが、説明が一方向になりがちである。また、遠隔授業を現実のものにしていくためには、黒板(ホワイトボード)で授業を進めるのが現実的ではないかなと思う。
- ・生徒に質問したら、その事にきっちり対応しないと、双方向の授業になりにくい。内容がたくさんあったのが原因かも知れません。

- ・双方向を意識した授業にしてほしい。(2)
- ・雷のせいで、音声・映像とも途切れ、集中が切れる場面が見られました。
- ・音声映像がもう少し、スムーズに流れると良いと感じました。(2)
- ・本校の生徒にとっては難解だったようで、講義の内容についていけないようだった。

＜庄原格致高校＞

- ・生徒の注意をどれだけひきつけるかが課題になってくると思います。
- ・コミュニケーション(大学の先生と高校生)がより活発になると良いと思います。
- ・接続がうまくいかなくて、時間がかからないようにしてほしい。
- ・一方的ではなく、生徒とやり取りしながら双方向の授業のやり取りがあるとなお一層よいかと思います。
- ・もっと進路の具体的検討に役立つように、～を希望する人対象などとしてもらえると生徒も参加しやすい。

■問6 その他、遠隔授業に関するご意見・ご感想など記入してください。

＜三次高校＞

- ・1回目は同じメンバーに直接授業をしてもらいたい。
- ・理系の生徒対象の講座をもっと増やして欲しい。
- ・参加した生徒のうちの女子生徒が、次年度の理数課題研究で家庭内のCO₂の排出量調査をして研究してみたいと言っており、ヒントを与えていただいて感謝しています。

＜日彰館高校＞

- ・毎年断続してできれば良いと思います。(毎回セットに来ていただく関係で機器等の問題で無理かと思いますが)
- ・毎回機器のセットに来ていただくという点がネックになると思いますが、毎年断続できれば良いと思う。
- ・時間的な制約が大きく、指導される大学の先生には、講座の準備の上で、苦慮される所が大きいように思われます。特に今回のようなテーマではもう1回あった方が良かったかも。
- ・理系の講座を増やしてほしい。
- ・日によって接続状況が違うので、安定した速度でのデータ受信・送信が可能にならないものかと思う。
- ・遠くからでも学ぶことができるので便利だと思った。

＜向原高校＞

- ・本校は、コンピュータ画面でなく、スクリーンに写し出しているので、見やすかった。
- ・普段常勤の教師ではできない内容や、最近の情報など、生徒の興味関心を引き出せる内容が望まれる。このことで、単発でも指導効果があるものと思われる。国際理解につながる有意義な授業で、記憶に残るものでした。
- ・興味ある講座は生徒に希望をとってどんどんやってもらいたい。
- ・授業を受ける側の生徒も大きな声で話すよう指導する必要があると感じました。
- ・数回で1講座であると、もっと生徒の興味が深まるかと思いました。

＜庄原格致高校＞

- ・まだまだ課題は沢山あると思いますが、上手く利用すれば、とても価値のある授業になると思いますので、期待しています。
- ・毎回毎回お世話になり有難うございます。
- ・是非続けてやってほしい。

高大連携遠隔授業アンケートについて(大学教員)

1. 目 的 遠隔授業の現状と問題点と把握し今後の改善に役立てるため。
2. 調査対象者 大学教員
3. 期 間 2009 年度・2010 年度
4. 調査方法 講座担当教員・職員にアンケート調査票を提出

問1 遠隔授業を担当されて評価できる点についてお書きください。

2009年度・前期	広島女学院大学 ・学内でできることで、担当することが容易になる。 ・ICT技術の発達には目をみはるものがあると実感しました。距離という制限がありながら、授業を共有できることに感銘を受けました。 - また、ほぼ制限なくさまざまなソフトを使用することができたので、授業内容に応じた様々な視聴覚資料を提供することが容易にできました。表示のタイムラグも殆ど無いようで、快適でした。 - 後述のように、授業の反応がつかみにくいという難点がありましたが、逆に、普段の授業で自分がどれだけ学生の反応に助けられているかということが認識できて、よい経験でした。
	広島国際大学 ・対面授業が本当はベストですが、1つだけ、手話の授業をした時、普段の対面式の時は、恥ずかしがっている高校生が、目の前に講師がいないということで、全員が積極的に手を動かしていたので、時にこういう授業もよいのかと思った。
2009年度・後期	比治山大学短期大学部 ①双方向(インタラクティブ)性：一方的な放送(録画)教育でなく、学習者と交流しながら授業を進めることができる。 ②リアルタイム性：時空の制約を超えて、リアルタイムに授業が行える。 ③マルチメディア性：遠隔授業は、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の活用に向いているため、教育コンテンツに文字・音声・動画を盛り込むことができる。 以上のことが、遠隔授業以外の授業力の向上や授業改善につながる機会になる可能性があることも評価できる点だろう。
	広島文教女子大学 ・大学での授業を体験する機会の少ない高校生が、スクリーンを通してではあるが、その一端に触れることができたことは評価に値すると言えるであろう。 ・離れたいくつかの場所を同時に繋いで授業できる。
	広島経済大学 ・遠隔地の高校を対象に授業が行える点はよいと思います。 - 特に、何回か継続して授業を行うとなると、実際に高校を何度も訪問するのは大変です。その点、遠隔授業なら、継続して授業を実施しても、大学側の負担が少なく、助かります。 - また、複数の高校を対象に同時に授業をするということは、遠隔授業のような形態でなければできませんので、この点をうまく生かしていければと思います。
	安田女子短期大学 ・模擬授業は、そこの高校へ行かなければなりませんが、遠隔授業は大学にいて授業ができ、行き帰りの負担もないので、その点は評価できると思います。また、パソコンを使って新たな教育形態の構築が可能になる点も評価できると思いました。
2010年度・前期	広島経済大学 ・やりやすいです。資料提示もスムーズですし、音声もスムーズ。 - 普段と違う授業なので、新鮮さがあるのかもしれませんが、もっとも、この新鮮さは、すぐに慣れてなくなってしまうのでしょうか。
	広島工業大学 ・高校まで足を運ぶことなく、授業を実施できる点は良いと感じた。また、音声や映像は双方向であることから、普通の授業のように生徒にも発言させることもでき、良かったと思う。

	広島国際大学 ・当方の時間的な負担が少なく、授業ができたこと。 ・同時に複数の高校に授業できるということが可能だったこと。
	広島修道大学 ・大学または高校に出向かずに、大学の授業のやり方、あるいは内容について高校生が直接、体験できるところが優れている。政経の科目を受講していない学年の生徒もあり、初歩的な経済用語を知らないのも、可能な限りやさしい言葉に置き換えて講義したが、そもそも大学の授業の雰囲気を知ってもらうことが目的であると思われるので、それはそれでいいと思う。
	比治山大学 ・通常実施されている「出前授業」とは違い、大学内から授業を提供できるので時間・労力ともに極めて効率が良く負担が少ない。 ・高校側の受講人数もほぼ 10 名前後という少人数クラスで編成されているので指名も容易で双方向の関係が短時間で造りやすい。 ・会場設営や機器の準備などは業者が担当してくれるので「不都合な事態」への不安感も無い。
2010年度・前期	広島国際大学 ・対面授業が本当はベストですが、手話の授業をした時、普段の対面での講義では、恥ずかしがっている高校生が、目の前に講師がいないということで、全員が積極的に手を動かしていたので、時にこういう授業もよいのかと思った。 ・バーチャルな世界が目の前に展開されることで、ある意味ゲーム感覚(we fit みたいな感覚?)で、生徒さんたちに興味を持ってもらいやすい。ということで、全員が積極的に手を動かしていたので、時にこういう授業もよいのかと思った。
	広島女学院大学 ・高校生が、高校にいながら様々な大学の授業を受講できることは、大学を選択するにあたって有効な手段であるように思う。また、リアルタイムで高校生の様子も窺えるので、反応を見て授業構成ができるという意味では大学における授業と変わらない感覚で講義することができた。 ・漢字の世界の奥深さ、面白さについて少しでも多くの方に知ってもらえるよう、日々努力しています。その点では、会場を設定しての授業ではなく、電子媒体を活用しての授業は、より多くの人々に情報を発信でき、とても有効的な手段だと思います。今回、初めて、遠隔授業を経験して、その臨場感到感動しました。関係者のご努力に感謝いたします。
2010年度・後期	広島経済大学 ・何度か担当させていただいてありますが、普段なかなかやり取りできない遠隔地の高校とやり取りができて、良いシステムだと思います。
	比治山大学短期大学部 ・注目してほしい図や、話し手の顔が大きく映し出せる点 ・自分自身の授業で大切にしていることが、身体的な隔たりを余儀なくされる映像の授業をすることで意識できました。
	広島国際大学 ・通常の授業と同じ負担で、遠隔地の高校生に講義を聞いてもらうことができること。 ・興味のある若い人に教えるのは、大変、楽しい。

問2 遠隔授業を担当されて改善すべき点についてお書きください。

2009年度・前期	広島女学院大学 ・普通のパソコンで実施したが、大きな画面で実施したい。 ・こちらの慣れの問題もありますが、教室の反応がかなりつかみにくく、双方向のやりとりという点に相当難がありました。教室全体を見渡せる高解像度のビデオと、教室の音声を適切に拾うことのできる機材が使用できれば一番よいでしょうが、それにも限界があるでしょう。しかし、現在の条件下でも、授業担当者(つまり私、です)の工夫により、もう少しなんとかできるかもしれないとも感じています。実際に授業を受けている状態の教室を見学するとか、双方向のやりとりが上手になりたっている授業をリアルタイムあるいはビデオで参観させていただくとかすれば、担当者のテクニックはかなり改善できるでしょう。 また、授業と並行して生徒がBBSでダイレクトに発言するなどの方式を考えてみてよいかもしれません。
	広島国際大学 ・3回の授業中、2回は回線が途切れたり、画面が止まったりということがあった。結局そういうことになると授業が中断したり、中断している時、高校生のみなさんが何をしているのかもわからないので、遠隔授業の限界を感じた。
	比治山大学短期大学部 ①授業担当者側の課題 問1のような遠隔授業の特性を活かすためには、できるだけ学習者が参加できる工夫が必要である。そのことを念頭に置き、今回、授業を計画したが、生徒の学習進度の把握や生徒の疑問・質問に応答する時間を十分にとらなかつた(50分では短くてとれなかつた)という反省もある。 ②システムの課題 遠隔授業の特性を保証するためには、回線の太さが重要だと感じた。今回の授業で動画を用いた際に、フル画面だと動きがぎこちなくなるということがあった。そういう不具合が、学習者側と授業者の両方にとってストレスに感じることもあるだろう。
2009年度・後期	広島文教女子大学 ・私たちが日常的に行っている授業は、学生と対面しているものであり、学生の理解度などを肌で感じながら双方向的にすすめるものである。遠隔授業ではこの点が難しく、目の前に生徒たちが存在しないために自分の話した内容がどの程度伝わっているのかわからず、さらに解説を加えるべきかに迷うことが多かった。生徒の様子をうかがうことのできるモニタが小さかつたため、これもあまり役には立たなかつたように思っている。生徒側の声が聞こえたり、その反応が見て取れたりできるような工夫をしていただきたいものである。 ・離れたいくつかの場所を同時に繋いで授業できる。 ・何よりもまったくネットの双方向性のメリットが生かされていない。 教室全体の大写しがパソコンの小さな画面に映し出されているだけでは、生徒の反応(とくに表情)がまったくわからないので、とてもやりづらい。 また、生徒たちに訴えようとする生徒が映っている画面ではなく、カメラに視線を向けなくてはならないので、対面授業に慣れている者にとっては、とても虚しい感じがする。
	広島経済大学 ・「やりっぱなし」にならない工夫がほしいですね。高校の先生方と事前に希望の授業内容をすり合わせたり、高校生に事前課題や事後課題をさせたり、遠隔授業を核にして様々な取り組みを展開していくべきだと思います。 そのためにも、高校の先生方と、授業の進め方などについて、じっくり話し合う機会がほしいです。
	安田女子短期大学 ・私の授業では、高校生に伝わりやすくするという思いで、パワーポイントを多用しましたが、ホワイトボードの使用がもう少しスムーズにできると、大学の授業に更に近づけることができるのではないかと思います。そして、そのためには機器の環境が整うことが望まれます。 生徒の受講状況を見ながら授業を行うと、生徒に対して授業者の横顔しか提供できませんし、カメラばかりを見て授業を行うと生徒の状況が把握できない、と言うジレンマを感じました。 生徒の反応を確かめながら授業を展開したいので、生徒の様子をしっかりと見ることが可能になれば、生徒への言葉かけなど現実的に工夫でき、質疑応答も活発化するなど、授業参加の態度もより積極的になってくると思います。

2010年度・前期	広島経済大学
	・「離れている」ということを感じさせないように、名簿を見て指名したりしながら講義を進めます。そういうこともあるという前提で、設備や受講態度などの指導があるとなおいいですね。高校の先生方と、どんな内容の講義をお望みか、事前に打ち合わせをして一緒に組み立てていけるようになるとなおいいようにも思います。
	広島工業大学
	・今回で二回目であったが、前回同様、授業の始まりと終わりのやり取りが上手いかわからないのが気になる。高校側での号令をかけてもらうなどしてもらえると良いと感じた。また、生徒に発言してもらうこともしてみたが、そもそも本人の声が小さいこともあったと思うが、はっきりと聞き取れないこともあった。このような電子機器を使ってやり取りすることに慣れていないことも聞き取れなかった原因の一つであると思う。できるだけ、普通の授業に近い形で実施するために、今後の課題として考えていきたい。
	広島国際大学
	・1回目の授業で、当方の視線が、どうしても映されている高校生に向きがちで、カメラの方を向けなかったことから、高校生の方からみると自分達をみているように感じられなかったこと。これは第2回目に、カメラの方向に高校生を移したPCを配置することで改善できた。
	広島修道大学
	・大学出の初回の授業では、その後の授業の振興のために、学生の理解力のレベルを感じ取ることにしているが、ネットを介した授業であるため、顔の表情が読み取りにくく、話した内容を理解しているのかどうか、掴みにくい。 講義中に相手先の高校の校内放送やチャイムが鳴って中断せざるを得ないときが多々あり、意識が途切れる。 今回、2校を対象に同時に講義を行ったが、それぞれの教室の雰囲気が違うので、高校生たちの意識を講義に引き付けるのに、少々苦労した。
	比治山大学
	・席の配置によっては全員が見えず挙手をして判らない。 ・音声(マイクの位置か?)に問題あり。返答内容が聞き取りとりにくい。 →双方向授業の場合、最大の課題! ・一人ひとりの反応が判りづらい。
2010年度・後期	広島国際大学
	・人手もかかるし(PC関係の人たちの作業)、生徒さんの反応もわかりづらい。 ・カメラの近くに座った学生は反応もわかるが、カメラが随時動かせるわけではないので、カメラから離れた生徒さんが発言する時、遠すぎて表情もわからない。
	広島女学院大学
	・講義で使えるツールや活動が限られているので、特に実技系科目に関しては発展させにくいのではないかと。また、通信の調子が悪く途中で途切れたり、聞き取りづらかったりする場合には、復旧するまでの待ち時間や学習効果の面でリスクが大きいため、その点は遠隔授業の難点として挙げられるように思う。 ・学生との会話をスムーズにさせるために、生徒の名簿と席との関係が分かればよいと思う。音声を拾う機器から遠い生徒の声が、少し聞き取りにくいので、席の配置や音声機器の配置が、可能ならば改善できればと思う。 ・カメラの向きにより、生徒全員を明確に見ることは少し難しかった。 時々生徒の声(答え)が少し聞き取りにくかった。面と向かって授業の方が、より現実的で簡単だ。
	広島修道大学
	・画面で生徒さん全体を見ることができなかった。
	広島経済大学
	・特にありません。 強いと言うなら、画質、音質が上がればそれに越したことはありませんが、現状でも十分使用可能なレベルです。
2010年度・後期	比治山大学短期大学部
	・受講者ひとりひとりの表情と声がひろえるようにすると、受講者は自分が大切にされていると感じるようになるでしょうし、授業者も一方通行にならずにすむかと思いました。
2010年度・後期	広島国際大学
	・授業を聞きにきている高校生は、どのような意識あるいは目的で大学の講義を聞いているのかを、事前に教えて欲しい。高校ごとに考え方が違うかもしれないので。 ・受講生の態度や表情が、通常の講義よりつかみにくいの欠点だと思う。

問3 その他、遠隔授業に関するご意見・ご感想など記入してください。

2009年度・前期	広島女学院大学 ・良い経験をさせて、いただきありがとうございました。お役に立てることがあれば、ご協力させていただきます。 ・教材開発、担当者のスキルアップ、遠隔授業ならではのコンテンツなど、これからますます充実・発展させていける分野であると感じました。 ストリーミング配信などを用いたものと違って、双方向であるということの利点をどれだけ生かすことができるか、前向きに考える余地がいろいろとありそうです。 今回参加させていただき、私自身にとっては非常に貴重な経験となりました。ご準備にあたってくださった皆様、また受講してくださった生徒のみなさんに、心から感謝します。受講された生徒のみなさんの感想・意見もぜひお聞きしたいです。また、こういう機会があれば、ぜひ参加させてください。
	広島国際大学 ・こういう授業が将来、当たり前になるのが怖い。 ・やはり講義は、相手の反応をみながら、内容も変えながら進めていかないと結局自己満足の一方的な授業になってしまう。 ・パワーポイントの授業が中心の高校生の授業ってどうなのかと思う。
2009年度・後期	比治山大学短期大学部 ・この度、遠隔授業というはじめての経験をさせていただき、ありがとうございました。業者の方の手際良さにはとくに感心いたしました。 高校の生徒さんたちが積極的に授業へ参加してくださったことにも助けられ、楽しく授業をすることができました。そう思えたのも、遠隔授業に対する最初のイメージよりも違和感があまりなかったことによるものだと考えています。 今後も、大学側の持つ資源を高校側に積極的に提供できる機会を増やす手段として、遠隔授業を活用し、高大連携が活発になっていけばいいと願っています。
	広島文教女子大学 ・今回の取り組み自体には意義があったと感じている。生徒の進路選択にあたって、役立つ面が多かったと思われる。一方で、上述したようなハード面での充実が図られることが、今後継続して行くにあたっての一番の課題であると感じている。 ・ネット社会と言われてテレビ会議も盛んに行われるようになってきていると聞いていたが、今回の授業では、まだまだ技術的な改善が行われないと授業の本来あるべき双方向性は望めないと感じた。
	広島経済大学 ・いろいろ改善点もあることとは思いますが、いろんな可能性を秘めた授業方法だと思います。 高校側、大学側、双方から意見を出し合って、よりよいものにしていければと思います。 この遠隔授業をさせていただいて、最初は少しぎこちなかったりして、正直な話大丈夫かな？と思うこともありましたが、しかし、何度かやっているうちに、慣れてきたせいか、いろんな可能性を感じるようになってきました。 来年は、2年目。より良いものになるといいですね。
	安田女子短期大学 ・授業を終えて、あれもこれも不足していたかな、と感じておりますが、2校の生徒達はそれぞれにとってもまじめに参加してくれていたと思いました。よい経験をさせて頂きまして、ありがとうございました。遠隔授業は、情報機器の操作や情報環境など、授業を可能にする状況を作ることが非常に大変だとは思いますが、とても有意義な取り組みだと思いますので、活動が更に広がるとともに深まることを祈念しております。ありがとうございました。

2010年度・前期	広島経済大学
	いろいろ書いてはいますが、基本的には、特に現状通りで問題ないと思います。
	広島工業大学
	・授業を実施するということだけに着目すれば、このような遠隔授業は、費用また時間の節約という意味でも総合的に見て効果があると考えられる。ただし、上にも書いたが、電子機器を使った授業に慣れていないこともあり、生の声のやり取りができていないような印象を受けた。 - また、高校を訪問すれば、担当の先生との会話も少なからずあるが、遠隔になると、その場にいるのだと思うが、高校の教員との接点は皆無である。授業を実施する側から考えると、もう少しやり取りがあっても良いと感じた。 - 最後に、いろいろと課題はあるが、今後、回を重ねていくうちにより良いものになると思われる。今後とも、機会があれば、講義の提供をしていきたいと考えている。
	広島国際大学
	・高校生を映した画像が荒いので、高校生の表情が読み取れず、どれだけ理解しているかが分かりにくかった。将来は、もっと高画質にしてほしい。
	広島修道大学
	・予算の関係でこのような形の授業は本年度で終わりだと聞いたが、高校と大学の連携を高めるためには、今後もぜひ継続して欲しいと思う。
	広島国際大学
	・やはりこういう授業が将来、当たり前になるのは怖い。 ・講義は、相手の反応をみながら、内容も変えながら進めていかないと結局、自己満足の一方的な授業になってしまう。 ・パワーポイントの授業が中心の高校生の授業ってどうなのかと思う。
2010年度・後期	広島女学院大学
	・この取り組みによって、県内や近隣の県だけでなく、行き来することが難しい遠隔地やへき地、もしくは海外とも将来的に高連携が可能になると思うので、これからのニーズに応えるような取り組みのような気がする。そのためには、授業するための機材や手続きの簡略化、安定した通信、教育効果の研究などの課題が挙げられるように思うが、このような試みの積み重ねによって以上のような問題は毎回改良されているのではないかと感じた。 ・今回、初めて、遠隔授業を行ったので、試行錯誤のところが随分とあった。でも、貴重な経験をする事ができ、感謝している。 - 声の大きさ、スピード、時間配分、遠隔授業に合ったパワーポイントの作り方など、まだまだ改善すべき点が多い。 - ただ、教室で授業するのと、ほとんど変わらない状況が設定できているので、電子媒体を利用した遠隔授業は、授業形態として有効であり、かつ発展性が大いに見込まれると思う。 ・全体的にはいい考えだと思う。生徒達は遠隔授業というものを理解し、高校の先生からの協力を得ると、授業は円滑に行われるでしょう。遠隔授業は、技術が向上していくにつれ、より興味深いものになり、授業もより円滑に行えるようになる確信している。授業をよいものにする為、参加する全ての人々がシステムを理解することが重要だ。
	広島修道大学
	・生徒さんの感想を聞きたい。
	広島経済大学
	・高校側としては、そもそもどんな講義を望んでいらっしゃるのか、より明確な要望をいただけるとさらにやりやすいですね。高校の先生方と打ち合わせなどさせていただいて、一緒により良いものにしていければさらに良いのではないのでしょうか。
	比治山大学短期大学部
	・「遠隔」を生かし、2地点の授業者による対談しながらの授業をすると映像のよさが生かせるのではないかと思います。
	広島国際大学
	・受講生の態度や表情から理解度を測って講義内容を調整しているので、高校生の表情なり、気持ちがわかるような方法を考えていただきたい。たとえば、画面をPPTにすると、高校生を写しているモニターが小型になって、表情が分からないので、先生側はモニターを2台にして常に教室の雰囲気や把握できるようにするとか。

庄原・三次 2 高校に1200人

進学意欲の向上を狙い、中国地方の30大学・短大・団体でつくる「教育ネットワーク中国」が開催。計約1200人が参加した。

庄原格致高では「もし日本の首相だったら何をしたいか」「3DCGによる町並み復元」などをテーマに、11校が14講座を開講。県立広島大の阪口利文准教授による微生物の講座に参加した、庄原実業高1年上岡莉菜さん(15)は「微生物が汚泥をきれいにしてくれる話が興味深かった。もっと勉強してみたい」と話していた。

公開講座は18日に吉田高(安芸高田市)、25日に日影館高(三次市)でもある。(梨本晶夫)

三次高 広経大などが11講座

三次市の三次高で17日、インターネット回線を使った広島経済大の遠隔授業があった。

一環。県北の高校生に学習機会を提供し、教養力や大学進学意欲の向上を図る。

本年度の前期授業は

広島、島根県の18大学が参加する過疎地域の人材育成プログラムの一教授が「経済を見る目を磨く」と題し、3年

生11人に授業。教室にはカメフラとマイクが設置され、お互いの映像を定。



と音声が生
ニターやス
ピーカーを
通じて届け
られた。安
藤鷹斗さん
(17)は「大
学の授業を
聞く機会に
た。

細井教授は「画像が
スムーズに届き、生
徒の反応もよく分か
つたので、今後は質疑
を入れたり、授業をシ
リーズで展開したり
できれば」と話してい

(余村泰樹)

(1) 平成 20 年度高大連携研究交流会及び高大連携人材育成連絡会の開催

日 時：2008 年 11 月 18 日(火)11:30～13:00

会 場：グランラセーレ三次平安閣

挨拶：高大連携委員会委員長 広島経済大学 教授 岡本 貞雄

報 告

1. 「中高大連携公開講座を実施して一評価できる点を今後の課題」

広島県立向原高等学校

2. 「今後の課題について」

広島県立三次高等学校

広島県立庄原実業高等学校

3. 質疑応答

4. 「戦略的大学連携支援事業の概要について」

教育ネットワーク中国代表幹事 市川 太一

5. 質疑応答

(2) 平成 21 年度高大連携研究交流会

日 時：2009 年 9 月 26 日(土)13:30～17:00 (新聞 2)

会 場：広島女学院大学・三次高校・庄原格致高校

内 容：FD 研修会「備北地区の高校と 4 大学の連携による遠隔授業の試み」

前期遠隔授業を実施した 4 大学の先生から授業の概略や提言、実施校からは遠隔授業の成果と課題についての報告。

- ・コーディネータ：中田美喜子氏(広島女学院大学 戦略運営委員遠隔授業担当)

- ・実施大学からの遠隔授業の発表

発表者：細井 謙一(広島経済大学)

発表者：澤村 雅史(広島女学院大学) <資料 1>

発表者：八木 裕子(広島国際大学)

発表者：矢田部順二(広島修道大学) <資料 2>

- ・三次高校からの報告

発表者：畦知 克利(三次高校 進路指導主事) <資料 3>

参加者：広島女学院大学：大学関係者(44 人)

三次高校会場：三次高校(7 人)、向原高校(1 人)、日彰館高校(1 人)

庄原格致高校会場：庄原格致高校(8 人)、井口高校(1 人)、東城高校(2 人)

2009年度教育ネットワーク中国 第3回研修会 備北地域との遠隔授業 実施報告

広島女学院大学 澤村雅史

1. 自己紹介

☆研究領域

・キリスト教一般・特に新約聖書学・中でもマタイによる福音書に関する釈義的(解釈学的)研究

・高度情報化社会における人間理解の変容について、キリスト教倫理の側面から

(1) ICT技術が「環境」となる中で、人間理解の変容と「知」の変容が起こっている。

→グーテンベルク革命からグーグル革命へ

(2)「匿名性」が生み出す、人間関係拡大の可能性と、「他者」喪失

→ICT技術により、「属性」を捨象したより自由な人間関係が創出される一方で、①差別性・暴力性の助長、②依存性を伴う没入感、③自己に葛藤をもたらす「他者」の喪失、といった問題が生まれている。

☆担当科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ(導入科目・必修)

→広島女学院大学のキリスト教教育とその目標

(1)学生をキリスト教に教化することではない。また、単にキリスト教に関する知識を教授することでもない。

(2)キリスト教的価値観との対話の中で、各々がその拠って立つ価値観・倫理観を確立して行くこと。

(3)専門課程で修得する専門諸知識を統合し、自己と隣人(人間社会)のために積極的に役立てていくことのできる人間性を陶冶することへの寄与。すなわち教養教育の一つの典型としてのキリスト教教育。

神学者カール・バルトは、「『教養』という言葉は、人間的現実存在の起源的・最後の・本来的な定めと可能性を念頭に置いてなされる、人間的な現実存在の外的および内的な形成の課題のことを表示する」と述べ、また、「(1)人間のまわりの環境(世界)が、彼を、できる限り豊かに、また深く、まわりの世界を知り、理解し、それにあずかる者へと形成したということ。(2)人間が、そのまわりの世界との出会いの中で、自分自身を同時に自由な者および責任ある者に形成してゆくということ。(3)最後に、その人間自身が彼の側で、そのまわりの世界の中で、またまわりの世界に対して、形成者となるということ」(カール・バルト著・井上・吉永訳「福音と教養」、『カール・バルト著作集5』、新教出版社、1986年、p247-)こそが教養(教育)の課題であると述べている。

2. 遠隔授業について

(1)用意したコンテンツとその理由

しかくってまるいもの 多元思考のすすめ

日本では西欧のものとイメージされることが多いキリスト教であるが、実際は中近東を発祥とするアジアの宗教であることを、音楽と画像から感じてもらう。そのことを通し、先入観からはなれて多角的にものごとを見ることの重要性を感じてもらう。

①自分の担当授業であるキリスト教学入門Ⅰの導入部分を、公立高校むけに宗教色をできるだけ薄めて提供した。

②大学教育においてどのようなことが扱われるのかの一端を紹介するのにふさわしいのではないかと思った。

- ③与えられる「知」だけではなく、それと批判的に向き合い自ら「知」を生み出すクリティカル・シンキングの必要性について訴えかけたかった。
- ④視聴覚資料を比較的多く用いるので、今回の遠隔授業で形式として求められているものに近いものを提供できるのではないかと考えた。

(2)担当してみての感想・提言(アンケートの回答をもとに)

評価できる点

- ・ICT技術の発達には目をみはるものがあると実感した。
- ・距離という制限がありながら、授業を共有できることに感銘を受けた。
- ・また、ほぼ制限なくさまざまなソフトを使用することができたので、授業内容に応じた様々な視聴覚資料を提供することが容易にできた。表示のタイムラグも殆ど無く、快適であった。
- ・後述のように、授業の反応がつかみにくいという難点があったが、逆に、普段の授業で自分がどれだけ学生の反応に助けられているかということが認識できて、よい経験であった。

改善すべきと思われる点

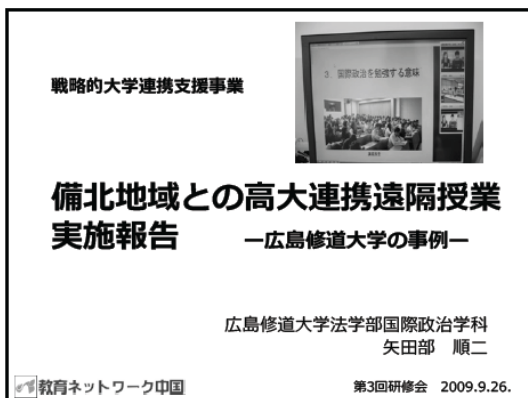
- ・こちらの慣れの問題でもあるが、教室の反応がつかみにくく、双方向のやりとりという点に相当難があった。
- ・教室全体を見渡せる高解像度のビデオと、教室の音声を適切に拾うことのできる機材が使用できれば一番よいが、それにも限界があるのではないか。
- ・ただし、実際に授業を受けている状態の教室を見学したり、双方向のやりとりが上手に成立している授業をリアルタイムあるいはビデオで参観させていただくなど、担当者のテクニック改善によりカバーできる部分はある。
- ・また、双方向のやりとりという点では、授業と並行して生徒がBBS(チャット)でダイレクトに発言するなどの方式があるのではないか。

提言

- ・教材開発、担当者のスキルアップ、遠隔授業ならではのコンテンツなど、これからますます充実・発展させていける分野であると感じた。
- ・自習型のeラーニングと異なり、双方向であるということの利点をどれだけ生かすことができるか、ということが課題であろう。
- ・また、留意すべき点として、単に知識を伝達するだけではなく、「他者」と人格的に出会うということが教育の枢要であるのではないか。ICT技術が生み出す「暗」の部分としての「他者の喪失」を助長することにならないよう、ICT技術の明暗について踏まえたうえで、技術の活用形態のひとつとして育てていけばよいと考える。

備北地域との高大連携授業実施報告－広島修道大学の事例－

広島修道大学法学部国際政治学科 矢田部 順二



報告の趣旨

戦略的大学連携支援事業の一環として、広島修道大学では、報告者から国際政治学の授業を3回にわたって三次高校の生徒に対しておこなった。

本報告の目的は、その授業の概要を紹介し、遠隔授業の可能性を拡大深化させるための方法論を検証することにある。

1. 授業の概要

★メインテーマ

「世界や日本と、『自分』をつなぐ国際政治学」

★各回のテーマ

7月23日：「広島や日本をとりまく国際政治」

7月27日：「地球規模の国際政治と私たち」

7月30日：「国際政治を学ぶ先輩たちは今？」
(各45分間授業)

1. 授業の概要

★各回のねらい

第1回：①国際政治学という学問分野の定義を知る

②現代日本社会と世界との連携を理解する

③相互依存を理解する

第2回：①冷戦終結前後の変化を概観する

②90年代以降の宗教・民族の問題を整理する

③地球規模の問題を考える

第3回：①国際政治学を学ぶ三次高卒業生の話を聴く

②年代の近い若者の世界に対する認識を知る

③大学生活について具体的にイメージする

孤独な授業に四苦八苦する様子



2. 授業の工夫

★教案作成上の工夫

①内容をできるだけ削ぎ落とす

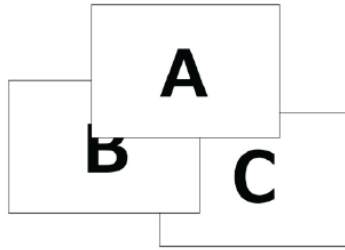
= 高校教科書を参照しプラスαを考える

②一方的講義ではなく参加型授業の手法を取り入れる

= クイズ形式の問いを発し、考えさせる

③身近な例を説明に加え、具体性をもたせる

解答用に用意した札



初回には小さすぎたので2回目には拡大版にし、大学側からも見えるようにした

2. 授業の工夫

★授業運営の工夫

①時間管理

= ストップウォッチを常備し、15分単位で
まとまり（説明・問い・まとめ）を区切る

②明瞭かつゆっくりと発語する

= 遠隔授業の弱点（音飛び）を軽減する

③緊張感を持続させる

= クイズ以外にも問いかけ指名し答えさせ、
教室内に教員が不在である点を補う

2. 授業の工夫

★理解を促すために

①画像や映像の利用

= より視覚的に伝えるために画像を多用し、
かつ5分程度の映像を編集し流す

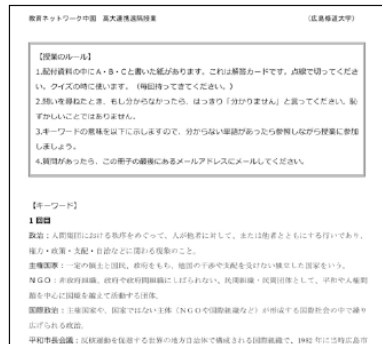
（ただしパワーポイント上では技術的に問題があった）

②配付資料の準備

= 授業のルールや用語集を載せた資料を、パ
ワポ資料とは別に用意する

③キーポイントの復唱

配付資料の例



2. 授業の工夫

★その他の工夫

①出演学生との事前打ち合わせ

= 第3回目の学生との対談ではあらかじめ質
問項目を伝えた

②絵コンテを描く

= 第3回目では学生が語りかける授業だった
ため、カメラワークが分かるように絵コンテを
準備し、カメラマンに操作をお願いした

絵コンテの一部



★ 高校生の反応（アンケート記述欄から）

- ・ とても楽しい授業、よく分かった
- ・ 最初はどのようなものかよく分からなかったけど、受講して普通の授業と同じ感じで受けることができた
- ・ 思った以上に見やすい
- ・ 若干、意思の疎通がむずかしいところがあるけど、それ以外は普通の授業と変わらなかった
- ・ 通常授業と違うので新鮮だった、楽しかった

→ まずは及第点といったところか？

★技術的課題

①回線の状況

= かなり改善されたが、まだ語学の授業には不向き。また、映像を流すにも特殊な処理が必要で、改善が望まれる

②高校側教室からの音声

= マイクの集音が万全ではないので、高校生の発言を求めるには、マイク近くに来てもらうことが必要

★高大連携授業の課題

①出席者の確認

= 修大側は3回の連続講義を設定したが、出席者はバラバラで、名簿もない状況だったので2回目に名簿を提供願った

②授業後のケア

= 質問がある場合の対応について、メールのやりとりを想定していたが、携帯電話の所持が推奨されない中では、メールを受け取ることはなかった(高校側の事情に大学側が疎い)

★今後の展望

①遠隔授業の意味

= 遠隔授業であっても高校生の反応には手応えを感じた。いくつかの点を除いては、遠隔授業の工夫はふだんの授業改善に通じるものである

②今後の可能性

= 出張授業に比べれば、遠隔授業は連続化が容易で、体系的な学習を可能にする。VOD化をすれば高校側からいつでもアクセスできるようにする、高校生の進学意欲向上に遠隔授業は大きな可能性を秘めている

ご静聴に感謝します

<資料 3>

第 3 回 F D 研修会用資料

平成 21 年 9 月 26 日
広島県立三次高等学校
進路指導主事 畦知克利

平成 21 年度 高大連携前期遠隔授業について
「備北地区の高校と 4 大学の連携による遠隔授業の試み」

1. 遠隔授業の実施に向けて

- (1) 平成 21 年 2 月 17 日(木)遠隔授業模擬授業を開催
対象生徒：本校 2 学年生徒
場所：本校理数教室
映像が見えにくく、音声聞き取りにくいという課題が残る。
→回線工事を行う必要がある。
- (2) 4 月 7 日(火)今年度の高大連携事業・遠隔授業についての方針の確認
→回線工事を行い、前期については三次高校でのみ行うこととなる。
6 月下旬：3 年生対象
7 月下旬：1, 2 年生対象
- (3) 4 月 23 日(木) 回線工事調査
6 月 1 日(月) NTT 回線工事
6 月 2 日(火)～各大学配信テスト

これらの過程を経て 6 月 17 日に第 1 回の遠隔授業が行われた。

2. 遠隔授業の実際

- (1) 設定時間：放課後 45 分間
- (2) 対象生徒：各学年希望生徒(各回 10 名程度)
＜原則として同一大学の講義には継続して参加することとした＞
- (3) 参加教員：進路指導部、所属学年会教員
- (4) 講義用資料：使用する場合には各大学から事前に送付。
(事前に送付されたデータを印刷する場合もあった。)
- (5) 会場(理数教室)の準備：授業開始予定時間の 1 時間半前から業者が準備開始
- (6) 参加した生徒は熱心に講義を受講しており、講義後の感想も興味深かったという好意的なものが大半を占めていた。が、いっぽうで内容に興味を持って参加しようと思ったが、遠隔授業がどんなものかは、まるで分かっていなかったという声も多かった。

3. 遠隔授業の成果

- (1) 高校での教科・科目を越えた内容の中身の講義などを受けることにより、自身の興味や関心のある分野への進学意欲を高めることができること。
 - ・自身が進学を希望する分野
 - ・普通科高校では学ばない実学系分野や福祉系分野
 - ・国際政治学といった高校での教科よりも専門性の高い分野
- (2) 一方通行にならず、双方向性の通信であることを活かした授業ができたこと。
 - ・授業中に作業や書き込みをしながらすすむプリントの工夫

- ・質問事項や回答の方法も用意されていた事前資料
- ・生徒の意見や具体的な行動を想定しての授業展開の工夫

(3) 本校卒業生との対話を通して、大学生活についての具体的な話を聞いたこと。

- ・学部学科で学習する内容についてのもの
- ・大学生活および受験勉強についてのもの

4. 遠隔授業の課題(改善点)

(1) 遠隔授業を企画するにあたっての課題

- ・年間行事計画の中に入れ、職員・生徒への内容の周知を図る必要がある。
 - ・設定時間や対象生徒について、十分に協議を行う。
- 総合的な学習の時間等を利用して、計画的な実施を行うことも可能なのでは？
- ・教員の参加態勢(業者の配信テストなども含めて)、取組についての工夫を図る。

(2) 設備的な面や配信の面での課題

- ・回線工事の必要性がどのくらいのものなのか。
- ・各校の既存機器の利用についての工夫

→本校での遠隔授業で生徒が質問に答える際に、マイクのある場所まで移動して答えるという場面がままあったが、既存のマイクやスピーカーの利用がうまくできれば改善されるのでは？

- ・今回も音声や映像の状況がよくない授業や、画面の切り換えなどが上手くいかない場面があり、業者との協力が必要。

(3) 授業面での課題

- ・今期の内容は、文系の内容に偏っていた面があり、生徒の募集に苦労した。文理のバランスが整うほうが望ましい。
- 講座の内容について、教員や生徒のアンケート等を利用し、希望を反映させる。
- ・生徒の名表や席順の提示を行い、双方向性であることをさらに上手く利用する。

平成 21 年 9 月 27 日(日)
中国新聞掲載

都市圏大学⇄県北の高校

ネット「遠隔授業」利点探る

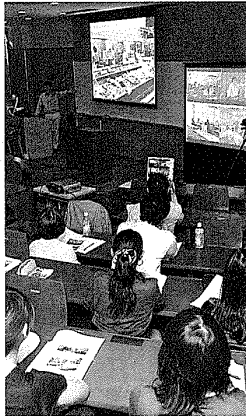
教授や教諭 3会場結び意見交換

広島都市圏の大学がインターネットを経由して県北の高校生に講義する「遠隔授業」の研修会が26日、広島市などの3会場を結んで開かれた。大学教授や高校教諭たち約60人が、モニター越しに利点や課題を話し合った。(村田拓也)

会場は、広島女学院(三次市)、庄原大の会場からは、広島大(広島市東区)と三格致高(庄原市)。同経済大(安佐南区)の三次高の会場から、同高の駐知克利教諭(42)が「双方向の通信を生かした授業で生徒の進路意識が高まった」と指摘。一方で「専用の機器だけでなく、学校の既存設備も利用できるシステムになれば」と要望した。

遠隔授業は、中国地方の大学連携組織「教育ネットワーク中国(中区)」が本年度から7月には三次高と広島市、東広島市の4大学を結び、教員たちが福祉や国際政治などをテーマに講義した。

遠隔授業は10月、11月、三次、庄原格致、日影館(三次市)、向原(安芸高田市)の4高校で実施される。



モニター越しに遠隔授業の利点や課題を話し合う参加者(広島市東区の広島女学院大)

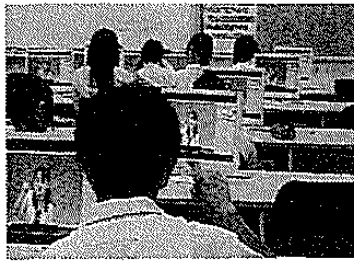
ステップアップ!

20代教師

高大連携で遠隔授業

広島県内3校を結び研修推進

大学コンソーシアムの一つで、広島県内を中心に大学・短大など27校が加盟する教育ネットワーク中国(代表幹事・市川太一広島修道大学教授)では9月に、広島女学院大学、広島県立三次高校(理数教室)・庄原格致高校(情報教室)の3会場をインターネット回線



で結び双方向で遠隔授業に関する研修を行った。

この研修は、中国地方

備北地区の高校教職員および教育ネットワーク中

国会員大学教職員を対象に実施されたもので、「備北地区の高校と4大

学の連携による遠隔授業の試み」がテーマ。

今年度前期(6～7

月)に行われた広島経済大学、広島女学院大学、

広島国際大学、広島修道大学の4大学と三次高校の遠隔授業の実践につい

て、担当者から実際にを行った授業の概略や工夫、成果と課題などが報告された。

コーディネーターの中

田美喜子広島女学院大学

.....

インターネットで結び遠

隔授業

准教授は「今回の高大連携遠隔講義の実践から、

備北地区のインターネット

トインフラの整備の遅れ、高校のインターネッ

ト接続インフラ整備の補助が必要であるなど、物理的に解決すべき問題が明らかになった。補助金

でできるだけ解決するなど、継続のためには、広島県および高校、大学間のサポートをどのように実施していくのが今後の課題である」と語った。

また、市川代表幹事は

後期の遠隔授業は、広島県立高校の三次、庄原格致、向原、日影館の4校で実施される予定。

「06年度から広島県の備北地区の10高校を対象に中大連携公開講座を開始し、今年度は2000人を超える生徒が受講した。これも過去3年間、大学と高校が連携してやってきた実績があるからである。この地区の高校とさらに深い信頼関係を築いていきたい」と、高大連携についての抱負を語った。

(3)平成 22 年度高大連携研究交流会

日 時：2010 年 12 月 3 日(金)14:00～16:00

会 場：グランラッセ三次平安閣

挨 拶：高大連携委員会委員長 広島経済大学 教授 岡本 貞雄

報 告：

1. 「中山間地域の次世代を担う人材育成について」＜資料 1＞

広島県立三次高等学校校長 梶原 督三

2. 「教育ネットワーク中国との連携について

ー高大連携の充実を目指してー(連携の現状と今後の展望)」＜資料 2＞

広島県立庄原格致高等学校校長 福山 友善

3. 「中山間地域の高校を対象とした遠隔授業の実施報告」＜資料 3＞

戦略的大学連携支援事業遠隔授業担当 広島女学院大学 准教授 中田美喜子

4. 質疑応答・意見交換

5. 「戦略的大学連携支援事業の評価と今後について」

教育ネットワーク中国副代表幹事 エリザベト音楽大学 学長 川野 祐二

参加者：広島県教育委員会、呉市育委員会

エリザベト音楽大学、山陽女子短期大学、広島経済大学、広島女学院大学、

広島都市学園大学、安田女子大学(短期大学)、教育ネットワーク中国

吉田高校(2 人)、向原高校(1 人)、三次高校(3 人)、庄原格致高校(2 人)、

日彰館高校(2 人)、高宮高校(1 人)、三次青陵高校(2 人)、庄原実業高校(2 人)、

西条紫水高校(2 人) 計 29 人

平成22年度 高大連携事業について

広島県立三次高等学校

1. 事業内容について

(1) 中高大連携公開講座(11大学・短大、17講座)

7月17日(土)<1年生全員、2・3年希望者、中学生、保護者参加>

(2) 高大連携遠隔授業

前期 6～7月

①(工学)「人とデザイン」 <広島国際大学> (3年10名参加)

②(商学・経営学)「航空と空港」 <広島修道大学> (1年1名、3年9名参加)

③(社会学)「人口減少、少子・高齢社会」で「地域社会」を解く (3年11名参加)

<比治山大学>

後期 10～11月

①(経営学)「経済を見る目を磨く」 (2年1名、3年11名参加)<広島経済大学>

②(法学)「私のものとあなたのもの」 (2年6名、3年4名参加)<広島修道大学>

③(工学：自然科学系の情報)「新エネルギー供給形態(スマートグリッド)」

(2年8名、3年2名参加)<広島工業大学>

(3) 公開講座「大学入門」 7月～8月(オープンキャンパス・特別講義等への参加)

(10大学のべ170名参加)

2. 事業の成果

(1) 高等学校での教科・科目を超えた内容の講義を学ぶことにより、自分の興味ある分野への学習意欲を高めることができる。

→遠隔授業の後で、講義内容について自身が来年度に行う理数課題研究のテーマとして、研究をしてみたいという生徒もいた。

(2) 3年生の大学への志望理由の中で、自らの体験として講義内容や大学の様子を述べる事が可能になる。

3. 課題

(1) 小学生や中学生等の参加のあり方や地域人材の育成のためのネットワークを構築する必要がある。

(2) 高大間での相互交流に発展する必要がある。

教育ネットワーク中国との連携について
ー高大連携の充実を目指してー(連携の現状と今後の展望)

広島県立庄原格致高等学校
校 長 福山 友善

1. 学習指導要領の改訂

改正前(旧高等学校学習指導要領 平成 11 年告示)

開かれた学校づくりを進めるため、高等学校間や中学校、盲学校、聾学校および養護学校などとの間の連携や交流を図るとともに……

改正後(新高等学校学習指導要領 平成 21 年告示)

学校がその目的を達成するため、高等学校間や中学校、特別支援学校及び大学などとの間の連携や交流を図るとともに……

2. 高等学校学習指導要領 解説総則編

- 今回の改訂で大学との連携が明示されている。これを踏まえ、例えば、高等学校において専門分野に関する講演や説明等を大学の教授等に依頼したり、課題学習を行う際に大学生の支援を得てよりきめ細かく指導したりするなど、高大連携を推進することで、生徒の学習意欲を高め、個々の興味関心を持つ学問分野への理解を一層深めるとともに、主体的な進路選択を行うことができるようにすることも期待される。

4 年間の本校からの参加者数の推移

	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度
公開講座	約 1 3 0 人	約 1 2 0 人	2 3 3 人	1 1 5 人
保護者対象講座			約 3 0 人	約 2 0 人
大学訪問(バス利用)			8 7 人	2 5 人
遠隔授業			2 0 人	7 1 人
保護者大学訪問			1 0 人	1 4 人

学校へ定着した公開講座
参加者が増え始めた遠隔授業
希望が増え始めた保護者大学訪問

講座内容の推移

平成 1 9 年度	
平成 2 0 年度	樋口一葉その人と文学、イザナキイザナミ神話とヤマタノオロチ、人間の想像力と表現視線の先に何がある、障害者高齢者の生活を考える、手と手との絆、帰化植物と外来生物法、A L A ちゃんの農業と園芸、環境保全工学、テーピング理論とテクニック、自分らしく働き、生きる、美術・芸術・音楽、大学での学びと進路
平成 2 1 年度	「竹取物語」と生老病死、日本神話(日本の誕生)、みてきいて心と体、English に挑戦、ツーリズムの動向と中山間地、もしあなたが首相だったら、地域防災を考える、情報通信とは(価値ある情報を早く遠くへ)、日本の科学技術を支えるスーパーコンピューター、病理形態から見たがん細胞、変わった微生物を環境に役立ててみる、大学で学ぶということ、大学生の就職や進路を考える、看護師への道(庄原日赤)

平成22年度	昔話の研究、国際政治経済学、成人を対象とした看護、コンピューターに知能を与えなどを解明してみよう。バイオテクノロジー、ALAちゃんは農業・園芸を豊かにし地球を救う。生き物の生体防御の仕組みに見せられて職と健康についてなりたいたい自分になるために
--------	--

3. 遠隔授業参加者アンケートから

	男子	女子	合計
1年	5	9	14
2年	18	3	21
合計	23	12	35

○最初は嫌だったが、受けてみるととても面白かった。

○経済がどんなものかがわかった。経済を見る目が磨かれたと思う。

○この授業で興味を持ちました。機会があったら、もっと研究してみたい。

●興味のある内容であったら、関心が持てたかも知れないけど、興味が持てなかった。

●やはり、画面ではコミュニケーションが取りづらい。

アンケート集約から

- あなたはこの授業の内容が理解できたか。
77.1%(思う、やや思う)
- レジュメはわかりやすかったか。
77.1%(思う、やや思う)
- 教材(パワーポイント)はわかりやすいものだったか。
88.6%(思う、やや思う)
- 遠隔地を意識した授業内容だったか。
62.8%(思う、やや思う)
- 次も遠隔授業を受けてみたいか。
51.5%(思う、やや思う)
- 受講により大学への関心が深まりましたか。
65.7%(思う、やや思う)
- 受講により進学意欲が高まりましたか。
57.2%(思う、やや思う)
- この授業が進路選択に役立ちそうですか。
68.5%(思う、やや思う)

4. PTA組織の改革

改正前	改正後
○校内部	○事業部
会員研修、宝市	宝市、街頭指導、環境整備
○郊外部	○研修部
校外指導、支部懇談会	進学研修会の企画運営
○広報部	PTA関連事業への参加
PTA会報	○広報部
	PTA会報作成

5. 課題山積

県の進める学力向上事業（CH事業）

S P P 事業（授業に大学の授業の導入）

これまでの継続的プログラム（学年単位の大学訪問、職業啓発セミナー）

広島大学教員の講演会

6. 成果と課題

- 大学の先生のことも含め、生徒が大学を知るよい機会になっている。
- 保護者も大学を考える機会を得ることができた。
- 遠隔授業が大学の教育内容を知るだけでなく、興味関心を引き出し教育的効果を生んでいる。
- 実施時期・実施時間帯について検討の必要がある。
- 所掌する体制を整えること。
- 選択と集中の必要性（生徒の学習意思の形成を中心に）

「中山間地域の高校を対象とした遠隔授業の実施報告」

広島女学院大学 准教授 中田美喜子

中山間地域の高校を対象にした遠隔授業

中田 美喜子
教育ネットワーク中国運営委員会委員
広島女学院大学生活科学部 nakata@hju.ac.jp
キーワード: 遠隔授業、インターネット、大学コンソ
シウム

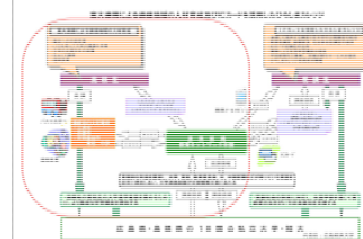
はじめに

- e-learning 遠隔講義
 - 様々な内容や形式で学習効果
 - 遠隔講義
 - 離れた大学キャンパスにおける同時講義
 - 人数の多いクラスにおける遠隔講義併用開講
 - 同じ大学内での開講が多く報告
 - 大学間
 - 大学コンソシアムの単位互換科目
- インターネット速度・機材の性能

目的

- 教育ネットワーク中国
- 「高大連携による過疎地域の人材育成」
- 過疎地域にある高校の人材育成
 - より高度な学習機会を提供
 - 大学進学意欲を向上
 - 将来地元に戻って働く意識を涵養
- 実施内容
 - オープンキャンパスへの送迎
 - 大学教員による出張講義
 - 高大連携による大学の授業を高校で履こう
 - インターネットを利用した遠隔授業

補助金事業の概略



ネットワーク機器設備

- 遠隔講義システム
 - インターネットテレビ会議システムを利用
 - 広島市内の大学間で接続テスト OK
 - 備北地区の高校と大学間で接続テスト
 - 画面: コマ送り 音声: 途切れ頻発
 - インターネット回線のスピードが原因
 - 「平和ネット」広島県教育委員会接続
- 高校へインフラ整備必要
 - B フレッツ光およびADSL

会議システム

- テレビ会議システム
 - V2 Conference 5.6.0.20



講義方法

- 当日の資料
 - プレゼン用ソフトで作成
 - 大学から高校側へ配信しながら講義
- 講義時間は45分から50分
- 配布資料 事前送付
 - 印刷 → 郵送 → 配布
 - 高校側のメールには添付できない

設備機器 授業 1

- 大学側の設備
 - カメラ、コンピュータ2台、マイクスピーカ
- 高校側の設備
 - カメラ、コンピュータ1台、マイクスピーカ

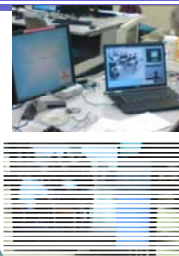


福祉関連科目 手話の授業風景

授業2 経済を見る目を磨く



授業3 PC教室から



● 大学側基本システム

- カメラ
- PC2台
- スピーカ マイク

授業4 研究室から



授業5 英語の授業



授業6 漢字の世界



開講講義一覧 2009年前期

日 時	実施大学	講座名
6月17日(水)24日(水)	広島経済大学	経済を見る目を磨く
6月19日(金)23日(月)26日(金)	広島女学院大学	世界遺産入門 メールの常識・非常識 しかくってまるいもの 多元的思考のすすめ
7月22日(水)24日(金)26日(水)	広島国際大学	福祉の世界へようこそ！
7月23日(木)27日(月)30日(木)	広島修道大学	世界や日本と、「自分」をつなぐ国際政治学

開講講義一覧 2009年度後期

日 時	高校	実施大学	講座名
10月26日(月)11月2日(月)16日(月)	三次・庄原協賛	広島文教女子大学	心理学って何だろう？ 幼児教育
10月28日(水)29日(木)	向原	広島女学院大学	英語のコミュニケーション
11月4日(水)11日(水)	角屋・日新館	広島経済大学	経済を見る目を磨く
11月5日(木)19日(木)26日(木)	庄原格致	比治山大学	保育道
11月5日(木)19日(木)26日(木)	庄原格致	比治山大学短期大学部	一子どもを知る、保育を知る、自分を知るー
11月10日(火)17日(火)	三次・日新館	安田女子大学 安田女子短期大学	保育入門
12月7日(月)14日(月)	三次・角屋	広島工業大学	インターネットの仕組み

開講科目一覧 2010年度前期

日 時	高校	実施大学	講座名
7月8日、15日	三次高校	比治山大学	「人口減少 少子・高齢社会」で「地域社会」を強く
6月30日、7月7日	庄原格致	広島経済大学	経済を見る目を磨く
6月21日、28日	庄原格致	広島工業大学	インターネットの仕組み
6月10日、17日	向原	広島国際大学	福祉の世界へようこそ！
6月15日、22日	三次・日新館	広島国際大学	人とデザイン
6月18日、7月9日	三次高校	広島修道大学	航空と空港
6月1日、8日	角屋・日新館	広島修道大学	サプライチェーン以降の経済情勢と企業動向について
6月4日、7月12日	角屋・日新館	広島女学院大学	英語でコミュニケーション
6月25日、30日	庄原格致	広島女学院大学	漢字の世界 ー漢字の語一 漢字の世界 ー名前と漢字ー

アンケート調査

- アンケート実施
 - 高校側生徒、教員
 - 授業を実施した大学教員

アンケート結果一覧1

質問項目	思わない	やや思わない	やや思う	思う
遠隔地で授業してもらうことに抵抗がありますか	43.5	37.0	17.4	2.2
遠隔授業に興味がありますか	2.2	0	17.4	60.9
身近に教員が接するほうが勉強になりますか	2.2	10.9	63.0	23.9
遠隔地で行う授業で有名な教授なら受講したいと思えますか	2.2	6.7	44.4	46.7
1学期の授業の中で数回なら遠隔授業が入ってもよいですか	6.8	13.6	40.9	38.6
遠隔授業は無味感想でいいですか	38.3	46.8	14.9	0

アンケート結果一覧1

質問項目	思わない	やや思わない	やや思う	思う
遠隔地で授業してもらうことに抵抗がありますか	43.5	37.0	17.4	2.2
遠隔授業に興味がありますか	2.2	0	17.4	60.9
遠隔地で行う授業で有名な教授なら受講したいと思えますか	2.2	6.7	44.4	46.7
1学期の授業の中で数回なら遠隔授業が入ってもよいですか	6.8	13.6	40.9	38.6
遠隔授業は無味感想でいいですか	38.3	46.8	14.9	0

アンケート結果一覧2

	よくできた	できた	あまりできなかった	まったくできなかった
通常の授業と大差なく無難なく遠隔授業を受けることができましたか	12.8	55.3	31.9	0
	理解できた	ほとんど理解できた	ほとんど理解できなかった	まったく理解できなかった
あなたはこの授業の内容を理解できましたか	29.8	68.1	2.1	0
	大まかに立ちそう	少し役に立ちそう	ほとんど役に立ちそうにない	まったく役に立ちない
今回の授業は将来の進路の選択に役に立ちそうですか	29.8	61.7	8.5	0

自由記述（生徒）

- 肯定的な回答
 - 「思ったよりよく、近くに先生がいるようだった。」
 - 「楽しかった」
 - 「普通の授業とかわりなかった」
- 数名
 - 「コミュニケーションがとりづらい」

高校教員へのアンケート

- 「音声は明瞭に聞こえましたか」
 - よく聞こえた、聞こえたで100%
- 「映像は鮮明に見えましたか」
 - 良く見えた、見えたで100%
- 「通常の授業と大差なく、生徒が本授業を受けていたように思われましたか」
 - 思う、やや思うで100%

大学教員のアンケート

- 遠隔授業を担当されて評価できる点
 - 技術進歩に関心した
 - 普段の対面式の時は、恥ずかしがっている高校生が、目の前に講師がいないということで、全員が積極的に手を動かしていたので、時にこういう授業もよいのかと思った(手話の授業)
 - 学内でできることで担当することが容易になる

大学教員のアンケート

- 遠隔授業を担当されて改善すべき点
 - 途中 回線が途切れたり、画面が止まったりが数回あった
 - 授業が中断したり、中断している時、高校生のみなさんが何をしているのかもわからないので、遠隔授業の限界を感じた
 - 人手もかかるし(PC関係の人たちの作業)、生徒さんの反応もわかりづらい
 - 教室の反応がかなりつかみにくく、双方向のやりとりという点に相当難がありました。
 - 教室全体を見渡せる高解像度のビデオと、教室の音声を適切に拾うことのできる機材が使用できれば一番よいでしょうが、それにも限界があるでしょう

大学教員のアンケート

- その他、遠隔授業に関する意見
 - こういう授業が将来、当たり前になるのが怖い
 - やはり講義は、相手の反応をみながら、内容も変えながら進めていかないと結局自己満足の一方的な授業になってしまう
 - パワーポイントの授業が中心の高校生の授業ってどうなのかなと思う
 - 教材開発、担当者のスキルアップ、遠隔授業ならではのコンテンツなど、これからますます充実・発展させていける分野であると感じました
 - ストリーミング配信などを用いたものと違って、双方向であるということの利点をどれだけ生かすことができるか、前向きに考える余地がいろいろありそうです
 - 自分にとっては非常に貴重な経験となった
 - また、こういう機会があれば、ぜひ参加させてください

まとめ

- 高大連携による遠隔授業の結果
 - 高校生は興味深く授業を受講
 - 文科系の科目がほとんど
 - 高校から理系の科目の要望あり
 - 大学教員のFD
 - 改善して継続
- 広島県備北地区
 - インターネットのインフラに地域格差
 - 過疎地域への連携

将来への課題と問題

- 広島県備北地区から
 - 生徒から社会人への要望有り
 - 公開講座
 - 生涯学習
 - インフラ整備必要
 - 自治体へ
 - 補助人員の問題
 - 安価な移動可能システム
 - 補助人員必要

ご清聴ありがとうございました



生涯教育と大学の活性化

柳瀬 陽介

広島大学 准教授
教育ネットワーク中国運営委員
(戦略的大学連携運営委員・生涯学習担当)



学習とは一方的に情報を受け取ることではない。ところが現実では多くの教育機関で、「教師から学習者に伝えられる情報を学習者が近々に行われるテストの時に暗記しておける(あるいは活用できる)なら学習は成功」とされているふしがある。情報伝達と情報保持の効率化ばかりに目が向けられているのかもしれない。

いうまでもなく、これはあまりに狭く歪んだ学習観であるが、「エビデンスによるアカウンタビリティ」を強く求められる昨今(そしてそれを疑うことはグローバリゼーションに反することだと糾弾される現在)、多くの教育機関は短期的な結果を追いかけて、学習と教育の貧困化を招いているのかもしれない(私は「カタカナ用語が多用される論には警戒せよ」という経験則を個人的に打ち立てているが、現在のところ、この経験則は結構役立っている)。

学校で教えられることに限りがあり、世界が限りなく広く奥深く複合的である以上、学校教育の根幹には、「新しい可能性に対して学習者の心と身体を拓く」ということが据えられなければならない。学校でいくら知識を詰め込んだとしても、その知識だけでこの世界を生き抜くことはできないからだ。学校は、学習者の身心の感性を育て、学習者が自分で世界の新しいあり方・現在とは別のあり方に気づけるようにして、そこから創造ができるようにしない。

そのためには学校教師自身が狭く歪んだ巢窟にとどまっていってはならない。だが大学においても研究者はますます短期間に業績を求められる。論文という業績は一般的には狭く問題を限定すればするほど専門誌に掲載されやすいので、上記の「エビデンスによるアカウンタビリティ」あるいは「グローバリゼーション」により大学教師もますます自らの知性と感性を短期的で限定的なものにするように構造的に動機づけられている。

そんな大学教育の閉塞を打破するきっかけの一つとなりうるのが生涯学習への関与かもしれない。大学講師は、大学での卒業所要単位認定という権力関係を離れて受講者に向きあう。しかも受講者はさまざまな社会経験の背景を有している。いきおい受講者の反応は大学生からの反応と異なる。もちろん講師からすれば筋違いにしか思えない反応もあるかもしれないが、中には思いもかけず講師の認識と思考の弱点をつく指摘もあるだろう。生涯教育を一方的な情報伝達の場合ではない、ただ「学ぼう」とする心だけを共有する対話の場合とするならば、生涯教育の機会が大学を活性化させる可能性をもつ。

教育ネットワーク中国は、生涯教育においても地域の高高等教育機関・行政機関の連携を強化し、相乗効果を出そうと試みている。この試みを通じて、学ぶ文化をより広く深く展開できればと願っている。

生涯学習を支援する IC カード受講証

長坂 康史

広島工業大学 教授

教育ネットワーク中国 IC カード学生証委員会委員長
(戦略的大学連携運営委員・IC カード担当)



生涯学習で大切なことは「学びたい」という気持ちである。人はいつになっても新しいことに興味を持ち、そして、それを自分のものにしたいという欲求を持っているものである。その手助けをするのが、生涯学習講座である。興味は人それぞれであることから、ひとつの教育機関が提供する講座だけでは満足できないことは明らかである。それを解決するのが、地域に親しまれている大学等が参加する教育ネットワーク中国をとおして提供される生涯学習講座ではないかと思われる。

しかし、これらの講座も提供すればよいという時代は終わったと考えている。人の興味は、個別の講座を受講し、知識を習得する個別理解型から、さまざまな講座を横断的に受講し、総合的な知識を得る総合理解型へと変化しつつある。これまでの生涯学習講座はいずれも独立しており、総合的な知識を習得するためには、どのような講座をどのように受講すればよいかについては考えられていなかった。これは、個別の受講履歴を管理することが容易ではなく、その管理を受講者に頼るのはさらに難しいことが原因の一つにあげられる。

この問題を解決するのが IC カード受講証である。受講証を IC カード化することで、受講者一人ひとりへのサービスが向上したことは言うまでもない。また、IC カードという新しい技術に触れることができるというメリットもあった。これまで、自分の受講した講座の記録は自分で取る必要があったが、この IC カード受講証の導入により、受講情報システムの一部として受講履歴の記録・閲覧ができるようになった。システム化することにより、作業の流れが変わったことから運営側に多少戸惑いもあったが、これまでの紙ベースの仕組みと比べれば大変便利になった。これをきっかけに、個別理解型の生涯学習講座の受講から、総合理解型の受講へと少しでも移り変わっていただければと思う。

IC カード受講証の導入開始から現在までの間に、この新しい受講証は徐々に受け入れられ、その利用においても問題なく、大いに成功したと考えている。今後は、この IC カード受講証の導入に留まらず、さらに一歩踏み込み、生涯学習講座を利用した総合理解型の知識習得に導くための仕組みを提供することについて取り組んでいく必要があると考えている。これからの発展に期待したい。

第4章

ICカードを活用したひろしまカレッジ

1

ひろしまカレッジ受講システム

生涯学習機会を拡大し、教育型・社会参加型・課題解決型講座の開講、講座内容の多様化を図って、ひろしまカレッジを開設する。講座の受講履歴、出欠記録、成績、修了要件の確認、修了証の発行などのためにICカード受講証を活用する。

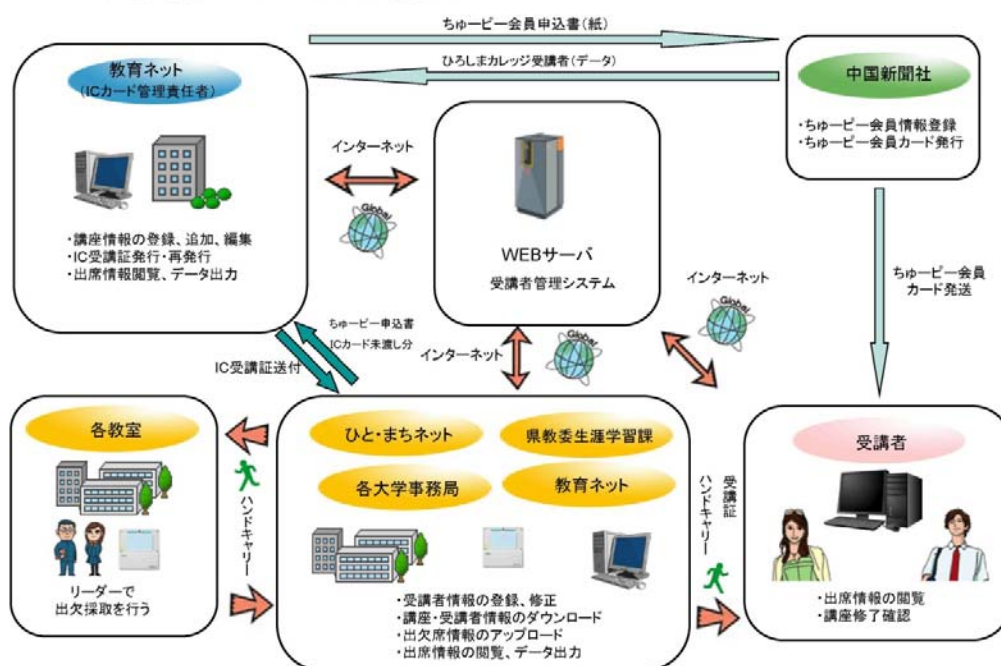
- ◆ ICカードを活用したひろしまカレッジとは
 - ・連携して提供する講座と各大学の公開講座の統合
 - ・教育型講座、課題解決、社会参加型講座の提供
 - ・ICカード受講証の活用
 - ・携帯による生涯学習講座の提供
 - ・ひろしまカレッジ交流会の開催

◆期待される成果について

- ・ひろしまカレッジによって期待される成果
各大学が教育ネットワーク中国に提供している講座と各大学が個別に実施している講座を統合することによって、講座情報が一元化され、受講者には選択の範囲が広がる。
- ・ひろしまカレッジ(ICカード受講証)によって期待される成果
ICカード受講証の使用によって、受講者の関心を探り、関心に基づいた講座を設定できる。
ICカード受講証を通じて、受講者は自分の学習歴を把握でき、学習計画を立て、学習へのインセンティブを増すことができる。
- ・ひろしまカレッジ(携帯メールマガジン)によって期待される成果
携帯電話へ講座情報を随時配信し、受講者、とくに年齢の高い層の受講者の便宜を図る。

<ひろしまカレッジ受講システム開発>

「ICカード受講証を活用したひろしまカレッジ」運用イメージ図



ひろしまカレッジ

Miroshima College

受講証のお渡し方法

別紙の講座案内パンフレットの「ひろしまカレッジ 受講証」マークの表示がある講座を受講される方に、初回の講座でお渡しします。

※初回講座に出席された場合は、郵送でもお渡します。
教育ネットワークから受講生へ受講生をお渡しいたします。

受講証の使用法

講座受講時に、会場入り口に設置してあるリーダーに受講証をかざしてください。

ひろしまカレッジ受講システムへのログイン方法

- 1 ひろしまカレッジのホームページにアクセス
<http://www.college.jp/hqshina/>
 「受講履歴」のリンクをクリック
 受講履歴の表示画面が表示されます。
- 2 ログイン画面で
 受講者番号とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリック
 ログイン成功すると、受講履歴の表示画面が表示されます。
- 3 一覧画面で確認ができます。

※ホームページの更新は随時行われます。

〒730-0011 広島市中区基町15-3 広島県内 株式会社 教育ネット
 TEL・FAX (082) 209-5045 (ひろしまカレッジ専用) E-mail: Perodrom@netcol.jp URL: <http://www.college.jp>
 ※電話でのお問い合わせは10:00～17:00です。 ※Eメールの返信は24時間です。

109

(1)2009 度ひろしまカレッジ連携公開講座

①シティカレッジ

【主催】教育ネットワーク中国、広島市、(財)広島市ひと・まちネットワーク、開講大学

【会場】広島市まちづくり市民交流プラザ

	大学名	日 程	学問分野	講座名
前期	エリザベト音楽大学	5/19～6/16(火)	人文科学系 芸術	オルガン音楽のひとつ ーオルガン入門ー
	広島女学院大学	5/20～6/24(水)	複合系 教養	世界遺産入門
	広島大学	5/22～7/3(金)		国際環境協力学に向けて
	広島国際大学	5/30～6/27(土)	社会科学系 社会・社会福祉	スーパー高齢者学
	安田女子大学	5/30～7/4(土)	人文科学系 文化・文学	歴史上の人物の手紙から学ぶ
	鈴峯女子短期大学	7/11～8/29(土)	複合系 食物・被服・生活	食と健康・安全
後期	広島国際学院大学	9/12～10/3(土)	社会科学系 社会・社会福祉	現代の「貧困」と社会的弱者 ー高齢者・障害者・若者・外国人 ・・・の置かれている状態と課題ー
	広島文教女子大学	9/15～10/20(火)	人文科学系 文化・文学	原典で読む『百人一首』
	広島修道大学	10/1～10/29(木)	複合系 複合その他	文化のグローバル化を捕捉する ー社会学・心理学の視点からー
	広島経済大学	10/27～12/1(火)	社会科学系 社会科学その他	人間関係力とコミュニケーション
	県立広島大学	11/5～12/10(木)	複合系 食物・被服・生活	食と健康のサイエンス
	広島工業大学	11/6～12/4(金) 11/26(木)	複合系 環境	広島市における都市の高温化とそ の緩和対策
	比治山大学	11/14～12/19 (土)	人文科学系 文化・文学	比治山大学・広島県立歴史博物 館・広島県立歴史民俗資料館共催 公開講座「瀬戸内と中国山地の歴 史と文化」

※広島大学はＩＣカード受講証発行なし

②ぱれっとカレッジ

【主催】教育ネットワーク中国、広島県教育委員会、開講大学

【会場】広島県立図書館 会議室(前期) 広島 YMCA ホール 本館(後期)

	大学名	日 程	学問分野	講座名
前期	安田女子大学	6/27～8/1(土)	自然科学系 保健	薬学と現代社会との接点
後期	教育ネットワーク中国	2/6・2/13(土)	複合系 環境	環境に優しい暮らし方

③エニカカレッジ 教育ネットワーク中国主催講座

■これからの教師像 2009

日 時：平成 21 年 12 月 12 日(土)～13(日) (105 人)

会 場：広島国際大学(国際教育センター)

学問分野：人文科学系 教育学

参加者：教育ネットワーク中国会員校に在籍する学生と卒業生で養成段階の大学生、教員採用試験を受験予定の方、すでに教職の道を歩み始めている方、この分野に関心のある方など

Enica College

教育ネットワーク中国 ひろしまカレッジ

これからの教師像 2009



12月
12日
(土)

12月
13日
(日)

受講料 無料 定員 150 人

「あなたの理想の教師像は？」

こんな質問に対して、皆さんは考えがまとまっていますか。

過去の受講生は、本当に充実した2日間だったと感想を述べています。

～．．．～．．．～

「実際、漠然とした教師の魅力が身にしみてわかった気がします。教師になりたいという決意がさらに高まりました。」

「教員にならなくてもよいという気持ちもありましたが、講師の方々の話を聞き、教員の夢は諦めないで改めて感じました。」

「どの講義もその講義を聴いて満足するのではなく、『自分で勉強しなくては』と考えさせられるものばかりでした。」

～．．．～．．．～

教師の資質向上が求められるなか、学校教育の現場の厳しい現実があることも事実です。

しかしながら教職には「子どもとともに成長する」大きな喜びがあります。

教師をめざす方は、ぜひこの講義を受講してください。教職への道をともに歩みましょう！

教育ネットワーク中国運営委員・エリザベト音楽大学教授 川野 祐二

	12月12日(土)		12月13日(日)
13:15～ 13:50	受 付	9:30～ 11:00	【第3講義】(比治山大学 平田敦義准教授) 教育をめぐる最新事情 ～教育法規・学習指導要領～
13:50～ 14:00	【開会行事・挨拶】	11:15～ 12:45	【第4講義】(広島市教育委員会) 学校現場の実情 ～こんな場面であなたはどうする～
14:00～ 15:00	【第1講義】(広島県教育委員会) 広島県の教員採用試験 ～広島県が求める教師像～	12:45～ 13:30	昼休憩
15:20～ 16:50	【第2講義】(広島県教育委員会) よくわかる授業 ～授業力向上のためのヒント～ 《小学校・中学校・高等学校に分かれて実施。》	13:30～ 15:30	【第5講義】(広島経済大学 志々田まなみ准教授、 採用試験合格者) 私の勉強法 ～教員採用試験合格への道～
		15:30～ 15:45	【閉会行事・アンケート記入】

■FD研修会「3大学からのFD研修取組事例発表」広島工業大学との共同開催

日 時：平成21年11月21日(土)14:00～17:00(66人)

会 場：広島工業大学 三宅の森Nexus21 704号

報 告：(1)田頭 紀和 教授(広島女学院大学 FD研修委員会委員長)

「広島女学院大学のFD 現状と今後の問題点」(質疑応答)

報 告：(2)堀越 孝雄 教授(広島経済大学 教育学習支援委員会委員長)

「広島経済大学における授業公開の取組について」(質疑応答)

報 告：(3)清田 誠良 教授(広島工業大学 HIT 教育機構FD・教育評価部門長)

「FDにおけるPDCAサイクルの構築に向けて」(質疑応答)

報告及び個別質疑を踏まえての最終討論

＜司会・コーディネーター＞ 矢田部 順二 教授(広島修道大学 学習支援センター長)

＜コメンテーター＞ 志々田 まなみ 准教授(広島経済大学)

(2)2010年度ひろしまカレッジ連携公開講座

①シティカレッジ

【主催】教育ネットワーク中国、広島市、(財)広島市ひと・まちネットワーク、開講大学

【会場】広島市まちづくり市民交流プラザ

	大学名	日 程	学問分野	講座名
前期	広島女学院大学	5/19～6/16(水)	人文科学系 外国語・言語学	「求める」(Search for Change)
	安田女子大学	5/29～7/3(土)	人文科学系 文化・文学	「アジアの中の日本ー言葉・文学・歴史から考えるー」
	広島大学	6/4～7/23(金)	複合系 環境	低炭素社会形成に向けて：国際協力学の取り組み
	比治山大学	6/5～7/10(土)	人文科学系 文化・文学	ラフカディオ・ハーンと今日性ー来日120周年を迎えてー
	広島国際大学	6/5～7/3(土)	社会科学系 社会・社会福祉	「続かしこい患者学」
	安田女子大学	7/10～8/28(土)	自然科学系 保健	「身近な病気とくすり」
	広島国際学院大学	9/4～10/9(土)	社会科学系 社会・社会福祉	現代社会と文化の力ー文化の多様性と共生
	比治山大学	9/4～10/16(土)	人文科学系 文化・文学	比治山大学・広島県立歴史民俗資料館・広島県立歴史博物館共催公開講座 『世界遺産の旅』
後期	広島文教女子大学	9/22～10/20(水)	人文科学系 文化・文学	原典で読む『百人一首』
	広島修道大学	10/1～10/22(金)	社会科学系 社会科学その他	結びつくアジアー中国、ベトナム、韓国、そして日本ー
	広島経済大学	10/28～11/30(火)	複合系 複合その他	「人の来し方行く末」を考える
	広島工業大学	11/5～11/26(金)	自然科学系 工学	「人にやさしいクルマづくりと人づくり」
	エリザベト音楽大学	11/5～12/10(金)	人文科学系 芸術	「現代音楽を読み解くー音楽史とその延長線ー」

②ぱれっとカレッジ

【主催】教育ネットワーク中国、広島県教育委員会、開講大学

【会場】広島 YMCA ホール 本館

	大学名	日 程	分 野	講座名
後期	比治山大学	10/9～10/30(土)	人文科学系 文化・文学	『もう一度読んでみたい国語教科書—大人のための日本語・日本文化—』

③大学で開講する公開講座

	大学名	日 程	学問分野	講座名
前期	広島修道大学	4/24・5/8(土)	人文科学系 文化・文学	文学と絵画でめぐるヨーロッパ
	比治山大学	5/8～5/29(土)	人文科学系 心理学	『響きあうところ』
	エリザベト音楽大学	5/28～7/2(金)	人文科学系 芸術	「オルガンに癒されよう」
	広島工業大学	5/29～6/19(土)	自然科学系 自然科学系情報	健康を科学する —安全・安心生活を考える—
	比治山大学	5/29・7/3(土)	人文科学系 教育学	学齢期の子どもの心とどう向き合うか
	県立広島大学	6/3～7/1(木)	複合系 国際関係	今日の東アジア
	広島修道大学	6/11・6/25(金)	人文科学系 外国語・言語学	認知科学で英語を学ぼう 続編
	島根県立大学	5/22～7/3 (土)・(水)	複合系 教養	テーマⅠ「石見を生きる～石見の元気人が話す」
	島根県立大学	6/5～7/31 (土)・(水)	人文科学系 文化・文学	テーマⅡ「外国人教員による比較文化論」
	島根県立大学	5/29・8/7(土)	複合系 教養	テーマⅢ 本と図書館の Waku2 ツアー
	島根県立大学	8/28(土)	複合系 教養	テーマⅣ コミュニケーション力を高める、自己表現力を高める
	島根県立大学	5/14～7/17 (金)・(土)	複合系 環境	テーマⅤ「島根で暮らす、環境共生という生き方」
後期	広島国際大学	9/25～10/23(土)	自然科学系 自然科学その他	「くすり入門」 ～薬を創る、働き方を知る、正しく使うための基礎講座～
	広島大学	9/28～11/16(火)	自然科学系 保健	スポーツを通じた健康学セミナー
	広島修道大学	10/9・10/23(土)	人文科学系 文化・文学	地域と神楽
	安田女子大学	11/13～12/11 (土)	自然科学系 保健	安田女子大学薬学部の市民笑涯学習講座「笑方箋」
	広島修道大学	11/27・12/4(土)	人文科学系 教育学	今の世の中と希望のありかを考える
	広島経済大学	12/9～1/20(木)	複合系 複合その他	広島経済大学 特別客員教授による特別講義

※広島大学、島根県立大学は I C カード受講証発行なし

④エニカカレッジ 教育ネットワーク中国主催講座
 ■これからの教師像 2010

日 時：平成 22 年 12 月 18 日(土)～19(日) (108 人)

会 場：エリザベト音楽大学

学問分野：人文科学系 教育学

参加者：教育ネットワーク中国会員校に在籍する学生と卒業生で養成段階の大学生、教員採用試験を受験予定の方、すでに教職の道を歩み始めている方、この分野に関心のある方など

Enica College

教育ネットワーク中国 ひろしまカレッジ

これからの教師像 2010



**12月
18日
(土)**

**12月
19日
(日)**

受講料 無料 定員 140 人

「あなたの理想の教師像は？」

こんな質問に対して、皆さんは考えがまとまっていますか。

過去の受講生は、本当に充実した2日間だったと感想を述べています。

～・～・～・～・～・～

「実際、漠然とした教師の魅力が身にしみてわかった気がします。教師になりたいという決意がさらに高まりました。」

「教員にならなくてもよいという気持ちもありましたが、講師の方々の話を聞き、教員の夢は諦めないと改めて感じました。」

「どの講義もその講義を聴いて満足するのではなく、『自分で勉強しなくては』と考えさせられるものばかりでした。」

～・～・～・～・～・～

教師の資質向上が求められるなか、学校教育の現場の厳しい現実があることも事実です。

しかしながら教職には「子どもとともに成長する」大きな喜びがあります。

教師をめざす方は、ぜひこの講義を受講してください。教職への道をともに歩みましょう！

教育ネットワーク中国運営委員・エリザベト音楽大学学長 川野 祐二

	12月18日(土)		12月19日(日)
13:15～ 13:50	受 付	9:30～ 11:00	【第3講義】(大学関係者) 教育をめぐる最新事情 ～新たな教育課題への対応～
13:50～ 14:00	【開会行事・挨拶】	11:15～ 12:45	【第4講義】(広島市教育委員会) 学校現場の実情 ～子どもたちのメンタル面のケア～
14:00～ 15:00	【第1講義】(広島県教育委員会) 広島県の教員採用試験 ～広島県が求める教師像～	12:45～ 13:30	昼休憩
15:20～ 16:50	【第2講義】(広島県教育委員会) よくわかる授業 ～授業力アップのヒント～ 《小学校・中学校・高等学校に分かれて実施。》	13:30～ 15:30	【第5講義】(大学関係者・現職教員・採用試験合格者) “私はどうしても教師になりたい!” ～理想の教師像と実情、勉強法～
		15:30～ 15:45	【閉会行事・アンケート記入】

2010 年度 教育ネットワーク中国 研修会

日時	テーマ	開催場所
第 1 回 5/22(土)	初任者 S D 研修(おおむね入職 3 年の若手職員を主対象として) ①事前課題「大学職員の仕事とは」 ②グループワーク ③各グループの発表 ④講演『これからの大学職員に期待される役割について』 広島大学高等教育研究開発センター長 山本眞一教授	比治山大学 64 名参加
第 2 回 6/19(土)	<大学行政管理学会西日本支部との共催> 事例発表: 「夢チャレンジシート～広島経済大学における新たなキャリア支援～」 広島経済大学 キャリアセンター主任 高本登彦氏 事例発表: 「大学における社会人の学び直しと就職支援 ～広島修道大学再チャレンジプログラムの試み」 広島修道大学財務課課長 種田奈美枝氏	広島経済大学 立町キャンパス 79 名参加
第 3 回 10/9(土)	「認証評価」 ～評価のための評価で終わらせないために～ ①広島修道大学(大学基準協会)からの事例報告 広島修道大学総合企画課主任主事 栗原伸治氏 ②広島工業大学(高等教育評価機構)からの事例報告 広島工業大学 清田誠良教授	広島修道大学 29 名参加
第 4 回 11/20(土)	<大学行政管理学会西日本支部との共催> 事例発表:「学校法人の経営改革ー学校法人における財政収支改善の工夫ー」 追手門学院初等・中等事務部長 垣尾和彦氏 事例発表:「教育改革プロセスの課題と教育力向上方策の実践状況 ー第 2 回「大学における教育力向上に関する調査」の概要ー」 女子美術大学教育研究事業部長 新藤豊久氏	安田女子大学 48 名参加
第 5 回 12/11(土)	「基礎学力の向上 F D 第 1 回」 ～理数科目への学習意欲の向上をめざす取り組み～ 基調講演:「大学生の学力低下と初年次教育」 広島工業大学 景山三平教授 共通教育における理数科目の事例報告: 「社会科学系大学における基礎教養としての生物学教育」 広島経済大学 堀越孝雄教授	広島経済大学 立町キャンパス 24 名参加
第 6 回 2/26(土)	「基礎学力の向上 F D 第 2 回」 ～学生の学習意欲の向上をめざす授業づくり・言語科目編～ 事例報告 1 英語教育: 「学生に自信をつけさせる英語カリキュラム開発に向けて ーCan-do アンケートと学習目的に応じた e-learning の活用ー」 広島修道大学 岡田あずさ准教授 事例報告 2 日本語教育: 「広島経済大学における文章表現指導の実態と課題」 広島経済大学 小川俊輔講師	広島経済大学 立町キャンパス 28 名参加

■ひろしまカレッジ受講状況

(単位：人)

ひろしまカレッジ連携公開講座	2009 年度			2010 年度		
	講座数	登録者数	延べ受講者数	講座数	登録者数	延べ受講者数
①シティカレッジ	13	776	2,595	13	747	2,601
②ばれっとカレッジ	2	64	190	1	53	105
③大学で開講する公開講座				18	1,262	2,274
小 計	15	840	2,785	32	2,062	4,980
④Enica カレッジ				1	51	116
これからの教師像※1	1	133	501	1	126	536
教育ネットワーク中国研修会※2	1	66	198	6	289	480
ひろしまカレッジフォーラム	1	64	64	2	156	156
小 計	5	199	699	10	622	1,288
総 計	18	1,103	3,548	42	2,684	6,268

※1

「これからの教師像」は将来教員を目指す、教育ネットワーク中国会員校の学生と卒業生を対象とした講座である。

※2

2009年度はFD研修会のみエニカカレッジとして開講した。2010年度からは研修会をエニカカレッジ(教育ネットワーク中国主催の生涯学習講座)として位置づけた。

■受講者情報

※2009年度、2010年度ICカード受講証所持者データに基づく

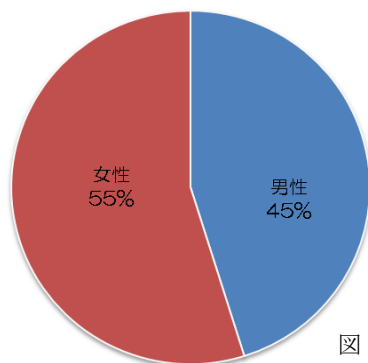


図1 男女比

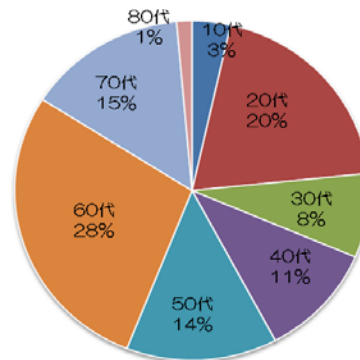


図2 年代別構成図

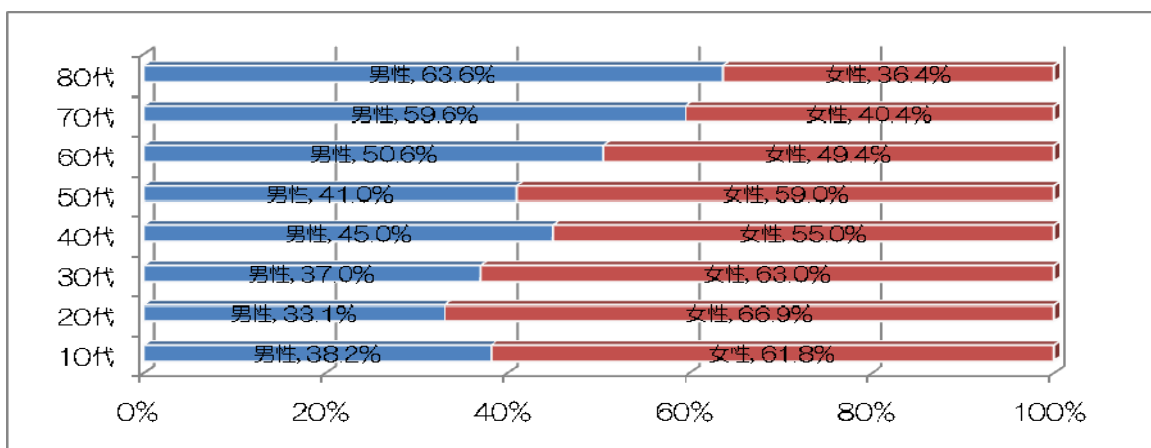


図3 年代別男女比

	人文科学系					社会科学系			自然科学系			複合系				
年代	文化・文学	外国語・言語学	心理学	教育学	芸術	社会・社会福祉	社会科学その他	自然科学その他	工学	保健	自然科学系情報	教養	国際関係	環境	食物・被服・生活	複合その他
80代	5.4%	1.8%	1.8%	67.9%	3.6%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	3.6%	1.8%	0.0%	10.7%
70代	2.7%	0.5%	1.1%	74.9%	1.1%	0.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.5%	0.3%	0.3%	1.4%	13.7%
60代	14.8%	4.2%	2.1%	21.2%	8.5%	5.3%	13.2%	0.5%	0.5%	1.1%	2.6%	0.5%	2.6%	1.1%	5.3%	16.4%
50代	14.9%	6.0%	2.8%	15.3%	8.9%	4.0%	7.7%	0.8%	0.4%	4.4%	2.8%	3.6%	1.6%	2.4%	5.2%	19.0%
40代	27.9%	3.0%	2.5%	11.9%	6.6%	5.0%	8.6%	2.2%	0.3%	3.3%	2.8%	3.6%	3.0%	2.2%	4.1%	13.0%
30代	38.0%	4.5%	1.1%	5.1%	4.4%	8.3%	5.5%	1.8%	1.0%	4.3%	5.2%	2.4%	3.6%	3.1%	4.1%	7.6%
20代	44.9%	4.1%	0.2%	3.9%	2.4%	8.4%	5.3%	1.8%	0.6%	4.7%	5.5%	2.4%	5.5%	1.2%	4.3%	4.7%
10代	39.6%	7.5%	0.0%	1.9%	3.8%	9.4%	1.9%	3.8%	0.0%	3.8%	5.7%	0.0%	3.8%	3.8%	7.5%	7.5%

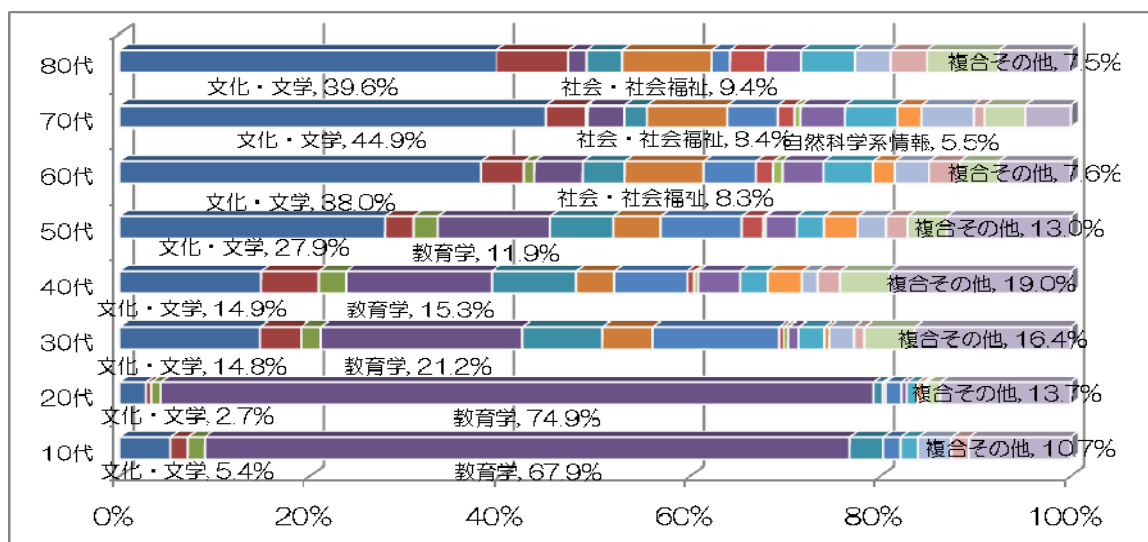


図4 年代別受講状況

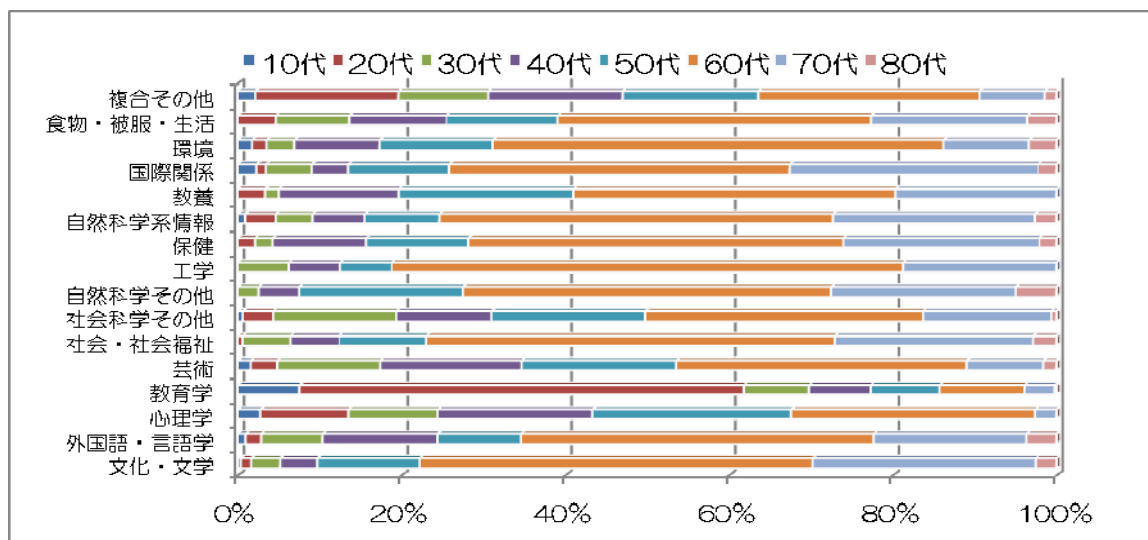


図4 学問分野別受講状況

■ひろしまカレッジ受講申込リピータ状況
(2009 年度)

年代	1 講座	2 講座	3 講座	4 講座	5 講座	6 講座	7 講座	8 講座	9 講座	10 講座	12 講座	14 講座
10代	100%											
20代	96.4%	2.2%		0.7%	0.7%							
30代	76.6%	14.9%		4.3%	2.1%	2.1%						
40代	84.4%	10.9%	3.1%					1.6%				
50代	75.6%	14.6%	3.7%	2.4%	2.4%					1.2%		
60代	61.5%	17.2%	3.4%	8.6%	3.4%	1.1%	1.7%		1.1%	0.6%	0.6%	0.6%
70代	62.0%	19.0%	3.8%	5.1%	5.1%	1.3%	1.3%	2.5%				
80代	66.7%			16.7%				16.7%				
総 計	76.3%	12.1%	2.3%	4.1%	2.3%	0.7%	0.7%	0.7%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%

(2010 年度)

年代	1 講座	2 講座	3 講座	4 講座	5 講座	6 講座	7 講座	8 講座	9 講座	10 講座	11 講座	12 講座	14 講座
10代	96.9%		3.1%										
20代	92.2%	6.2%		0.5%	0.5%	0.5%							
30代	84.3%	9.0%	2.2%	1.1%	2.2%				1.1%				
40代	77.8%	16.2%	2.6%	1.7%		0.9%							0.9%
50代	76.8%	12.8%	4.9%	1.8%	1.8%	0.6%	1.2%						
60代	65.4%	15.1%	8.6%	4.3%	2.3%	0.9%	0.3%	0.9%	0.6%	0.9%	0.3%	0.6%	
70代	66.1%	16.9%	9.0%	1.6%	2.1%	1.6%	0.5%	0.5%		1.1%		0.5%	
80代	66.7%		16.7%		11.1%	5.6%							
総 計	75.3%	12.6%	5.6%	2.2%	1.7%	0.9%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	0.1%

戦略的大学連携支援事業が始まる前までは、シティカレッジとばれっとカレッジでは、講座ごとに申し込みを受けつけていた。そのため、登録に必要な情報をその都度聞かなければならず、同じ受講者がいくつ講座を受講しているのか、よくわからなかった。ＩＣカードを使うようになって、受講者のデータが把握できるようになった。この点にＩＣカード受講証の発行の意義がある。

年度によって異なるが、2008 年度は 1,239 名の登録者数があった。2009 年度は 1,103 名と登録者数は 136 名減少している。2010 年度は「大学で開講する公開講座」(新規)を開講し、登録者数は 2,684 名に増加した。また、教育ネットワーク中国主催の研修会(加盟校教職員、賛助会員向け)をエニカカレッジとして位置づけ、受講管理を一元化したことも登録者数の増加に繋がったといえる。なお、これにはＩＣカード受講証を発行していない大学も含まれている。

受講者の特徴を探ってみると、以下のようになる。

- ・これからの教師像の受講者は大多数が 20 代であるため、これらの受講者を除くと、60 代(28%)が圧倒的に多く、70 代、50 代、40 代がこれにつづいている。
- ・60 代、70 代の受講者の約 36%は 2 回以上講座を受講している。
- ・性別では 50 代までは男性よりも女性の受講者が多い。
- ・教職員向けの研修会(教育学)を除く分野別では 30 代、40 代では複合系その他、50 代以降は文化・文学系の科目の受講者が年代とともに多くなっている。60 代以降になると社会科学への関心が著しく減り、社会・社会福祉への関心が増している。

以上のようなデータの分析ができるのも、ＩＣカードを使用しているためである。

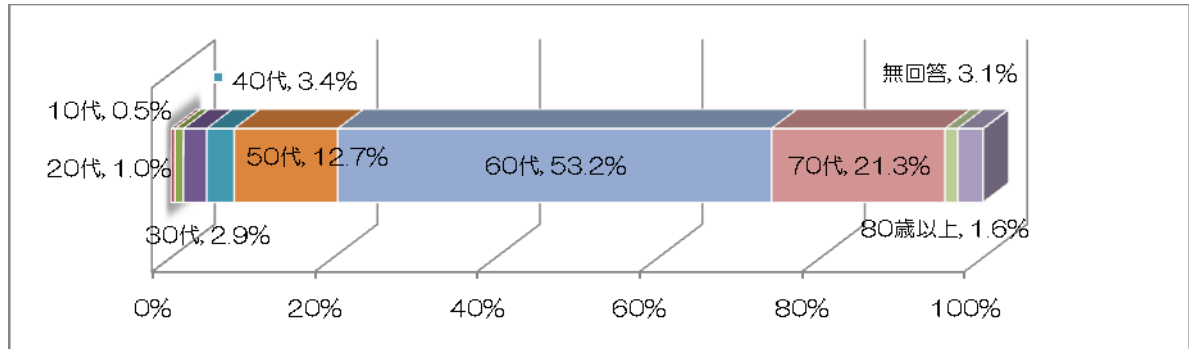
<参考資料>
学問分野一覧表

学問分野		番号
Ⅰ 人文科学系	文化・文学	11
	外国語学・言語学	12
	心理学	13
	教育学	14
	芸術（美術、デザイン、音楽など）	15
	その他	16
Ⅱ 社会科学系	法学	21
	政治学	22
	経済学	23
	商学・経営	24
	社会学・社会福祉学	25
	社会科学系の情報	26
	その他	27
Ⅲ 自然科学系	工学（機械、電気通信、土木、建築など）	31
	理学（数学、物理、化学、生物、地学など）	32
	農学（農学、水産学など）	33
	保健（医学、歯学、薬学、看護など）	34
	自然科学系の情報（情報科学、情報工学など）	35
	その他	36
Ⅳ 複合系	教養（総合科学など）	41
	国際関係	42
	環境	43
	食物・被服・生活（生活、栄養食物、被服、児童など）	44
	その他	45

2010 年度ひろしまカレッジ(シティカレッジ)受講生アンケート

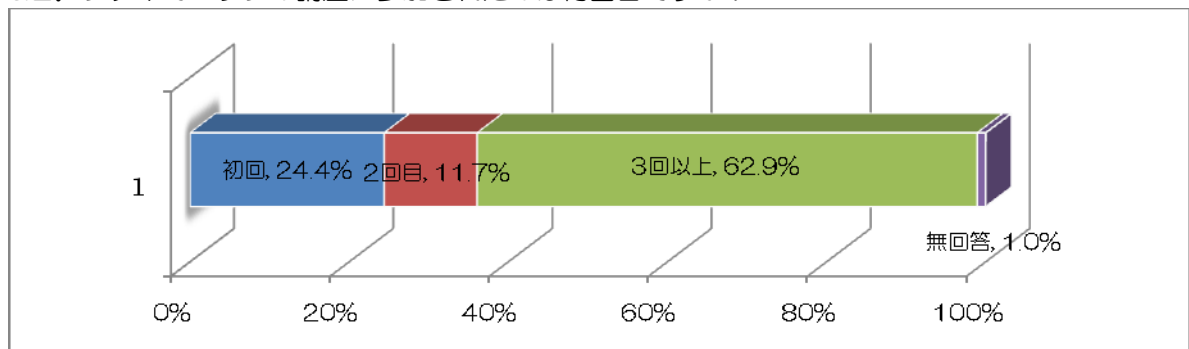
1. 目 的 講座の成果を検証し、今後の企画運営に役立てるために行うもの。
 2. 調査対象者 受講生
 3. 期 間 前期・後期
 4. 調査方法 各大学の講座修了後にアンケートを配布、回収した。
 5. 回 収 率 51.5%(登録者 747 人の内、385 人回収)
- ※(財)広島市ひと・まちネットワークアンケート調査から引用(抜粋)

Q1. あなた自身のことについてお尋ねします。



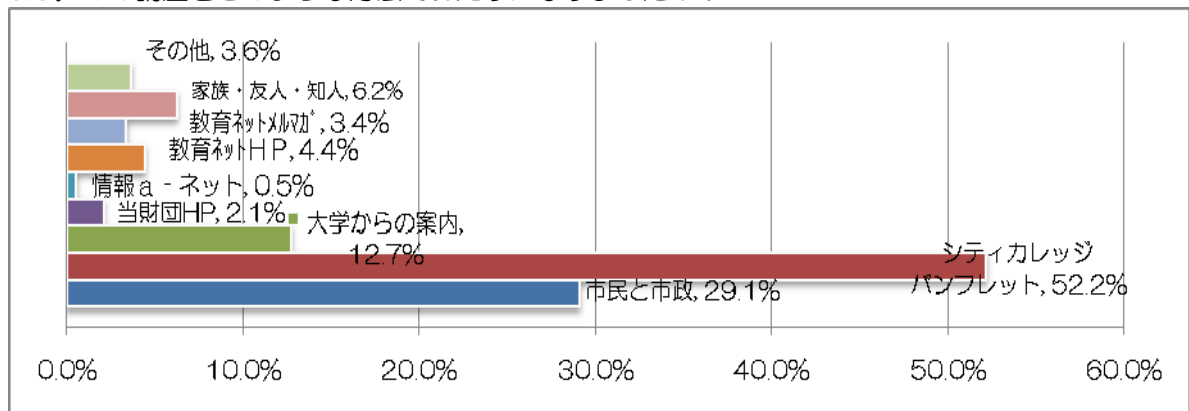
<参加状況について(新規参加率)>

Q2. シティカレッジの講座に参加されたのは何回目ですか？



<広報媒体について> 複数回答可

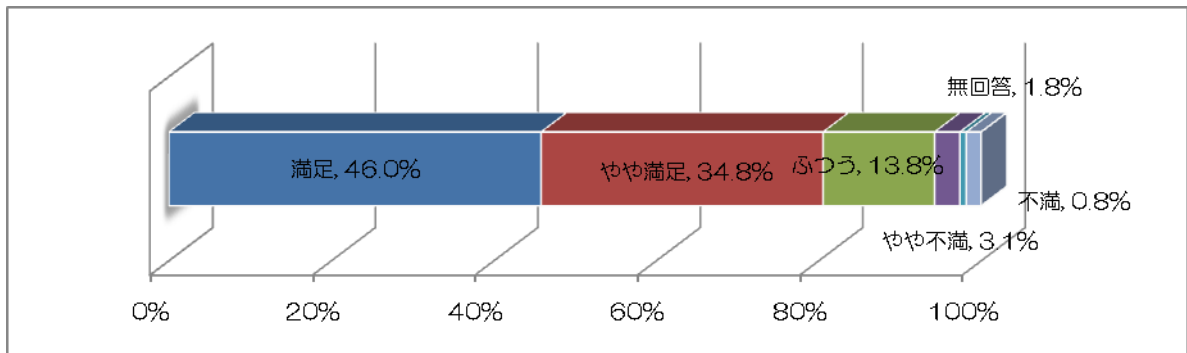
Q3. この講座をどのような方法でお知りになりましたか？



※385 人のアンケート回答の内、440 件の複数の回答があり、教育ネットメルマガ(メールマガジン)13 人(3.4%)、教育ネット HP(ひろしまカレッジ HP サイト)17 人(4.4%)が利用していた。

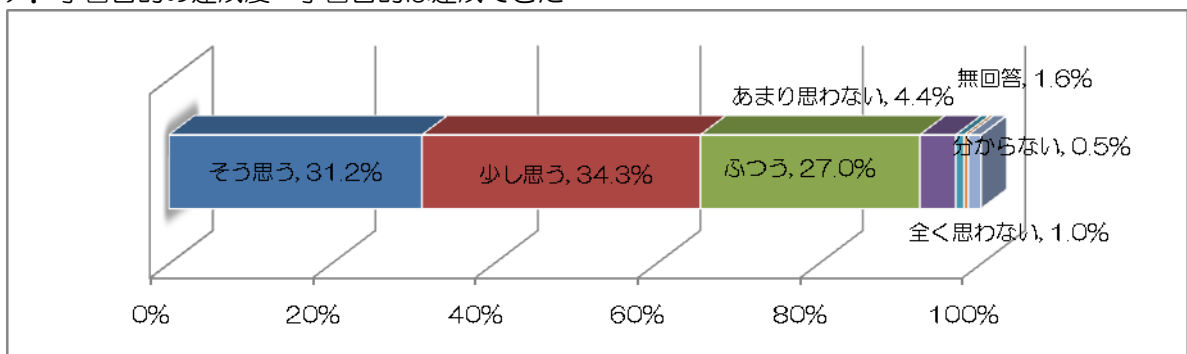
<講座の満足度について>

Q4. この講座に参加して、現在のお気持ちはいかがですか？

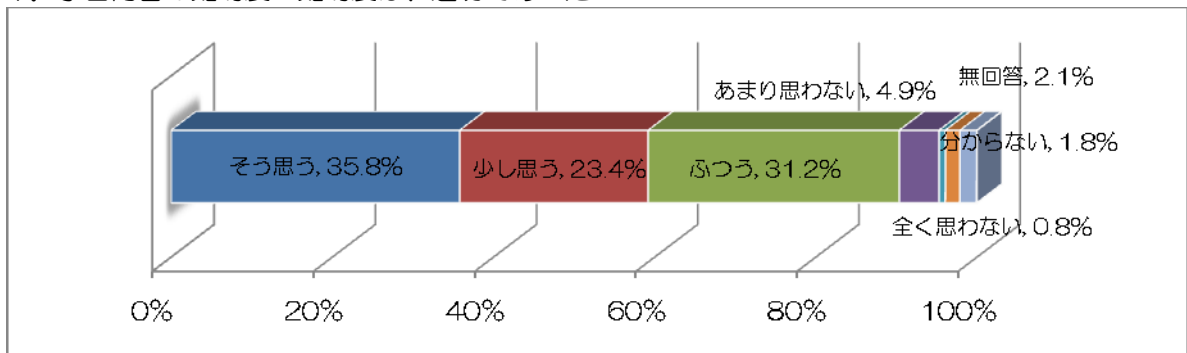


Q5. この講座の学習内容についてお尋ねします

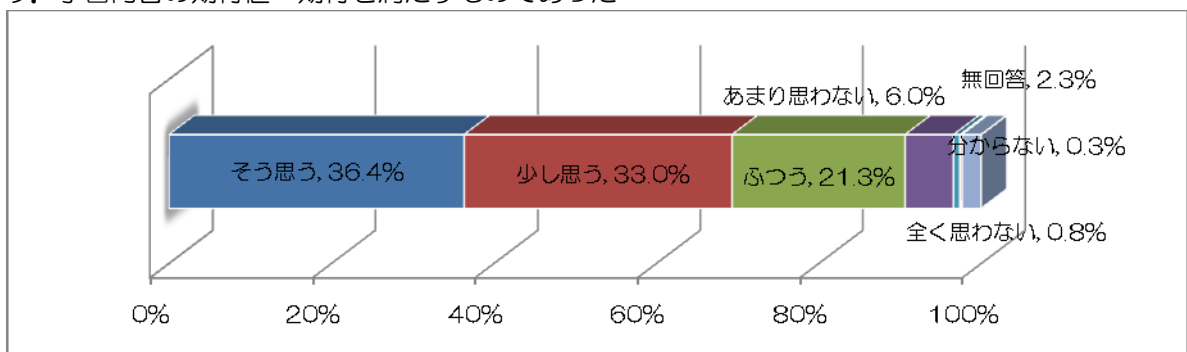
ア. 学習目的の達成度：学習目的は達成できた



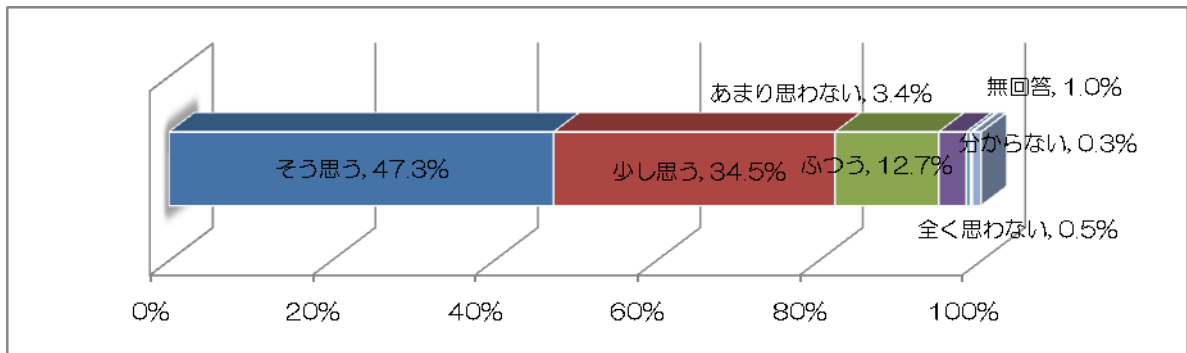
イ. 学習内容の難易度：難易度は、適切であった



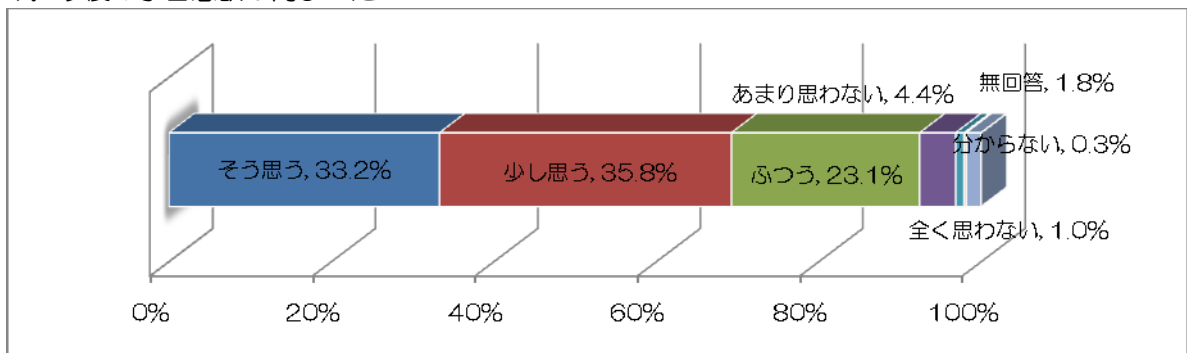
ウ. 学習内容の期待値：期待を満たすものであった



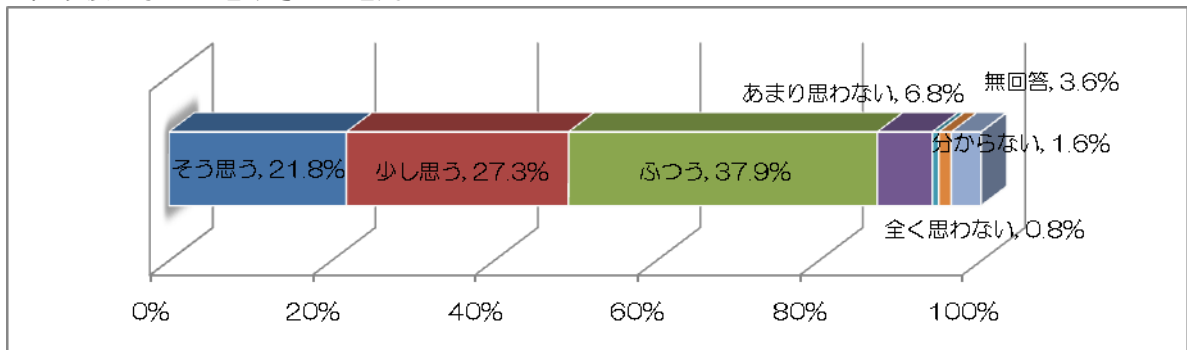
Q6. 講座全体の感想についてお尋ねします
ア. 新たな知識・技能を得た



イ. 今後の学習意欲が高まった



ウ. 今後の学習・活動等への活用



ウで 1 か 2 を選ばれた方は、どのように活用したいですか：(主な回答)

- ・関連書籍を読んで、現地を訪れたい。
- ・学んだことを復習して、さらに関連する勉強をしていきたい。
- ・社会活動など幅広く活用していきたい。・家族の健康維持に役立てたい。
- ・自分の知識の向上のために役立てたい。・自分が学んだことをまわりの人に伝えたい。
- ・学習したことの疑問を少しずつひもとして、自分なりに解釈し幅広く楽しみ学んでいきたい。
- ・孫の勉強に役立てたい。・機会があれば引き続き受講したい。

Q7. 講座運営などのご意見、ご要望：(主な回答)

- ・質問時間をもう少し増やしてほしい。・平日の講座を増やしてほしい。
- ・テキストの字を大きくしてもらいたい。資料は毎回配布してもらいたい。
- ・講師の紹介を入れてほしい。・声が聞き取りにくい先生がいる。
- ・毎回楽しみにしているので講座の継続を引き続き願う。
- ・他のカルチャーとは違い質の高い内容でとても有意義だった。

「ひろしまカレッジメールマガジン」(パソコン・携帯)を定期的に配信し、講座情報の提供を行う。

- ①対 象：メール会員ひろしまカレッジちらし、ホームページ、案内カード等の配布でメール会員の募集を行う。
- ②内 容：ひろしまカレッジ受講案内、講座案内
ひろしまカレッジフォーラム案内
- ③登録者数：277 件(2011.2.28 現在)
- ④配信数：62 回(2011.2.28 現在)



図1 中国新聞社 発行
リクリエ スタイル3月号に掲載



上／学生証のような受講証。受講履歴、出欠記録、講座修了の確認ができる。
左／メールマガジンを申し込むと、パソコンや携帯電話で、瞬時に講座情報を受け取ることができる。

メルマガ

「ひろしまカレッジメールマガジン」(パソコン・携帯)を定期的に配信し、講座情報の提供を行います。

「ひろしまカレッジメールマガジン」
のお申し込みはこちらから

携帯から

空(から)メール※を送って登録できます。

maga@enica.jp

※空(から)メールとは携帯電話から指定されたメールアドレスへ件名・本文の無いメールを送る事で、会員登録等を行えるサービスの事です。

図2 ホームページ登録
<http://www.enica.jp/hiroshima/>

■メールマガジン性別年代別登録者状況(2011.2.28 現在)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	記入なし	合計
男性	0	9	13	36	35	40	12	1	3	146
女性	1	24	21	28	28	16	4	0	3	122
記入なし		0	0	0	0	1	0	0	2	3
計	1	33	34	64	63	57	16	1	8	277

表1 男女比

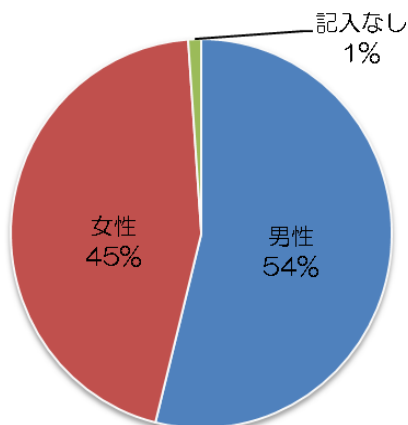
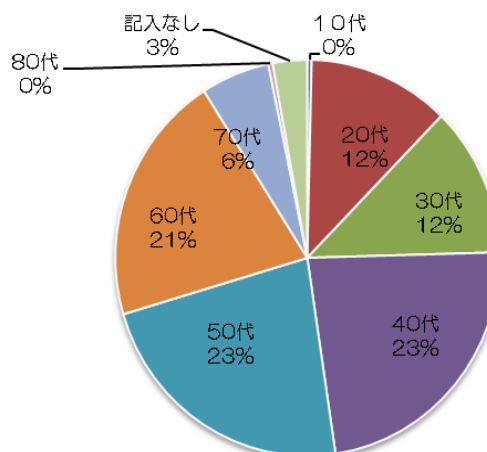


表2 登録者年代別構成図



■第1回ひろしまカレッジ発足記念フォーラム
「世界遺産を結ぶ南北の道」(128人)

日 時：平成21年5月9日(土)13:20~16:40

会 場：エリザベト音楽大学 ザビエルホール

概 要：広島を新しい視点から考える。南北軸、つまり中山間地域や瀬戸内海を結んで横断的に見ていく。

対 象：一般市民

基調報告：落合 功「南北の道を考える。鉄道にかけた夢」(広島修道大学教授)

報 告：

(1)秋山伸隆「厳島神社と石見銀山」(県立広島大学教授)

(2)野原建一「たたら製鉄業の広がり与中国山地」(県立広島大学名誉教授)

(3)山城 滋「銀の道、鉄の道」(中国新聞論説主幹)

パネルディスカッション：

コーディネーター：川野祐二(エリザベト音楽大学学長補佐)

パネラー：落合 功(前掲)、山城 滋(前掲)、野原建一(前掲)、秋山伸隆(前掲)、
林 秀司(島根県立大学教授)



「世界遺産を結ぶ南北の道」

これまで、広島の歴史をテーマにする時、瀬戸内海、山陽道がキーワードであった。たしかに九州(大陸)と大阪を結ぶ大動脈として、きわめて重要な意味がある。広島、尾道、福山、岡山・・・沿海部に多くの都市が林立するが、これが瀬戸内海の港町として発展するのは、中山間地域、山陰の南北のつながりがあったからである。山陰地方と大陸との関係、石見銀山と厳島を掌握することで中国地方一帯を掌握した毛利元就、銀、鉄、木材・・・豊富な資源を有する中山間地域、最新の研究成果を踏まえつつ、歴史的に南北の道を明らかにしつつ、現在、未来を展望する。

日時：2009年5月9日(土)
13:20~16:40

場所：エリザベト音楽大学
ザビエルホール

■基調報告

「南北の道を考える。鉄道にかけた夢」 落合 功氏(広島修道大学教授)

■報 告

「厳島神社と石見銀山」 秋山伸隆氏(県立広島大学教授)

「たたら製鉄業の広がり与中国山地」 野原建一氏(県立広島大学名誉教授)

「銀の道、鉄の道」 山城 滋氏(中国新聞論説主幹)

■学生報告

「厳島街道ネットワークの試みについて」 出雲正樹・田中壮亮(島根県立大学総合政策学部学生)

■演 義

エリザベト音楽大学学生

■パネルディスカッション

コーディネーター：川野祐二氏(エリザベト音楽大学学長補佐)

パネラー：落合 功氏(前掲)、山城 滋氏(前掲)、野原建一氏(前掲)、秋山伸隆氏(前掲)、

林 秀司氏(島根県立大学教授)

総合司会：鈴木法子氏(中国新聞企画サービス 企画事業部)

■参加申し込み方法

参加ご希望の方は氏名・郵便番号・住所・電話番号をご記入の上、往復はがき、

【お問い合わせ先】 FAX、メールで下記までお申し込みください。(締切：5月1日(金))

教育ネットワーク中国「ひろしまカレッジフォーラム」係 TEL 082-209-8045

■往復はがき

〒730-0011 広島市中区基町10-3 広島県庁内 広島県自治会館3F 教育ネットワーク中国

■FAX

教育ネットワーク中国「ひろしまカレッジフォーラム」係 FAX 082-209-8045

■E-mail

E-mail hiroshima@enica.jp 先着：200名

【代表校】

エリザベト音楽大学・県立広島大学・山陽女子短期大学・島根県立大学・鈴鹿女子短期大学・比治山大学・

比治山大学短期大学部・広島国際学院大学・広島国際大学・広島工業大学・広島修道大学・広島女子学院大学・

広島大学・広島文化学園短期大学・広島文教女子大学・安田女子大学・安田女子短期大学

主催／教育ネットワーク中国・中国新聞社

※個人情報につきましてはひろしまカレッジが主催・共催・後援する企画の案内以外には使用しません。

第1回ちらし



写真1 挨拶



写真2 パネルディスカッション

■第2回ひろしまカレッジフォーラム

「技術がつなぐ大学と地域」

～ICカードを利用した連携の現状と今後～(200人)

日 時：平成21年9月16日(水)13:00～16:00

会 場：エリザベト音楽大学 ザビエルホール

概 要：

ひろしまの魅力向上の一つとして、ICカードという新しい技術から広島を捉え直す。電車、バス、JRで利用され始めているICカードが、これからの私たちの生活をどのように便利にしていくのか、広島におけるICカードを利用した地域と大学のつながりを探る。

対 象：一般市民

講 演：

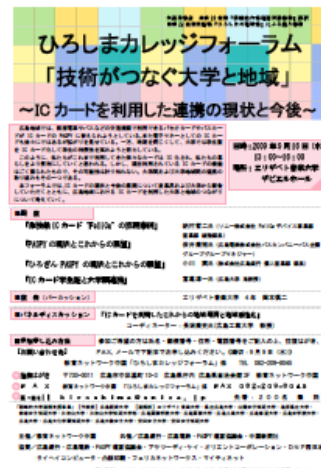
- (1) 納村哲二「非接触ICカード“FeliCa”の採用事例」
(ソニー株式会社 FeliCa デバイス事業部 営業部 統括部長)
- (2) 仮井康裕「PASPYの現状とこれからの展望」
(広島電鉄株式会社バスカンパニーバス企画グループグループマネジャー)
- (3) 小川 実「ひろぎんPASPYの現状とこれからの展望」
(株式会社広島銀行 個人営業部 部長)
- (4) 宮尾淳一「ICカード学生証と大学間連携」(広島大学 准教授)

パネルディスカッション：

コーディネーター：長坂康史(広島工業大学 教授)

パネラー：納村哲二(前掲)、仮井康裕(前掲)

小川 実(前掲)、宮尾淳一(前掲)



第2回ちらし

■第3回ひろしまカレッジフォーラム

「学生による大学と地域の交流フェスティバル」(64人)

日 時：平成22年2月22日(月)13:00～16:00

会 場：エリザベト音楽大学 ザビエルホール

活動報告

【京都】京都学生祭典

秋山 翔(第7回京都学生祭典実行委員長)

【石川】合同学園祭

水野陽介(合同学園祭09実行委員会委員長)

【広島】広島キャンパスフェスティバル

土谷竜也(広島キャンパスフェスティバル09実行委員長)

コメンテーターから

山野高宏(大学コンソーシアム京都 次長)

岡本貞雄(広島経済大学 教授)

森 玲子(広島大学 教授)

パネルディスカッション(15:00～16:00)

コーディネーター：福田 由美子(広島工業大学 教授)

パネリスト：秋山 翔(前掲)、水野陽介(前掲)、
土谷竜也(前掲)

コメンテーター：山野高宏(前掲)、岡本貞雄(前掲)、
森 玲子(前掲)



第3回ちらし



写真3 パネルディスカッション

■第4回ひろしまカレッジフォーラム

「広島におけるICカードを活用した地域連携」(103人)

日 時：平成22年10月22日(金)13:30～16:30

会 場：エリザベト音楽大学 ザビエルホール

概 要：

広島地域では、路面電車やバスなどの交通機関で利用できるICカード、PASPYが普及してきた。また、電子マネーとしてのICカードの利用も進むと共に、大学においても学生証をICカード化するなど、さまざまな分野でその利用が積極的に行われ始めている。今後、さらに豊かな暮らしを実現するために、それぞれのカードが提供しているサービスの連携を考えていく必要があるだろう。

本フォーラムでは、ICカード利用の現状と今後の展開について産業界および大学から報告していただくとともに、広島地域におけるICカードを活用した地域連携と地域活性化について考えていく。

対 象：一般市民

講 演：

- (1) 小川 実「〈ひろぎん〉PASPYを活用した地域連携」
(株式会社広島銀行 個人部長)
- (2) 飯田浩之「nimocaのチカラー地域の活性化と大学連携」
(西日本鉄道株式会社 ICカード事業部 課長)
- (3) 若槻宏二「『学生の自主的活動の評価と教育効果の向上』の取り組みについて」
(島根大学 学生サポートコーディネーター)

パネルディスカッション：

コーディネーター：長坂康史(広島工業大学 教授)

パネリスト：小川 実(前掲)、飯田浩之(前掲)、若槻宏二(前掲)、
若狭利康(広島シティーカード協同組合専務理事)、
番場真吾(中国新聞社経営戦略部長)



本フォーラムは、平成22年度「広島県立大学連携推進事業」の一環として、広島県立大学「ひろしまカレッジフォーラム」により開催されます。

広島における ICカードを活用した 地域連携

広島地域では、路面電車やバスなどの交通機関で利用できるICカード、PASPYが普及してきた。また、電子マネーとしてのICカードの利用も進むと共に、大学においても学生証をICカード化するなど、さまざまな分野でその利用が積極的に行われ始めている。今後、さらに豊かな暮らしを実現するために、それぞれのカードが提供しているサービスの連携を考えていく必要があるだろう。

本フォーラムでは、ICカード利用の現状と今後の展開について産業界および大学から報告していただくとともに、広島地域におけるICカードを活用した地域連携と地域活性化について考えていく。

日 時：2010年10月22日(金) 13:30～16:30

場 所：エリザベト音楽大学 ザビエルホール

参加無料

講 演：「〈ひろぎん〉PASPYを活用した地域連携」
[株式会社広島銀行 個人部長 小川 実氏]
「nimocaのチカラー地域の活性化と大学連携」
[西日本鉄道株式会社 ICカード事業部 課長 飯田浩之氏]
「『学生の自主的活動の評価と教育効果の向上』の取り組みについて」
[島根大学 学生サポートコーディネーター 若槻宏二氏]

座 長：サカソフ・田島 義典 氏
エリザベト音楽大学 学生 佐藤 健一 氏
佐藤 健一 氏
佐藤 健一 氏

パネリスト：「ICカードを活用したこれからの地域連携と地域活性化」
パネラー：小川 実氏 [前掲]、飯田浩之氏 [前掲]、若槻宏二氏 [前掲]、
若狭利康氏 [広島シティーカード協同組合専務理事]、番場真吾氏 [中国新聞社経営戦略部長]
コーディネーター：長坂康史氏 [広島工業大学 教授]

参加申し込み方法：本フォーラムの申し込みは「ひろしまカレッジフォーラム」のホームページから行うことができます。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。

申し込み方法：本フォーラムの申し込みは「ひろしまカレッジフォーラム」のホームページから行うことができます。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。

申し込み方法：本フォーラムの申し込みは「ひろしまカレッジフォーラム」のホームページから行うことができます。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。申し込みは、10月15日(金)18:00までです。



写真4 パネルディスカッション



写真5 講演

第4回ちらし

■第5回ひろしまカレッジフォーラム

「広島学から学生は何を学んでいるのか～広島を教える広島を学ぶ～」(53人)

日 時：平成22年12月4日(土)14:20～16:40

会 場：広島修道大学 7号館 学術ホール

概 要：

多くの大学で広島学を開講しているのは、大学の設置理由による。新しさは、広島地域の社会がかかえている課題を学生の視点から考え解決しようとする試みであったり、地方公共団体との提携によって学生に公的意識を涵養する点にあったりする。

本フォーラムは、地域学を企画する教員及び地域連携を支援する職員から広島学の意義と課題を報告してもらい、研究し活動する学生が広島学をどのようにとらえているのか、広島学の新しいあり方を探る。あわせて経験するタイプの講義の意義と課題を探る。

対 象：一般市民

大学からの報告：

「広島を学ぶ」(ポスター1)

広島経済大学教授 岡本貞雄 岡本ゼミナール 学生

「交流施設を利用した地域活性化」

県立広島大学教授 武藤徳男 武藤・吉野ゼミナール有志学生

「地域つながるプロジェクト～植林で地球を守ろう」

広島修道大学学術交流センター主事 木村太祐 人間環境学部 学生

パネルディスカッション(15:45～15:55)

コーディネーター：川野祐二(エリザベト音楽大学 学長)

パネリスト：学生、岡本貞雄教授、武藤徳男教授、木村太祐



第5回ちらし



写真6 報告



写真7 パネルディスカッション



ポスター1

■ひろしまカレッジフォーラム「技術がつなぐ大学と地域」終了後に開催(40人)

日 時：平成21年9月16日(水)17:30～18:30

会 場：エリザベト音楽大学 ホール

参加者：講師およびフォーラム参加者、教育ネットワーク中国関係者

■シティカレッジ最終講座後に開催(25人)

日 時：平成21年12月19日(土)16:50～18:00

会 場：広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオ

内 容：受講者同士また受講者と講師の交流、親睦を深めることを目的とした茶話会

参加者：広島県立歴史民俗資料館 主任学芸員 田邊英男

広島県立歴史民俗資料館 学芸課長 伊藤 実

広島県立歴史博物館 主任学芸員 西村直城

比治山大学 教授 志田原重人

受講生、(財)広島市ひと・まちネットワーク事務局、

教育ネットワーク中国関係者

参加者に事前に交流会カードを配布した。
回収した交流会カードを基に、交流会を進行し受講生から講座運営の意見や講座に関わる質問が講師に出された。

<主な回答>

(良かった点)

- ・新たに知識が広がり、学習意欲が高まる。(2)
- ・「瀬戸内と中国山地の歴史と文化」はとても興味深く資料館等に行きたい気持ち。
- ・各々の先生はとても興味深くお話をいただき、とてもおもしろかった。(3)
- ・説明が判かりやすかった。瀬戸内と中国山地というものも良かった。質問の時間も有り良い。
- ・専門家の連続講演が受講料無料で聴けたこと。(2)
- ・未知のことが知識として身につけてうれしかった。(2)

(改善してほしい点)

- ・スライドショーで映された映像のコピーを配布してほしい。
- ・机のないのが不便。(2)
- ・質問する時間が欲しかった。(2)
- ・他の講座と日程が重なりとても残念だった。
- ・昼間の講座を増やしてください。・土日の講座を増やしてほしい。・平日の講座を開講してほしい。
- ・テキストは実費を負担してもいいから、全5回分を簡単にまとめて小冊子にしたら便利ではないかと思う。

(質問)

- ・もっと深めていく為に、大学に行けるのか、もしくは、サークル活動などの情報がほしい。
 - ・アンケートが毎回あるので年代別とか地域別とかの結果を公開してほしい。
- (意見、感想)
- ・私は現役の世代なので、土日の開講はとても助かる。シニアの方と、若い世代とで時間を分けてもいいかもしれない。受講料に関しても、無料なのは有り難い。
 - ・1講座2時間は少ない。少し物足りない。4時間にしてほしい。(2回に)
 - ・公開講座の継続を望む。
 - ・毎回楽しみにしている。
 - ・無理だとは思いますが、土日ではなく、月～金にも開催されれば全講座出席できるので検討してほしい。
 - ・来年も是非参加したい。(3年通った)
 - ・自分の大学時代の専攻以外のお話等で非常に興味深かった。
 - ・広島県外の出身者にはとても興味深かった。

<2009年度ひろしまカレッジ交流会カード>

(名前)

公開講座に関するご意見をお聞かせください。本日の「ひろしまカレッジ交流会」にて参考にさせていただきます。

●良かった点	●に質問
●改善してほしい点	●に意見、ご感想

(1)平成 20 年度ひろしまカレッジ連絡会

日 時：平成 20 年 11 月 6 日(木)14:30～16:30

会 場：広島県立生涯学習センター 2 階会議室

内 容：1. 文部科学省 戦略的大学連携支援事業 ひろしまカレッジについて
2. ぱれっとカレッジについて
3. シティカレッジについて

参加者：大学生涯学習担当者、広島県生涯学習課、広島市生涯学習課、
広島市ひと・まちネットワーク事務局、教育ネットワーク中国関係者(31 人)

(2)平成 21 年度ひろしまカレッジ連絡会

日 時：平成 21 年 11 月 2 日(月)14:00～16:30

会 場：広島国際学院大学立町キャンパス(1 階)

内 容：1. 文部科学省 戦略的大学連携支援事業
①2009 年度の開講状況について
②2010 年度連携公開講座の実施について
③2010 年度「大学で開講する公開講座」スケジュールについて
④ひろしまカレッジメールマガジンについて
2. シティカレッジ・ぱれっとカレッジについて
①シティカレッジの実施について
②シティカレッジ実施手順について
3. その他

参加者：大学生涯学習担当者、広島県生涯学習課、広島市生涯学習課、
広島市ひと・まちネットワーク事務局、教育ネットワーク中国関係者(31 人)

(3)平成 22 年度ひろしまカレッジ連絡会

日 時：平成 22 年 11 月 22 日(月)14:00～16:00

会 場：青少年センター3 階 第一集会室

内 容：1. 連携公開講座実施について
①文部科学省 戦略的大学連携支援事業
2009 年度「I C カードを活用したひろしまカレッジ」実施報告
②2010 年度の開講状況(前期)について
③2011 年からの連携公開講座「ひろしまカレッジ」実施について
2. シティカレッジについて
①シティカレッジの実施について(広島市市民局生涯学習課)
②シティカレッジ実施手順について(広島市ひと・まちネットワーク事務局)
3. ぱれっとカレッジについて
①ぱれっとカレッジの実施について(広島県生涯学習課)
4. 大学で開講する公開講座について
5. エニカカレッジについて
①「これからの教師像 2010」実施について
②広島と移民—その歴史と現状— 開催について
6. その他

参加者：大学生涯学習担当者、広島県生涯学習課、広島市生涯学習課、
広島市ひと・まちネットワーク事務局、教育ネットワーク中国関係者(37 人)

交換会では、各大学の参考になるような事例を報告してもらい、それを基にして議論をした。そして参加している教員から各大学でどのような広島学を開講しているのか、報告してもらい、広島学のレベルアップを図るようにした。

(1) 平成 21 年度広島学情報交換会

日 時：2009 年 11 月 28 日(土)14:00～17:00
 会 場：ユリザベト音楽大学 3 階(333 号室)
 講 演：演題 「広島発！夢の通り道」
 佐藤伊佐雄(広島放送株式会社 代表取締役社長)

実例報告：参加大学の実例報告

意見交換：テーマ「地域学を考える」

参加者数：県立広島大学、広島経済大学、広島国際大学、広島修道大学、広島大学、広島文化学園短期大学、広島県、中国新聞社(17 人)



写真 1

(2) 平成 22 年度広島学情報交換会

—広島学と地域課題研究をどのように結びつけるのか—

今年度 12 月に「広島学から学生は何を学んでいるのか～広島を教える 広島を学ぶ～」というタイトルで、ひろしまカレッジフォーラムを開催した。

今回の情報交換会では、このフォーラムを基礎として県立広島大学の「地域文化学(宮島学)」、広島工業大学の「宮島・土曜講座」を担当する教員から、その内容や意義、課題などについて報告していただきます。中国新聞社の論説委員からは、広島学にとどまらず、各地の地域学の事例も踏まえ、これからの展望について、お話しいただきます。あわせて学生が主体となって広島という地域を素材とし、その地域の抱える問題を見つけ、解決しようとするタイプの講義の意義と課題も検討することを目的とします。

日 時：2011 年 2 月 22 日(火)13:30～16:00

会 場：広島 YMCA ホール本館 403 号室

報 告：「県立広島大学の宮島学が目指すもの」

県立広島大学宮島学センター長・人間文化学部学部長 秋山伸隆(写真 3)

同センター助教 大知徳子

「広島工業大学の『宮島・土曜講座』が目指すもの」

広島工業大学「宮島・土曜講座」企画・世話役・環境学部教授 森保洋之

「地域学の意義と可能性」

中国新聞社論説委員 岩崎 誠

参加者数：県立広島大学、広島経済大学、広島工業大学、広島国際学院大学、広島国際大学、広島女学院大学、広島大学、広島文化学園大学、広島文化学園短期大学、広島県、(27 人)



写真 2



写真 3 報告

(1) 市民公開講座「ひろしまカレッジ」とちゅーピーくらぶの連携

「ちゅーピーくらぶ」(中国新聞社が会員の交流、地域文化の向上と地域の活性化を図ることを目的とする)と連携し、ひろしまカレッジの登録者(ICにもこのクラブが会員に対して行う各種のサービスを受けるようにする(ただし、ちゅーピーくらぶに入会を希望する場合)。

「ちゅーピー」との連携によって「ひろしまカレッジ」への関心を増し、講座の情報提供範囲を拡大していくことを目指す。

ちゅーピーくらぶ | 中国新聞 | キャンパスサポート | 大学ナビ

大学と連携し、ちゅーピーくらぶが地域の生涯教育を応援

市民公開講座「ひろしまカレッジ」

TOP | ちゅーピーくらぶ 会員登録 | ひろしまカレッジ 会員特別 | Q&A よくある質問 | ちゅーピーの登録 | ひろしまカレッジ (教育ネットワーク中国)

市民公開講座「ひろしまカレッジ」は、中国地方の大学や短大などが地域の人たちの生涯教育をサポートします。中国新聞社は、ひろしまカレッジの応援と、ちゅーピーくらぶ会員の利便性の向上のため、ひろしまカレッジの登録証に「ちゅーピーくらぶ会員証マーク」を付けました。会員登録、会員特別をお読みの上、ご利用ください。

ひろしまカレッジとは

歴史・文化・環境・健康、多彩な講座

中国地方の大学連携組織「教育ネットワーク中国」が主催する市民公開講座で、従来の公開講座を改編し、2009年度からスタート。各大学の研究者たちが、世界遺産の歴史や、国際環境協力、人間関係力とコミュニケーション、高齢期の健康法、食の安全など多彩なテーマで講義します。

教育ネットワーク中国

【申し込み方法】

各講座で異なりますので、教育ネットワーク中国のホームページでご確認ください。

【講座内容】

人文、社会、自然などの分野で、教養や課題解決、社会参加型の講座が用意されています。

受講証

ちゅーピーくらぶ会員登録マーク付き

ひろしまカレッジの受講証は、最初申し込みの講座の初めに配布されます。受講証は、出欠記録、受講修了が確認できるICカードです。受講証の裏面には、ちゅーピーくらぶ加盟店約4000店で割引などのサービスが受けられる「ちゅーピーくらぶ会員証マーク」が付いています。マークを利用するには、ちゅーピーくらぶへの入会申し込みが必要です。受講の会場で配られる申込書に記入し、会場の受付窓口に出してください。

表面

ひろしまカレッジ受講証

会員番号 0123456

氏名 ヒロシマ カレッジ

教育ネットワーク中国 Education Network to the Chugoku Area

〒720-0211 広島市中区基町1-9 広島県庁1F 1040室

TEL 0822-296-4045 FAX 0822-296-4046

http://www.orion.co.jp

裏面

注意事項

- ※本受講証は、受領の際には必ず持参してください。
- ※本受講証を盗難・紛失した場合は、速に教育ネットワーク中国事務局に届け出てください。
- ※本受講証を他人に貸与又は譲渡することができません。
- ※本受講証を紛失、又は盗難等した場合は速に教育ネットワーク中国事務局に届け出てください。
- ※中国新聞ちゅーピーくらぶ会員は、右のマークを会員証として利用できます。ちゅーピーくらぶ会員番号は正会員証に記されています。

＜ひろしまカレッジ受講証＞ ひろしまカレッジの受講者番号です。ちゅーピーくらぶの会員番号とは異なります。

「ちゅーピーくらぶ会員証マーク」です。

Webサイト

<http://www.chupea-club.jp/chupea/contents/guest/college/index.html>

(2) ICカード受講証の多様化

2010 年度で事業の期間が終了するので、今後 I C カード発行経費及びサーバーなどの管理経費を自己負担する必要性が生まれてくる。この問題に対応するために 2010 年 4 月から、企業と協議し、教育ネットワーク中国が発行するカードだけではなく下記の企業等が発行するカードを受講証として使用することにした。

ひろしまカレッジ受講証として利用できるＩＣカード

- ①ひろしまカレッジ受講証(教育ネットワーク中国発行)
- ②ひろぎんPASPY(広島銀行連携)
- ③PASPY(PASPY発行事業者連携)
- ④Pタッチ(おサイフケータイ)(中国新聞社連携)



詳しくはwebで <http://www.epica.jp/>

ひろしま カレッジ



「ひろしまカレッジ」は、28の大学・短大などが構成する
教育ネットワーク中国の加盟校が提供する生涯学習講座です。
人文・社会・自然などの多様な分野から成る体系的な講座を開講しています。
広島市内の中心部や遠くへの大学で
受講していただけます。



HIROSHIMA COLLEGE

PALETTE COLLEGE

ぱれっとカレッジ

(生涯教育ネットワーク中国・広島教育委員会)

CITY COLLEGE

シティカレッジ

(生涯教育ネットワーク中国・広島市・
広島市人・広島市市民会館事務局)

大学で開講する 公開講座

受講証

ICカードを利用した 受講システム

受講履歴、出入記録、講座終了の確認のためにICカードを利用できます。
パソコンから自分の受講履歴を確認できます。
所属の商業内通インフォメーションの交換に受講証と登録したマークの表示がある講座を受講される方は事前に登録手続きが必要となります。

バスIDや自由サブウェイを登録証としてご利用いただけます。



小倉駅からパレットカレッジまで登録したサブウェイカード

交通系ICカードPASPY

すでに受講証をお持ちの方は、登録手続きは不要です。

※バスIDを登録する際に、バスID番号と乗降するバス路線の区間を各所 電話番号・バスID入力が必要です。



ひろしまカレッジメールマガジン

登録されたアドレス(パソコン・携帯)に講座情報の提供を行います。

「ひろしまカレッジメールマガジン」のお申し込みはこちらから

携帯から

maga@enica.jp

※このメールアドレスで登録できます。



パソコンから <http://www.enica.jp/hirosshima/>

をクリックして登録できます。

※登録したメールアドレスが登録内容と異なる場合は、メールアドレス変更、本文の登録メールアドレスを確認、会員登録確認を行うサービスとなります。

中国新聞★おーピーくらぶとの連携

おーピーくらぶ会員の方で、おーピーマーク入りのおひろしまカレッジ受講証(ひろしまPASPY)を提示する場合は、おーピーくらぶ加盟店で4000円※割増などのサービスが受けられます。

※会員確認が完了後、本人の申し込みに応じますので、ご確認のうえに本人がご来店ください。



(ひろしま)PASPYがひろしまカレッジの受講証としてご利用いただけます。

広島銀行はひろしまカレッジ(生涯学習講座)を応援しています。

詳しくは [私の街のカード](#)

検索

●すでに受講証をお持ちの方

登録手続きは不要です。

各講座の申込方法にしたがって受講申込を行ってください。

1 登録手続き

●初めて受講される方

下記の登録申込書に必要事項をご記入のうえ、ファックスまたは郵送にてお申込みください。

FAX (082)209-0805

郵便先 教育ネットワーク中国

〒730-0111 広島市東区基山1-3-3 広島県庁内 自治会館2F

下記のいずれかをお持ちの方は、受講証としてご利用いただけます。

A・B・Cのいずれか一つを選び、番号をご記入ください。

●ひろぎんPASPY

カード裏面右下の基盤に白字で印刷されている英数字17桁を記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

●交通機関PASPY

カード裏面右下の基盤に白字で印刷されている英数字17桁を記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

●Pタッチカード(おサイフケータイ)

Pタッチカード(おサイフケータイ)の16桁のカード番号を記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ICカード番号の記載方法は、おサイフケータイアプリ(パソナ)から「ICカード」を選択し、「マイID」を選択後、マイID画面から「Pタッチカード」を選択すると、ICカード番号が表示されます。表示内容が分からない方は、中国総務局サービスデスク(電話082-235-0777 / 受付時間9時～17時30分)にお問い合わせください。

A・B・Cのいずれもお持ちでない方は、受講証を発行いたします。
初回の講座までお渡しします。

登録申込書

フリガナ	性別	男	女	生年月日	年	月	日
お名前							
フリガナ				()			
ご住所				電話番号			

※本申込書にご記入いただいた情報は、個人情報となります。当センターでは、個人情報の取り扱いについて厳格な管理を行います。下記の内容のほか、必要に応じて個人情報を第三者へ提供することがあります。この点については、本申込書の裏面に詳しく説明しております。また、本申込書には、個人情報保護法に基づき、本人の同意を得た上で、関係機関等に提供させていただきます。ご了承ください。

2 講座のお申込み

各講座のパンフレットをご覧くださいのうえ、申込方法にしたがって受講申込を行ってください。

※受講料無料、申込方法はホームページでご覧いただけます。

<http://www.enica.jp/>

3 受講当日

受講時に、受講登録をした会員証(ひろぎんPASPY、交通機関PASPY、Pタッチカード(おサイフケータイ))を持参してください。

上記のいずれもお持ちでない方は、

初回の講座で受講証をお渡しいします。

※初回講座に定員を超える場合、遅延はできませんので、

教育ネットワーク中国にご連絡をお願いいたします。

個人情報を取得について	●受講者の受講履歴データは登録された本人の氏名と年齢に基づいて収集されます。	○その他の収集項目
	① 受講履歴データ(受講履歴、退席状況)	② 申し込みの履歴データ(申し込み履歴、お問い合わせ履歴)

Educational Network in the Chugoku Area
教育ネットワーク中国

4 受講証の使用法

講座受講時に、会場入りに設置してあるリーダー状に受講証をかざしてください。

※受講登録者カード読み取り装置までに日数がかかる場合がありますが、読取の遅延は可能です。

ご自分のパソコンで

ひろぎんメールアドレス登録システムから受講履歴、

出欠記録、受講終了の確認ができます。

ひろぎんパスワードをメールへログイン方法

1 ひろぎんパスワードのホームページへアクセス

[受講履歴、出欠記録、受講終了の確認はこちらからボタンをクリック]

2 ログイン画面で受講履歴番号とパスワードを入力し、

[ログイン]ボタンをクリック

ひろぎんのパスワードは既設登録済みの受講履歴で確認できます。

〒730-0111 広島市東区基山1-3-3 広島県庁内 自治会館2F
TEL FAX (082)209-0805 (ひろぎんメールアドレス専用)
E-mail hiroshima@enica.jp URL <http://www.enica.jp/>

(3) その他の連携

ひろしまカレッジの講座情報を、広島銀行の運営する各種媒体（ウェブサイト、ひろぎんバリューメール、利用明細書等）で告知する。

第5章

戦略的大学連携通信／教育ネットメルマガ

1

メールマガジン

参加大学、参加高校、関係団体等とのコミュニケーションを円滑にするために発行した。
内容：コラム、進捗状況、会議報告、お知らせ

■No. 1 2008年11月28日発行

コラム「いま、なぜ地域の大学連携が必要か」

戦略的大学連携事業申請に当たって、教育ネットワーク中国の名前では申請できないという事情があり、広島経済大学が申請書類上の代表校をお引き受けすることになりました。しかしながら事業の推進自体は教育ネットワーク中国が主体であることにかわりありません。広島経済大学は、書類上の代表校とはいえ、文部科学省に対しては窓口としての、また事業の経理担当者としての役割を担うことになりますので、参加校のみなさまのご協力をお願いいたします。

この機会に、なぜいま地域の大学連携が必要かということについて、ひとこと述べさせていただきます。10月4日に中国新聞社主催の第7回広島県大学フォーラムが開催されました。そのとき、出席者の中から「中国地方は首都圏や関西圏の有名大学の受験生獲得のための草刈場になっている。中四国の大学としてと何らかの手を打たなければならないのではないか」という問題提起があり、かなりホットな意見交換が行われました。18歳人口の減少に加え、このことはわれわれにとっては死活問題といえるほど由々しき問題です。受験生を域内の大学に留めさせるには、地域の大学が全国的に有名な大学に負けない魅力のある大学になるよう努力しなければならないことは言うまでもありませんが、それだけではなく地域の大学が連携しあって受験生や保護者からみて文化的、学術的に魅力ある地域になる必要があると思います。とはいえお互いに競合関係にもありますから、連携の形態は、お互いに足らざるを補いながら応分の負担をするという形態で良いと思います。それが連携を継続させる最善の方法ではないでしょうか。

京都は学生の町といわれることがあります。多くの特色ある大学があり受験生は京都大学コンソーシアムという組織は知らなくても、大学間での単位互換や交流があること知っているとされます。このことが、学生を京都に引き付ける一因かもしれません。われわれは京都の持つ古都の魅力には対抗できないかもしれませんが、教育ネットワーク中国参加校の連携によって教育力の高い地域となることによって、受験生を少しでも地域に留まらせることができるかもしれません。いまこそ地域の大学の連携を深めることが大切だと思います。

(代表校・戦略的大学連携委員会委員長 広島経済大学学長 前川功一)

■No. 2 2009年2月6日発行

コラム「ICカード受講証の導入とその活用」

戦略的大学連携支援事業への申請を考える中で、生涯学習講座でICカードを活用した受講システムを導入するのはどうだろうかという声から、その検討は始まりました。大学の学生証に値するひろしまカレッジ受講証をICカード化し、生涯学習講座の受講時に利用し、さらに、地域との連携にも使用したいと考え、導入することになりました。

広島地域では、JRのICOCAや広電やバスのPASPYなどの利用が開始されたことで、急速にその認知度は高まり、ICカードはやっと特別なものではないという感覚を持てるようになってきました。ご存じのとおり、このカードには記憶領域があり、電子マネーで

あれば残高や会員証であれば会員番号などを記憶させておき、それらを使ったサービスを展開しています。

今回発行するひろしまカレッジ受講証は、各講座の出席時に利用します。受講生は講座へ出席するたびにこの受講証を読み取り機にかざし、出席確認を行います。これまで手動で行われてきたこの作業を、情報機器を利用して行うことの意味は大きいと考えています。出席確認時間の短縮という点ばかりでなく、本人認証という点でも重要なものとなります。さらに、得られた出席確認情報は電子化されているため、後の処理もしやすいという特徴もあげられます。ただし、この便利に見える受講証も、持参するのを忘れたり、紛失したりすると、逆に大きな問題となります。この点については、実際の運用で対応できるようにある程度事前に準備をする必要があるでしょう。また、今回のICカード受講証では、受講証自身には必要最低限の情報のみを格納し、残りの重要な情報はすべて、情報を一括管理するサーバコンピュータに蓄積しています。このような仕組みを採用することで、万が一紛失したとしても、重要な情報が流出してしまうことを防ぐばかりでなく、再発行を容易にしています。

また、今回受講記録を電子化したことによって、受講生は自身の受講記録などを、ブラウザを利用して閲覧することができます。このシステムを利用することで、これまで受講した講座名や現在受講している講座の出席状況などを確認することができます。これは、今後、講師と受講生、また、受講生同士のコミュニケーションの場にもなっていくと考えています。

また、今後展開されるであろう、複数の講座を分野横断的に受講した受講生への修了証の発行などの場面にもその威力を発揮すると期待しています。

最後に、今回のICカード受講証は、ちゅーピーくらぶと連携することによって、その利用を生涯学習講座のみに限らず、地域との交流にも利用していきたいというメッセージが込められています。平成21年度から、いよいよICカード受講証とそのシステムが稼働します。受講証のIC化で便利になった部分をぜひ活用していただき、今後の発展にお力添えをいただければ嬉しいです。

(戦略的大学連携運営委員 IC カード担当 広島工業大学教授 長坂康史)

■ No. 3 2009 年 3 月 19 日発行

コラム「戦略的大学連携支援事業 高大連携遠隔授業について」

最近ではインターネットを利用した遠隔授業についての認識も浸透していることと思う。実際には1996年ころからインターネットの教育利用の1つとして実験講義を様々な方法で実施・研究してきた。とにかく音声は滞りなく届かないと、受講生のストレスは多大なものがあることが報告されている。それでも遠隔地で交通の便も悪い場合には、遠隔講義を受講していた時代もあった。インフラの整備が普及するにつれて、ブロードバンド回線(光などを利用した高速通信回線)を利用して遠隔講義が実施可能になりつつある。しかし、遠隔講義を同期型遠隔講義(遠隔地同士で同時に講義を受講する方式)と非同期型遠隔講義(どこでも時間に関係なく好きなときに受講する方式)に分類すると、非同期型は身近に普及しているが、やはり同期型はなかなか教育現場にも普及していないのが現状である。その原因は、ブロードバンドの普及率が関係すると思われる。大学では急速なネットワークのインフラ整備により恵まれた回線状況にあるといえるが、小中高における回線状況は、少ない予算の中でのインフラ料金などを考えると多大な支出を伴うブロードバンド接続などを整備することは困難であると思われる。今回の高大連携遠隔授業では、これら高校側の設備・機器をサポートすることも含めて、高大連携による遠隔授業を実施することで事業として立ち上げたものである。先日の接続実験では、高校のインフラを利用した接続であったため、音声などが途切れる現象が多く、10年前の遠隔授業を思い起こすものであった。これらを解消するべく、電話回線会社などにもご協力をいただき、回線も含めたサポートをさせていただくことで、この後の高大連携の推進に貢献できることを期待したい。

(戦略的大学連携運営委員遠隔授業担当 広島女学院大学准教授 中田美喜子)

■No. 4 2009年4月21日発行

コラム「ひろしまカレッジ発足記念フォーラム開催に当って」

広島サッカーのクラブチームの名称はサンフレッチェで、その淵源は毛利元就の三本の矢の逸話に求められる。一本の矢では簡単に折れるが、三本の矢をまとめて折るのは容易でない。

「三人寄れば文殊の智慧」とは、よくいったもので、複数の人々が結集することで、個々の能力以上の才能を発揮するものである。「大学間連携」を考える時、最も早く想起するのが知の結集であろう。大学教員という人的資源を結集することで、課題解決の糸口を導き出すことが可能となる。一大学だけでは研究グループを組織するのが困難な場合でも、複数の大学が連携することで、研究グループを組織することが可能となるのだ。

5月にフォーラムが開催される。テーマは「世界遺産を結ぶ南北の道」である。この場合、世界遺産とは石見銀山と厳島神社のことである。毛利元就は、石見銀山(宝の山)と厳島神社(海の神)を掌握したことで、中国地方の覇権を確立した。これまで、中国地方(とりわけ広島)の特徴を考えると、瀬戸内海交通など東西の道が視点であった。瀬戸内海は、九州と畿内を結ぶ大動脈であり、日本全国を視点に据えた上で重要な視点となるだろう。しかし、瀬戸内海を視点にすると、「広島」という地域は一つの通過点に過ぎなくなる。

現在、広島県下の中山間地域では過疎化が社会問題となっている。広域合併や一極集中は、地域の特性を薄めることとなり、中央志向を推し進めた。しかし、考えて欲しい。百万都市広島市であったとしても、広島市の発展は広島市だけではありえない。周辺地域によって支えられなければならないのだ。事実歴史的に追っても、中国地方は、中山間地域、山陰地方、山陽地方の特性を生かしながら共生することで発展してきた。中国地方の性格を振り返ってみよう。身近な場所で海水浴ができるし、スキーもできる。気軽に登山ができるし、釣りもできる。気候は温暖で、恵まれた自然環境といえるだろう。山陰、山陽と中国山地の地域間の「連携」こそが重要なキーワードなのである。これらを結ぶ、「南北の道」を考えること。これが本フォーラムのテーマである。

今回のテーマについて、島根県立大学、県立広島大学、広島修道大学、そして連携先の中国新聞の方々が報告者として結集した。また、エリザベト音楽大学で開催されることから、ミニ演奏会が行われる。1大学ではなし得ないユニークなフォーラムが実現するに違いない。

本フォーラムが、テーマ自体の成果が得られることはもちろんだが、「大学間で連携したからこそ」といわれるような成果が得られることを期待したい。

(広島修道大学教授 落合 功)

■No. 5 2009年5月20日発行

コラム「地域の活性化のための教育の充実」

広島県北部は庄原市と三次市、安芸高田市の3市からなり、現在は大学が1校、高等学校が10校ある。しかし、広島県北部は深刻な過疎化・少子化に見舞われ、三次市にあった三和高等学校がすでに閉校となっており、今春は庄原市にある庄原格致高等学校高野山分校が閉校となった。2年後には安芸高田市にある高宮高等学校も閉校となることが決まっている。

また、県北唯一の大学も2学部から1学部に縮小されている。

反面、広島県北部から沿岸部の広島市や呉市、尾道市などにある進学や部活動の有名校に200名を超える生徒の流出が続いている。

そこで、3年前から広島県公立高等学校長協会三次地区支部は、こうした人材流出と過疎化の悪循環を繰り返す「地域衰退の負のスパイラル」からの脱却を目指して、広島県内を中心に大学・短期大学など26校が加盟する教育ネットワーク中国(市川太一代表幹事)と連携して「中高大連携による人材育成」に取り組んでいる。

この「中高大連携講座」は、中学3年生と高校生、保護者を対象に、より高度な学習機会を提供して地元の高校や大学への進学意欲を向上させ、地元の企業に就職する「地域活性化

の正のスパイラル」の構築を目指したもので、広島県北部の3市の教育委員会と中学校長会と連携して実施している。

講座内容は「大学で何を学ぶか」をテーマに、人文・社会・自然・複合の4分野で3市4会場で7月に実施する。8月には高校2年生を対象に「大学入門」「大学で学ぼう」を各大学で実施する。

今年度新たに、戦略的連携支援事業の補助金によるIT技術を利用した遠隔授業に取り組む。高等学校は設備・機器や回線状況に課題があったが、大学関係者などのサポートによって実施できることになった。広島県北部という地理的ハンディキャップを克服し、年間を通して、より高度な学習機会を提供できるシステムとして期待をしている。

またキャリア教育の視点から大学卒業後の地元への就職を促進するため「大学卒業後の進路」「大学卒業後の地域での仕事づくり」をテーマにワークショップなどを実施する。

広島県北部の中学校や高等学校が中央のより有名な上級学校を目指すだけでは「地域衰退の負のスパイラル」を脱却することはできない。道州制の導入などがささやかれる中、中国・四国地方の「知の拠点」としての大学を育て、結果として地域の教育や産業の活性化を図る「地域活性化の正のスパイラル」の構築に取り組んでいる。

(広島県立三次高等学校校長 田邊康嗣)

■No. 6 2009年6月26日発行

コラム「若者と新聞」

自分の子どもが大人になったら、新聞を読んでもらいたいですかー。中学生以下の子どもを持つ親の89%が「イエス」と答え、子どもが成長して新聞を読んでいる姿を思い浮かべています。博報堂DYメディアパートナーズによる首都圏、京阪神圏での調査(2008年)の結果です。同じ調査で未成年者の93%は「大人になったら新聞を読んでいた」と答えています。親の姿を見習っているのでしょうか。新聞は親から子へと読み継がれていく世代を超えた普遍性がある、と調査担当者は分析しています。

家庭の団らんを描いたテレビCMや雑誌の写真、イラストに、新聞を読みながら家族でくつろぐシーンがよく出てきます。「大人・家庭＝新聞」のイメージがCMの作り手、受け手に浸透している、と大手広告代理店の知人が話してくれました。新聞は家族の会話を弾ませます。同時に、自ら情報を探し、記事を読み解き、自分の考えをまとめることのできる媒体でもあります。テレビ、インターネットとはひと味違った役割を担っています。

一方で若者の活字離れ、新聞離れが言われています。地場企業の幹部は新入社員の読解力、文章力、コミュニケーション能力の低さに頭を抱え、新入社員に新聞を読むよう勧めているそうです。しかしながら、比治山大学短期大学部粟屋ゼミの学生による大学生の新聞に対する興味・関心度実態調査(2008年)では新聞を読んでいる学生は42%と半数を切っているそうです。

中国新聞社は新入社員研修の支援のほか、学生に対しても新聞を読むメリットを伝える取り組みをしています。就職活動へ向けての新聞の読み方講座には大学のキャリアセンターなどから多くの申し込みがあります。学内外の話題を報告するキャンパスリポーターも活躍しています。大学祭で新聞連載をベースにしたフォーラムやミニコンサートを催したこともあります。

昨年から比治山大学(教育ネットワーク中国の単位互換)と、広島大学でマスコミ論、ジャーナリズム論の提携講座を開き、記者を派遣しています。「新聞記者に魅力を感じた」「政治欄も毎日見ようと思った」。受講生の感想を聞き、心強く感じています。大学生になったら、就職したら新聞を読む。そんな若者が増えることを願っています。

(中国新聞社ふれあい読者室 部谷 修)

■ N o . 7 2009 年 7 月 22 日発行

コラム「FD・SDのリージョナルセンターを目指して」

12 年目を迎えた教育ネットワーク中国の活動ですが、研修事業については 3 年前の 2006 年度より、実質的な研修委員会を設けて取組んでまいりました。2006 年度は 7 回、2007 年度は 5 回、2008 年度は 6 回、そして今年度は既に 2 回の研修会を実施し、研修参加者の累計は 1、100 名を超えました。過去 20 回の研修会のうち約半分は大学行政管理学会との共催で行うことで、より高度な課題にも取組んできた点に特色があります。

さて、研修事業に取組んで 4 年目を迎える今年度ですが、5 月に開催した第 1 回研修会は、各大学の新生および入職 3 年未満の若手職員を対象とした合同研修を初めて実施し、好評を得ることができました。これをきっかけとした自発的な若手職員の集いも始まった様子で、職場を超えた若手人材の連携という心強い機運が生じています。また、7 月に開催した第 2 回研修会は、大学行政管理学会との共催により、文部科学省大学改革推進室長の今泉柔剛氏を講師に「中長期的な大学教育の在り方」と題した、国の高等教育政策の最先端を学ぶ貴重な研修会が実現しました。

今年度から、従来の事務職員 5 名の研修委員会に新たに教員 3 名が委員に加わり、FD 研修についても強力に推進していく体制が整いつつあります。第 3 回は 9 月 26 日(土)に予定しています FD 研修会「備北地域との遠隔授業(戦略的大学連携支援事業)」です。遠隔授業を実際に担当した教員からの発表と高校側からの報告等を、三次高校と広島女学院大学の教室を結んで、実際の遠隔授業と同様に双方向で行うことにしています。

「教育は国家百年の大計」。平和で幸福な社会を創造するのも、衝突と貧困で行き詰まる社会へと突き進むのも、一人一人の人間の英知にかかっています。各大学には固有の個性とミッションがあります。各大学の個性化・特色化と大学間の連携協力により、質が高く、かつ多様な教育環境を担保することがますます重要になってきています。互酬性の精神に基づく「教育ネットワーク中国」という連携組織がその使命を十二分に果たし、有為な若者が集い、学び、活躍するような、光り輝く地域社会となることを目指して手を携えていきたいです。

各大学独自の FD・SD の取組みに加えて、「教育ネットワーク中国」という私たちの連携組織が「FD・SD のリージョナルセンター」としての役割を果たせるよう、研修委員一丸となって取組んでまいります。倍旧のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(教育ネットワーク中国研修委員会委員長 広島国際大学キャリアセンター長 後藤 寛)

■ N o . 8 2009 年 8 月 21 日発行

コラム「大学間連携への期待」

大学間連携について考えてみたい。

勿論、このテーマについては、より優れた教育を学生に提供する、という観点から考えてみたい。少子化が進み、今 18 歳人口は 120 万人前後となっている。この 18 歳人口 120 万人は 10 年余りこのまま続くと予想されている。加えて、大学を含めた高等教育機関への進学率は平成 20 年で 76. 8%、大学と短大だけでも 55. 3%となっている。40 年前の高等教育機関進学率が 20%余りであったのと比べると、格段に上昇している。このような環境の中での高等教育のあり方を考えなくてはならない。

40 年前は一部の高校生(5 人に 1 人)が進学していたが今や 4 人に 3 人が進学している状況にある。これらは科学技術の進歩や経済環境の改善など社会環境の変化が大いに影響しているものといえる。加えて、各道府県に少なくとも 1 校は設置された国立大学に加えて、この 10 年間をとっても公立大学は 29 大学、私立大学は 145 大学増加している。学生にとっては格段に学ぶ選択肢が増えたことになる。加えて、新しい学問領域に対しても大学側は学生に選択肢を用意し、人間文化学部、情報科学部、環境学部、生命工学部などの学部を新設している。これら多くの選択肢を学生が有効に活用することが可能になってきている。

大学間連携とは以上のような環境の下で、学生交流や教員交流がその中心になるが、単位

互換やSD、高大接続などは比較的取り組みやすく、成果の期待出来る連携であろう。さらには単位互換を発展させて、複数の大学が共同で学部をつくって学位を授与することが可能になり、地域での連携を活用することにより、より充実した教育が実現することになる。地域での大学間連携は、学生同士や教員同士の刺激となる意味でも意義がある。いずれも教育の質を高めるという目的に活用したい。それぞれの大学が持つ資源を有効に活用して、教育、研究の活性化を図る仕組みは、今後益々進んでいくものと思われる。

さらには国際間の大学間連携に発展すると、教育の幅は一層拡大することになる。事実、広島大学ではそのような連携を活かして広島大学とヨーロッパの大学との2つの学位を取得できるシステムを構築し、運用が始まっている。

情報化技術の進歩によりグローバルな世界は益々進んできている。大学間連携は今後グローバル世界に向けて進展し、国際感覚を身につけた若者の育成に貢献するものと期待される。
(広島大学学長 浅原利正)

■No. 9 2009年9月28日発行

コラム「協力と連携～教員の養成と研修～」

この数年間、教育ネットワーク中国の委員として係わっている事業の中で、教員の養成と研修に焦点をあてて「協力と連携」について紹介させていただきます。

■教員免許更新講習(必修講習：12時間)

本講習は12月26日(土)と27日(日)に、教育ネットワーク中国加盟大学の教員が講師となり、エリザベト音楽大学を会場にして実施されます。

多くの大学では8月の夏季休暇期間中に更新講習を実施します。ところが他の時期に講習の開設を願う現場の先生方の希望があることも事実です。「協力と連携」をモットーとするネットワークで何かできないか、と考えました。

教育ネットワーク中国は法人格をもっていないために、文科省への講習開設の申請はエリザベト音楽大学が代行して行い、更新講習の事業推進は教育ネットワーク中国が行います。教育ネットワーク中国の役員会・総会の議を経て、本年4月には「教員免許更新講習実施委員会」が設置されています。将来的には備北地区での開催も検討していますが・・・。

6月の第1次募集には約30名が出願しました。10月1日から第2次募集を行います。この更新講習について、各大学のホームページにおいて情報提供をしていただけると幸いです。リンク先<http://www.enica.jp/menkyo/index.html>です。よろしくお願いいたします。

■公開講座「これからの教師像2009」

本年12月12日(土)と13日(日)に「これからの教師像2009」を広島国際大学・幟町キャンパスで実施します。

「これからの教師像」は、大学生、採用試験受験予定者等を対象とし、広島県教育委員会の後援をえて2005年度からスタートしました。講師陣として加盟大学の教員が、県・市教育委員会、現職・元職の教員と連携して実施しています。充実した講義ばかりで毎回のアンケート結果は非常に好評なのですが、受講生は減少傾向です。少しでも多くの方に受講していただきたいと願っています。

本年は教育ネットワーク中国の「戦略的連携支援事業」の一環として実施するために受講料は「無料!」となります。詳細は10月に各大学にお知らせいたします。

~~~~~

政権が新しくなり、更新講習にしても大学における教員養成にしても視界不良となってきました。今後どうなることやら・・・。

(教育ネットワーク中国教学委員会委員長 エリザベト音楽大学学長補佐 川野祐二)

\*\*\*\*\*

■ No. 10 2009 年 10 月 27 日発行

コラム「FD研修を終えて」

去る 9 月 26 日に女学院大学、三次高校、庄原格致高校をネットワークで結び、高大連携や遠隔授業についての実践報告や今後に役立てるための協議を目的とする FD 研修が行われました。私は、庄原格致高校の情報処理教室において参加しコメントを述べるという大役をいただいた。カメラを見ながら話しをするという経験が少ないので相手が見えないことに不安であったが、双方向通信の活用が今後へ大きな可能性を秘めていると感じました。ただ、通信の技術的な面で音質、音の大きさ、画像のコントロールなど課題も感じたところです。また、大学から多くの参加者があり、大学の先生方の熱心さを感じ我々も大いなる刺激を得ました。

広島県の北部のような過疎地において遠隔授業を実施することにより、大学の先生による授業で専門的研究的な内容にふれることができ、中山間地の高校教育にとって大いなる可能性を感じました。

また、文部科学省は「教育立国」という言葉を使いながら国力を維持発展させるために教育重視で進める構えを示しています。高校側では基礎基本の定着から探求学力まできちんと育成することが求められています。その時に大学側から探求学力の育成という視点で道筋を作ることに協力いただければ、生徒の探求学力を育成する上で効果的であると考えます。高校は生徒を基礎基本から押し上げるように育成し、大学はその専門性から生徒を引き上げるようにご協力いただくことで、我々の教育連携はさらに進み価値あるものになると考えています。

本校はこの秋に遠隔授業を実施する予定にしており、担当者は実施曜日の決定、実施内容、実施回数、参加者の決定など忙しくなりそうです。学校本来の行事日程(修学旅行、高体連の試合など)と調整しながら進めていくように考えています。次年度以降は「総合的な学習の時間」の分野別研究の時間とリンクさせて年間計画の下で進めることができないか、検討しています。

本校のみならず、県北の高校教育の発展充実のため今後ともよろしくお願いします。

(広島県立庄原格致高等学校校長 福山友善)

\*\*\*\*\*

■ No. 11 2009 年 11 月 27 日発行

コラム『教育ネットワーク中国シンポジウム報告

地域で生きる若者のためのキャリア講座「中山間地域における担い手の育成」

平成 21 年 11 月 7 日(土)、「中山間地域における担い手の育成」をテーマにシンポジウムを庄原実業高校体育館で開催した。私がコーディネーターを務め、県内の中山間地域で担い手として活躍する 3 人と庄原実業高校の生徒 2 人をパネラーとして、庄原実業生が将来備北地域で担い手として生きていくことについて意見を交わした。

庄原市東城町でアイガモ農法による安全で安心できる米作りをしている(株)藤本農園の藤本聡代表取締役は、「小学 2 年の担任に農業の重要性和魅力を教えられたこと」が農業を継ぐきっかけであったと述べた。県立大学校を卒業後すぐに就農した藤本さんは、「地元の小中学生への食育教育や都市の消費者との交流を進める中で自らも成長する」ことにやりがいを見出している。

2 人目のパネラーは庄原市高野町で「女子高生キムチ」という斬新な商品名でキムチを全国に販売する北備建設(株)の松森悦子代表取締役である。松森さんは「新規事業で不安もあったがユニークな商品名から多くのマスコミで取り上げられて販売量は増加している」と現状を分析し、今後も地元産野菜を使うことで地域の活性化に役立ちたいと今後の抱負を語った。

愛媛県から大学院修了後にせら夢公園に I ターンした猪谷信忠主任は、世羅町で就職した動機として「学生時代の環境教育の実践者達との交流」をあげた。里山が人の手によって守られている自然であることを、多くの人に伝えることができ、今の仕事に満足している様子

を高校生に伝えた。

生活科学科3年の土河美紀さんは「社員の休日の過ごし方」、生物生産学科3年の横山光亮君は「庄原実業生へのアドバイス」などについて講師に質問していた。

最後に、県立広島大学の野原建一名誉教授は「中山間地域の担い手の充実した仕事を学ぶことができた。今後の指針としてほしい」と全体をまとめた。

庄原実業生を中心に400名の高校生、教員や保護者などが参加し、真剣に講師の声に耳を傾けていたのが印象的であった。

長引く不況で先行きが見えなくなっている高校生に、このシンポジウムを通じて中山間地域で担い手として働くという選択もあるのだと希望を持ってもらえたように思う。

(広島経済大学准教授 山本公平)

\*\*\*\*\*

■ No. 12 2009年12月25日発行

コラム「「広島学」の明日」

グローバル化は、我々地方に色々な基準を押し付けてきた。そして、我々は、グローバル化していくことが自己目的となっていたのではないだろうか。しかし、よくよく考えてみれば、最初からグローバルなものなど存在しない。いつも初めは、ローカルなのである。明日のグローバルは、ローカルのなかにのみ存在しているのである。その意味で、ローカルな「広島学」には可能性がある・・・はずである。

しかし、どこでもやっている「町おこし」としての「広島学」にすぎなければ、面白いかもしれないが、同じ「学」でも「雑学」に終わってしまうだろう。また、「広島」を音で連想するだけに終われば、時に安易な「平和」しか残らない(広島固有の平和は、それだけでも、世界で唯一のものだが・・・)。また、様々な角度から「広島」を分析してみせたとしても、グローバルの一部としてのローカルを表現したことに過ぎないだろう。

広島の各大学では、現在、授業として「広島学」を体験学習型など多様な試みをもっておこなっている。その目的も「出口論」と直結したものや、教員の研究を還元したものなど、多様である。研究面では、県立広島大学等による「宮島学」のような総合的な研究成果もでてきているが、「広島」全体を包含するまでには至っていない。ひるがえって「広島」自体を見るならば、都市としての広島の中核性は失われつつあり、広島県全体も不景気によって元気がない。元気な広島発の企業もあるが、広島県全体からみれば「点」でしかないようにも見える。

ならば、「広島学」とは、どのようなものであるべきなのだろうか。まず、第一に、広島の固有性を世界に発信できるものであり、第二に、地域とともに生きる学問でなければならないだろう。そして、第三に、地域に根ざす各大学の共有財産であるべきである。教育としては、広島発の教養教育であり、研究としては、広島という地域に根ざした創造性ゆたかなものでなければならない。

そして、地域における元気の源は、若者である。その若者の教育機関である各大学が、それぞれの個性を持ちながら、産官学ならぬ地域・学・人の連携を構築し、若者の発想力も活用して、地域に還元する提言機関としてのシンクタンクをバーチャルなかたちでも作るのはどうだろうか。そこで、徹底的に広島の固有性を洗い出し、広島発のグローバルスタンダードを構築する。そうなれば、「広島学」は、本当の意味で「学」となるように思うのだが。

(広島大学文書館長教授 小池聖一)

\*\*\*\*\*

■ No. 13 2010年2月9日発行

コラム「広島を中心とする大学間連携におけるFD研修の新地平」

昨年の11月21日土曜日の午後、今年度第5回目の教育ネットワーク中国による研修会が、広島工業大学の平成21年度第2回全学FD(研修会)との共催という形で、同大学の三宅の森Nexus21で開かれました。

主催校を代表してH I T教育機構長の佐藤先生が挨拶されたあと、広島女学院大学の田頭先生から「広島女学院大学のF D- 現状と今後の問題点」と題して授業評価アンケートと学生カルテの現状分析が紹介されました。つぎに広島経済大学の堀越先生が「広島経済大学における授業公開の取り組みについて」というテーマで全学的授業公開の状況を説明され、さらに広島工業大学の清田先生は「F DにおけるP D C Aサイクルの構築に向けて」と題して同大における授業アンケートの検証方法を解説されました。そして休憩ののち、広島経済大学の志々田先生が3報告の論点を整理・総括され、フロアとの質疑応答をおこないました。詳しい報告要旨は広島工業大学の『H I T教育機構通信』第11号(2010年2月)に掲載されていますので、そちらをご参照ください。

ここでは研修委員の立場から司会を務めた者として、このような研修会が開かれた意味を改めて考えておきたいと思います。

まず指摘したいのは、地の利という点です。研修会後のアンケートにもいくつか記述がありましたが、広島地域の大学教員同士がF Dへの取り組みを披瀝しあうことは、これまであまり例がありませんでした。普通われわれ中国地区の大学に所属する教職員は、大学改革のための研修というと遠く近畿圏や首都圏などに出張します。それが半日の時間で可能になる利点は大きいといえます。

つぎにこのような機会は、互いに中国地区の大学が、大学改革に切磋琢磨する大きなインセンティブになるということです。それぞれの大学のF Dの工夫を自分が所属する大学に当てはめた場合どうなるか、と考えるところにF Dを向上させるカギはあります。これは地域の大学全体の地力を強くすることに繋がるでしょう。

最後に反省点も述べねばなりません。今回の合同F D研修会は初めての経験ということもあって、せっかく66名の参加者があったにもかかわらず、議論が深まったか問題点が残されたように思います。今後、聴衆が参加できるような、より実践的かつ能動的スタイルの研修法が、研修委員会では検討されていると思います。試行錯誤、これこそがF D研修をより確かなものにする究極のコツにほかなりません。

(教育ネットワーク中国研修会委員 広島修道大学学習支援センター長教授 矢田部順二)

\*\*\*\*\*

■No. 14 2010年3月1日発行

コラム『ぱれっとカレッジ「環境に優しい暮らし方」を開講して』

2月6日(土)および13日(土)の午後、「環境に優しい暮らし方」と題した講座を開催しました。会場は、YMCA本館の研修室。参加者は、6日が28名、13日が21名でした。地球環境問題は、今や、あらゆる年代の方々が関心を持つ課題ですが、本講座では、60歳代の男性が主な受講生となりました。

講座は、4コマ構成で、6日に2コマ13日に2コマ実施しました。まず1コマ目は、広島修道大学の森嶋彰先生の担当です。「地球環境問題とは」というテーマで、日頃よく耳にする地球環境問題がどのようなものなのかを、歴史的変遷も含めデータ等を使ってわかりやすく解説してもらいました。

2コマ目は、株式会社福山コンサルタントの技術士であり、広島工業大学の非常勤講師でもある加藤文教先生が担当しました。「環境に優しい交通」というテーマで、CO2を出さない移動手段について講義を受けた後に、受講者が5グループに分かれ、「交通すごろく」というゲームを実施しました。車社会の社会的ジレンマを体感しながら、交通手段を考えるゲームで、グループごとに楽しく学ぶことができました。

3コマ目は、広島工業大学の清田誠良先生が担当しました。「環境に優しい建物」というテーマで、外断熱や屋上緑化など、冷暖房をあまり使わなくてすむ建物の造りについて講義を受けた後、受講者が持参した実際の光熱費のデータを使いながら、「環境家計簿」の活用法について学びました。

そして4コマ目は、広島工業大学の福田由美子が担当しました。それまでの講座を踏まえて、「環境に優しい暮らし方の提案」というテーマでグループディスカッションを行いました。4グループに分かれ、ワークショップ形式で、個人でできること、地域でできること、行政

や企業にやってほしいこと、という3つの切り口でそれぞれ議論し、提案として模造紙にまとめました。生活者としての素朴な提案やユニークな提案など多様な発想があり、参加者全体で発表会を楽しむことができました。最後に、森嶋彰先生に講評をいただき講座を閉じました。

環境をキーワードにいくつかの専門分野の講師が協力してプログラムされたこと、一方的に講義を聴くだけでなく電卓を使つてのCO2排出量チェックをするなど受講者参加型であったこと、グループワークを盛り込んで受講者同士がコミュニケーションをとる機会をふんだんに設けたこと、などが今回の公開講座の大きな特徴でした。かたい雰囲気ではなく、笑い声もたびたび聞こえるような楽しい講座が実施できたと思います。

(教育ネットワーク中国運営委員 広島工業大学教授 福田由美子)

\*\*\*\*\*

■No. 15 2010年4月2日発行

コラム 第3回ひろしまカレッジフォーラム

「学生による大学と地域の交流フェスティバル」を開催して

### 【広島を盛り上げたい】

私達「広島キャンパスフェスティバル実行委員会 LiNkx」は昨年、広島で未だかつて誰も成し得なかった“学生初の無謀な挑戦”をしました。それが『広島キャンパスフェスティバル』開催でした。そして、その時最も強く感じた事は地域の人々や学生たちの応援、支援、また「広島を盛り上げたい」という熱い想いでした。そこで私達は自分達だけではなく、広島の人々も広島を元気にしたいと思っているのだと確信したのです。

今回のフォーラムではその「元気にしたい」という想いをきっかけに学生が動き、全国各地で発信していることや、地域でも盛り上げていこうと活動していることに気づくことができました。そして今回のフォーラムのような交流を通して、全国で繋がっていくことで「日本を元気に」できるのではないかと思うことができました。

京都学生祭典は、コンソーシアム京都が学生をバックアップして町全体で一つの恒例行事になっていると聞きました。

実際に私達の課題であった「学生が集まる場所」は小学校の廃校を行政に貸してもらっていたり、京都府内の学生から一人100円ずつ集めたりと本当に多くの支援がされている点は広島とは異なり、「羨ましい」と思う反面、オリジナルの踊りがしっかりと確立されており文化としての礎を創っていきける経験を積んでいるからだとも思いました。

石川合同大学祭は逆に、県や市、教育機関からの支援もなく学生の力で4年間祭りを立ち上げてきて石川を盛り上げてきて、昨年「学生の街条例」を産み出した点は私達広島キャンパスフェスティバル実行委員会 LiNkx にとって「発信し続ければ、街を動かせる」証明にもなりました。

私達はこれから、“広島キャンパスフェスティバル”を作っていく中で、昨年の反省点を活かし、多くの地域の人々を巻き込んで、私達、学生にしかない視点を大事にしながら、“広島キャンパスフェスティバル”を文化として根付かせていこうと思いました。

石川のように、ないものを求めるのではなく自分達が作っていく。

そして地域を巻き込んでいく。

そこで京都のようにオリジナルな文化にする。

“広島キャンパスフェスティバル”を多くの学生の育ちの場、また地域と一体となれるようなきっかけ、機会にしていこうと思いました。

(広島キャンパスフェスティバル実行委員会代表 広島大学3年 土谷竜也)

### 【主体性を育む合同大学祭】

ひろしまカレッジフォーラムに参加して、改めて「地域と学生たちが連携した学園祭」が与える影響は大きいと感じた。

「学生たちが、自分達で知恵を振り絞ってお祭りを発信することで主体性を得ることができる」という点が、石川県、広島県、京都府の3府県に共通している。学園祭を運営するだ

けで、多くの主体性を必要とする。「運営メンバーをうまくまとめるにはどうすればよいか」「お金を集めるにはどうしたらよいか」「違う学校の人たちとうまく予定あわせられるか」といった内部のことや、「どうやったらお客さんが楽しめるか」「協賛企業にメリットを与えられるか」といった外部のことなど、自分達で責任をもって考える機会がある。どこの府県も、それぞれ工夫して主体性をもって自分達で運営している。また、地域の人たちと関わることで「責任感」を育む経験を積める。3府県とも、イベントを自分達が主催者となって責任をもって運営することで責任が発生しているが、京都は警備といったことも学生で行うなど、社会的責任も果たしている。

地域は、学生が「社会に出て何かを発信する」取り組みを是非これからも応援してほしい。社会との関わりが一番の勉強になる。私自身、「学園祭の打ち合わせの説明不足で企業の人に怒られる」などして社会のルールを改めて学んだ。学園祭に限らず、学生が「社会に何かを発信し主体性を育む」機会が、これからもっと増えて欲しい。

(‘合同学園祭’ 09 実行委員長 金沢大学教育学部学生 水野陽介)

\*\*\*\*\*

■No. 16 2010 年 4 月 30 日発行

コラム「キャンパスリポーター賞の選考に関わって」

「キャンパスリポーター賞」は、大学内の行事や地域連携のニュースなどを取材し中国新聞のウェブサイト「リポーター発」や紙面に積極的に発信した学生(キャンパスリポーター)を顕彰する賞で、平成 21 年度末、中国新聞社と教育ネットワーク中国が共同で設けたものです。私は、初回の同賞の選考に関わる機会をいただきましたが、その過程で、発信した学生にとっての意義をあらためて認識するとともに、この事業が大学間連携事業としての意義も有していると感じましたので、その感想の一端を紹介させていただきます。

キャンパスリポーターの目的は、「キャンパス内外の学生に関する話題、出来事などを発信していただき、キャンパスと読者・地域との橋渡しをしていただくこと」。そして、「学生たちに活字に慣れ親しんでいただき、コミュニケーション力の向上にも資すること」でした。選考を通じて、受賞者の皆さんの新鮮な視点・問題意識に基づく情報発信に感心し、前述の二つの目的が十分に達成されていることを実感しました。キャンパスリポーターが発信した記事は、文字どおり「甲乙つけ難い力作ぞろい」でした。このことは、受賞者が当初の予定の 5 名から 6 名に増えたことから明らかです。また、3 月 26 日に中国新聞社であった表彰式での受賞者の声(4 月 4 日付け中国新聞掲載)からも明らかでした。

さらに、選考を通じて、各大学発の多様な情報の全体に触れることになりましたが、その情報の広がり、地域に立地する大学の連携事業としての側面を感じることができました。すなわち、それは、個々の記事では、リポーターは所属大学等での学びや学生生活について発信していますが、全体的には、リポーターが学んだ地「広島」で学ぶことの意義や魅力、広島での学びの幅の広さを発信している、と感ずることができたのです。キャンパスリポーターの制度や学生諸子が、広島の大学等を目指す若者が増えることに貢献しているのでは、と大いに期待しております。

最後になりましたが、この制度を立ち上げ、粘り強く、丁寧なご指導をいただき、さらに、キャンパスリポーター賞を創設していただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます

(教育ネットワーク中国運営委員 県立広島大学副学長(教育・学生支援担当)藤井 保)

\*\*\*\*\*

■No. 17 2010 年 6 月 1 日発行

コラム「若手職員研修会」の企画・実施を担当して」

5 月 22 日(土)、教育ネットワーク中国の今年度第 1 回目の研修会が開催されました。第 1 回目は、今年も比治山大学様を会場に、おおよそ入職 3 年未満の職員を対象として、「若手職員研修会」としました。昨年と異なるのは、昨年の「若手職員研修会」の参加者の中から、4 大学 6 名のメンバーが集まって今回の研修の企画・実施スタッフを務めた点です。



18歳人口の減少という大学を取り巻く厳しい環境の下、日本の大学および大学職員にとってはこれからがまさに冬の時代です。その厳しい状況に立ち向かう上で、私たち大学事務職員には何が期待され、そしてその期待に応えていくためには何が大切なのか。このテーマの解決に取り組もうと思えば、とても1回や2回の研修会では追いつきません。そのため私たちは、今回の研修会ではテーマを細分化して問題解決について話し合う場を設けるのではなく、それぞれの職員が大学を取り巻く現状について、まずは「知り」、そして「考える」機会となることを目指した研修会を企画しました。

今回の研修会では、最初にテーマに沿ったグループワークを行い、その結果を発表により共有した上で、広島大学高等教育研究開発センター長の山本眞一先生から「これからの大学職員に期待される役割について」と題してご講演いただきました。様々なデータと分析を基に、日本の大学を取り巻く環境とそこにおける大学職員のあるべき姿についてお話いただいた90分間の講演は参加者からも大好評であり、大学職員として働く上でのモチベーションの向上に大きく繋がったと感じました。なお、各グループの話し合については「他大学の職員と話し刺激になった」「他大学について知ることによって自分の大学について考える良いきっかけになった」などの感想があったことを付け加えておきます。

今回の研修会を全体的に見渡してみると、自分の所属する大学や国公立の枠にとどまることなく、同じ大学職員として情報共有をはじめとした人的交流を持つことで改めて大学職員としての自覚と向上心を持つ良い機会になりました。「好敵手」をWikipediaで調べてみると、「一般に好敵手は、何らかの競争関係において、好ましい状態変化を促す存在」とあり、また「英語のライバルは『常に対立し合っている宿敵』という意味で、好敵手という意味合いは無い」とありました。私たち大学職員はこれからの時代に立ち向うためにそれぞれが協力して切磋琢磨し、ライバルという関係を超越した「好敵手」として高等教育の現場である当地域の大学全体を盛り上げていかなくてはならないと改めて実感しました。今回の研修会が今後の大学職員同士の良い「好敵手」関係の構築に役立てば幸いです。

今回の研修参加者の中から広島大学の丸山 操さんに感想と今後の意気込みについて語っていただき、今回の研修報告とさせていただきます(後掲)。

(若手職員研修会 企画・運営スタッフ 広島国際大学職員 綿龍太郎)

### 「若手職員研修会」に参加して

私は入職2年目になりますが、日々の業務に追われる中で、大学全体のことや、大学職員として大学の自身の在り方などを考えることが少なくなったように感じていました。学生と関わりのない部署で働いているため、「教育」機関にいる自覚も薄れていました。そんなこともあり、日常業務から少し離れたところで「大学」「教育」のことを考える機会になればと思い、今回の研修に参加しました。

グループワークでは、様々な大学の職員の方から、それぞれの大学のことを聞き、同じ「大学」でも国・公・私立の違いや、大学の規模等によって、こんなにも違うものかと、驚くような発見が多くありました。職員の採用の段階から様々で、学部数・学生数・教職員数が違えば、職員ひとりに任される仕事も違っていました。お互いの大学の違いを知る中で、自分の大学の特色というものを改めて認識することができました。そして、グループの方と話していて、皆さん自身の大学についてよく勉強をされているし、大学に愛着をもち、真摯なお仕事に取り組んでおられるのだということが伝わってきました。自分もそうありたい、そうなっていきたいと思いました。

山本先生の講演では、日本の大学や、大学教育の現状についてお話を伺い、今後の大学職員に求められる役割について教えて頂きました。少子化や、政治経済の動向は、大学経営にとって決して明るいものではないが、それをただマイナスにとらえるのではなく、大学変革のチャンスととらえようという先生のお話には、大変感銘を受けました。変革の時代の中で、大学職員ひとりひとりの能力や意識の向上が大学にとって重要になってくるのだということを教わり、頑張らなければいけないと、気が引き締まる思いでした。

研修終了後は懇親会にも参加させていただきましたが、研修だけではお話できなかった方々とも交流でき、非常に楽しかったです。こうやって大学の枠を越えた新しい繋がりが広がってゆき、地域全体で大学教育を盛り立てていけたら、とても素晴らしいことだと思います。

した。今後の教育ネットワーク中国の発展に期待しています。

最後に、今回の研修は、自分と同じような若手の大学職員が集まって企画・運営を行っていたということも、私にとっては大いに刺激になりました。

担当された教職員の皆さま、お疲れ様でした。どうもありがとうございました。

(広島大学職員 丸山 操)

\*\*\*\*\*

■No. 18 2010年7月1日発行

コラム「夢チャレンジシート ～広島経済大学における新たなキャリア支援～」

平成22年6月19日(土)広島経済大学 立町キャンパスにおいて、大学行政管理学会 中国・四国地区研究会と教育ネットワーク中国の共催のもと、上記テーマに沿って発表を行った。発表は、以下の6項目について行った。

【1. 夢チャレンジシートの導入の背景】

他大学でも同様のことが言えると思われるが、「多様な価値観を持った学生が入学している」現状を踏まえ、本学においてもこれまでの大学教育の見直しが必要となった。その一つが、夢チャレンジシートであり、本学の場合は、もう一方に興動館教育プログラムがある。

【2. 夢チャレンジシートとは】

夢チャレンジシートは、平成18年度より導入され、学生の埋もれている才能や可能性を見出し、充実した大学生活に結び付けることを目的としている。また、教職員が学生の視点の近い位置に立ち、一人ひとりの個性を活かしたキャリア支援を行う新しい試みである。

また、夢チャレンジシートは、「自分史のページ」「自己理解のページ」「将来のページ」「キャンパスライフを考えるページ」大きく4つのページに分かれている。そして、大学生活での目標を明らかにし、「自己実現のために努力する意識」を高めるためのツールとなっている。

【3. サポーターと個別面談】

サポーターとは、キャリアセンターに所属し、夢チャレンジシートに関する全ての業務に携わる専任職員のことである。サポーターは、学生が記入した夢チャレンジシートをもとに、個別面談を実施する。個別面談では、埋もれている才能や可能性を見出し、有意義な学生生活を送れるよう様々なアドバイスを行っている。入学から卒業まで、学生一人ひとりを元気づけ、成長にかかわりながら「伴走」し、学生と対応している。サポーターと個別面談の方法等を説明した後、面談時の対応例をいくつか紹介した。

【4. 夢チャレンジシートの運用】

年次別の運用方法について説明を行った。また、学生とゼミ担当教員、そしてサポーターとの関係について、図を用いながら説明した。

【5. 夢チャレンジシート提出・面談実施状況】

平成18年度から平成21年度の4年間にわたる夢チャレンジシート提出状況と面談実施状況について、一覧表を作成した上で説明した。

【6. 卒業生の感想】

平成22年3月の卒業生から回答のあったアンケート結果を披露し、学生からの意見を紹介した。

以上6項目について、およそ1時間にわたり話をさせていただいた。聞いておられる皆様が、真剣に聞いていただき、かつメモをたくさん取られていた姿がとても印象に残った。今研修会を通じて、本取組において一定のご理解をいただいたと感じている。

(広島経済大学キャリアセンター主任 高本登彦)

\*\*\*\*\*

■No. 19 2010年7月30日発行

コラム「中高大連携公開講座(保護者対象)を担当して」

7月24日、中高生の夏休みが始まって最初の土曜日、県北の広島県立庄原実業高等学校において、中高大連携公開講座「大学で何を学ぶか」が開催されました。

この事業は、自分の学びたいことはどの学部で学べるのか、また、学んだことはどのような将来の進路につながるのかといったことを中高生並びに保護者の皆様に知ってもらうことを目的としています。

当日は、約300名の学生を対象に、ネットワーク会員の大学から、十数名の先生が集結し、ご自分の専門分野を中高生に分かり易く、しかも興味を喚起させるような内容で約1時間講義しました。また、大学においてキャリア教育や進路指導・相談がどのように行われるのかについての講義や、進学進路相談会も開催され、3時間半の短時間とはいえ、盛りだくさんの内容でした。

その中で、私自身は、20数名の保護者を対象とした講座を担当し、税理士であり、企業経営に携わる者として、私がいつも学生のキャリア形成支援等で講義する際に力説している「受信力」を主軸に、社会に出て必要とされるものについて1時間お話をさせて頂きました。

情報が氾濫している現代、いかに情報をキャッチして、そこから何かを感じ取り、考える力、広い視野から有用な情報を有意義に生かしていく力、これを私は受信力と呼んでいます。テレビや新聞やインターネット、そして人とのコミュニケーション、あらゆる場面で様々な情報が飛び交っていますが、その情報の渦の中でいかに受信力を発揮するか。この如何でその後の人生は大きく変わりうると思うのです。だからこそ、好奇心・知識欲・感受性・創造力・分析力・判断力といった要素を意識的に駆使しながら受信力を磨きましょう。という内容です。これが保護者に皆様にどう受け止められたのか、いささか不安ではありますが・・・・・・

それはさておき、このように県内の大学が一堂に会して、多分野の講座を同時に開催していることを、正直、大学に席を置かない私は知りませんでした。このような機会があれば、県内の大学において多岐に渡る分野の勉強ができることを周知できるし、大学での講義と高校までの基礎的知識の暗記に重点を置いたような授業との違いも明確になり、自分が深く学びたいと思う分野を見つける学生もいるでしょう。私の時代にも、そのような機会があったらと、少々羨ましく思った次第です。

(㈱合同総研代表取締役・税理士 篠原敦子)

\*\*\*\*\*  
■No. 20 2010年 9月1日発行  
コラム「地域人材育成サポートシステム」

中山間地域の次世代を担う人材育成は、地域の将来がかかった重要な課題である。この課題解決には、初等中等教育と高等教育との連続性を踏まえて、創造性や革新性にあふれた優れた人材を地域で養成することが求められている。これを成し遂げるためには、教育関係機関、地域行政及び地元産業界など、地域全体で支援するサポートシステムを作ることが重要である。

平成11年12月、国は「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」という中央教育審議会答申を出し、高等学校と大学との連携を拡大する必要性を指摘した。高大連携は、大学と高等学校との接続を効果的にすることにより、進路意識の向上を図るとともに、大学で学ぶ意義や目的を理解させ、高等学校と大学の接続を円滑にする重要な取組である。これを受け、高校生を対象とした公開講座の実施及び大学教員による高等学校での講義等が行われてきた。

平成20年度、文部科学省が推進する「戦略的大学連携支援事業」に、広島経済大学が代表校として提案された「高大連携による過疎地域の人材育成及びICカードを活用したひろしまカレッジ」事業が採択された。この事業は「教育ネットワーク中国」に加盟する広島県・島根県の18国公立大学・短大が連携し、過疎地域の高校を対象とした出前講座や遠隔授業の提供とICカード受講証を活用した生涯学習講座の提供を行うものである。中でも、立地的に制約がある県北の安芸高田市、三次市及び庄原市の高校生を対象に行われる遠隔授業は、学校での教科・科目を超えた内容の講義を受けることができ、生徒の進学意欲を高めている。特に、双方向による授業展開は生徒の学習意欲の維持に効果的であり、その成果に大きな期待が寄せられているところである。

今後、この事業に中学生及び小学生並びに地域住民等の参加を積極的に推進し、ネットワークを一層拡大するとともに、より効果的な事業の展開となるよう、地域の教育関係機関、関係行政機関及び地元産業界が一体となり「地域人材育成サポートシステム」(仮称)を構築する必要がある。それにより、都市部に負けない学習環境を作り、地域に根ざした人材育成が促進され、地域貢献に大いに寄与することができると考える。そのためにも、地域と一体となった取組を一層進めて参りたい。

(広島県立三次高等学校校長 梶原督三)

\*\*\*\*\*

■No. 21 2010年 10月13日発行

コラム「教育ネットワーク中国」との連携について」

「教育ネットワーク中国」は市民公開講座「ひろしまカレッジ」において、全国でも先進的な取り組みである非接触型ICチップを活用した受講証の検討を平成20年に開始され、平成21年から実際の運用を始められました。

一方、弊行(広島銀行)では、平成17年から接触型ICチップを搭載したキャッシュ・クレジット一体型カード「〈ひろぎん〉バリューワン」、平成21年から非接触型ICチップを搭載した「〈ひろぎん〉PASPY」の発行を開始致しております。

その他にも、世の中では様々な分野でICチップが活用されておりますが、その殆どが各団体(企業)毎での活用に止まっております。

しかし、今般「教育ネットワーク中国」と弊行の間で協定を締結し、「ひろしまカレッジ」の受講証として弊行の〈ひろぎん〉PASPYをご利用頂ける事となり、全国的にも珍しい、産学間でのICチップを活用した連携となりました。

協定書締結の恩恵は、「ひろしまカレッジ」受講者の方・教育ネットワーク中国・そして弊行の関係者全てにもたらされるものです。

また、この度の連携は、2社間の連携に止まらず、今後益々広がっていく可能性を秘めた連携でもあります。地域に密着した教育機関と、地域に根ざした金融機関に加え、今後は様々な業種の地元企業様との連携に拡大・発展するものと確信しております。

こういった、幅広い分野に跨った連携実現により、地域での情報還流が活発となり、ひいては経済の活性化へ波及していくものと思っております。

この度の協定書締結は、今後のICチップの活用方法を大きく変革するきっかけになるものと思っております。

広島での取り組みが、全国へ広がっていくモデルケースになるのではないのでしょうか。

(広島銀行個人部個人ローン室担当課長 倉本英一)

\*\*\*\*\*

■No. 22 2010年 11月2日発行

コラム「西鉄ICカード『nimoca』 — 地域活性化の取り組み —」

西鉄グループは85社で構成され、福岡県を中心として、バス・鉄道の運輸、流通、不動産、ホテルなど様々な事業を行っています。グループの中核企業である西日本鉄道(株)は平成20年に創立100周年を迎えましたが、新たな時代への転換期となるこの節目の年に、ICカード

『nimoca』のサービスを開始しました。

『nimoca』は、“バスにも、電車にも、お買い物にも、いろいろ使えるカード”を意味しており、「公共交通の利用促進」と「地域の活性化」を目的として、地域カードを目指して、現在、グループをあげて事業を推進しています。

デファクトスタンダードとなったフェリカ規格のICカードにプリペイドカード機能を搭載し、バス・鉄道での乗車券利用、ならびに電子マネー利用を決済機能として有し、さらに乗車券利用や電子マネー利用で共通ポイントがたまり、それがまた乗車券や電子マネーとして利用できるというカードサービスです。このような、「交通と商業の共通ポイントサービス」は全国ではじめての試みです。バス・鉄道利用のお客さまを商業へ、商業利用のお客

さまをバス・鉄道へと相互送客を進めることで、公共交通の利用促進と地域の活性化を進めていきたいと考えています。

バスは約 3,000 台の西鉄バスと佐賀県の昭和バス(一部)および大分県内のバス(一部)がご利用いただけるほか、鉄道では当社の天神大牟田線・貝塚線全線でご利用いただけます。また、電子マネーとしては、福岡県内を中心に加盟店を拡大しており、百貨店やショッピングセンター、スーパーマーケット、コンビニ、レストラン、ドラッグストア、書籍店、駐車場、飲料自動販売機など 2,000 を超える利用店舗となっています。

さらに、本年の 3 月からは、西鉄(nimoca)、JR 九州(SUGOCA)、福岡市交通局(はやかけん)、および JR 東日本(Suica)と IC 乗車券・電子マネーの相互利用を実施しており、いずれか 1 枚のカードで各エリアのすべてのバス・鉄道や電子マネー加盟店でご利用いただける規模のサービスとなっており、現在、着実に利用が拡大している状況にあります。

今後とも、カードの利便性を高めるためにサービスの拡充と利用施設の拡大を推し進め、カードの普及と利用を拡大することで、公共交通の利用促進と地域の活性化に寄与していきたいと考えています。

福岡にお越しの際は、ぜひ nimoca カードをご利用いただきまして、その利便性を実感いただければ幸いです。

(西日本鉄道株式会社 IC カード事業部課長 飯田浩之)

\*\*\*\*\*

■ N o. 23 2010 年 12 月 13 日発行

コラム「商店街～市民～大学生」

商店街には毎日沢山の人が訪れます。特に広島市中心部、本通近辺ともなると平日で 2 万人、土日には 4～5 万もの人たちが行き交います。そこには出会いと賑わいがあり、街文化が生まれます。それを支え、育み、環境を整えるのが商店街の店主で組織する「組合」の役目です。現在 60 歳代となった「団塊の世代」が若かりし頃は、彼らで組織された「青年部」が考え、行動することによって商店街を支えていましたが、景気の後退、郊外への大型商業施設の進出などによる老舗の閉店、そして高齢化による青年部員の激減などの理由により、商店街を支える人間が減っているのです。

そこで期待されるのが「市民・学生との協働」です。広島のだ真ん中から広島を盛り上げるための活動がしたい、自分の得意分野を生かした活動がしたい、そんな人たちが商店街に集まれば、街は活性化し、広島はもっと楽しくなるでしょう。そんな思いを商店街と市民とで共有して出来上がったのが「NPO 法人セトラひろしま」という組織です。

今年で 8 年目となるセトラでは、これまで賑わい作り、グリーン環境整備、そして文化発信などの事業を続けてきました。それぞれの事業で得意分野を持つリーダーが活動していますが、そろそろ高齢化しつつあります。それを引き継いで持続してくれる人材が不足しています。これまでセトラでは主に市民が主となって活動してきました。勿論、局所的に大学生にも手伝ってもらったこともありましたが、あくまでボランティア的な部分のみでした。本来は、自由で行動力のある大学生にコンセプト形成から関わってもらいたいと思っています。これはセトラ設立当初からの思いなのですが、なかなか実現していません。その主な理由は「時間的活動限界」です。意欲的な学生さんが現れても活動できるのは長くても 3 年間、それで終わってしまいます。そうすると継続事業が成立しないのです。そこで、大学自体と先生の協力が不可欠になります。大学から持続的に人材の供給があれば事業が続けられますし、大学としても実践教育の一環として位置づけられるでしょう。これは一時的なインターンシップではなく、長期間の「授業」とするべきでしょう。そうでなければ双方にメリットがありません。これをなんとか実現できればと願っております。

また、商店街を大学生の皆さんの自由な発表の場に、とも思っています。公共空間を使うのは様々な制約がありますが、お互いが頑張ればなんとかなるものです。是非とも商店街・市民・大学で広島を盛り上げましょう！

(NPO 法人セトラひろしま理事長 若狭利康)

\*\*\*\*\*

■No. 24 2011年 2月 4日発行

コラム「留学生活躍支援センター(仮称)設立に向けての取組」

広島県では、平成20年3月にまとめた人づくりビジョンで、「活力ある人づくりと人を活かす社会づくりで、国内外から人材が集まる魅力ある元気な広島県」をめざすこととしました。

広島県国際課では、県内全市町に外国人相談窓口や日本語学習支援窓口を決めていただくとともに、(財)ひろしま国際センターに6か国語による相談体制を整備するなど、外国人が暮らしやすい、多様性を受け入れ活かす多文化共生の地域づくりを進めています。

また、留学生の受入・定着を進めるために、平成21年度に、県内の大学、経済・国際関係団体、行政など20団体で、留学生の受入・活躍支援のために取り組むべき方向と事業を検討し、22年度には、34団体により、事業推進を担う組織づくりを検討しました。

その結果、平成23年度から、留学生の活躍支援のための新たな組織として「留学生活躍支援センター(仮称。以下、センター)」を設立して、産学官が連携したオール広島での取り組みを開始することとなりました。現在、40近い団体がこの組織への参加を表明しています。

このセンターの事務局は、大学コンソーシアムである教育ネットワーク中国にお願いすることとしており、昨年12月の総会でご承認をいただきました。

センターでは、留学生の受入促進、勉学・生活支援、就職支援の3つの柱で事業を進めることとしており、具体的には、留学生の受入促進のための海外での県内大学の紹介や広島の産業・魅力のPR、留学生の住居確保支援、留学生の県内就職を支援するための実用日本語研修や就職セミナー、留学生のための情報提供サイトの開設などに取り組むこととしています。

なお、センターの運営経費は、大学と行政が分担して負担することとしており、県も独自の追加支援を行う予定です。また、事業実施にあたっては、(財)ひろしま国際センターなどと密接に連携して進めることとしています。

このような、大学コンソーシアムを事務局として、大学や経済・国際関係団体、行政などが幅広く参加して、地域を挙げて留学生の受入・定着に取り組むことは、全国的にも珍しく、大きな成果が期待されます。

グローバル化が進む中で、県内の学生の国際的な視野を広げ、地域の変化と活力を生み出すためにも、優秀な留学生の受入・定着は重要な課題であり、県としても、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

(広島県企画振興局国際課課長 橋本康男)